

西ノ辻遺跡第10次発掘調査報告書

— 遺物編 —

1989

東大阪市教育委員会
財団法人 東大阪市文化財協会

序

東大阪市には130か所余りの埋蔵文化財包蔵地が知られており、従来よりこれらの保護、調査に努めてまいりました。このたびの国道308号線における新鉄道建設や、道路拡幅・延伸に伴う一連の発掘調査は、東大阪市のほぼ中央を東西に横切るかたちで実施され、これまでにない大規模なものとなりました。

弥生時代の遺跡としてかねてより著名でありました西ノ辻遺跡もこうした調査の結果、縄文時代から室町時代までの埋蔵文化財が確認され、重要な考古遺物も多数出土しました。

今回発表いたします第10次発掘調査でも、これまでに例をみない古墳時代の水利遺構、室町時代の集落遺構など、これまで知られることのなかった当遺跡の姿が明らかになりました。

本「遺物編」では、そうした調査成果のなかから、出土遺物をとりあげ、その概要をまとめました。それらを通じて、より一層文化財保護に御理解いただけることを願ってやみません。

なお、発掘調査および整理作業に御協力いただいた東大阪生駒電鉄株式会社（現在 近畿日本鉄道株式会社）、大阪府八尾土木事務所、大阪府教育委員会、大成建設株式会社、およびその他の関係各位に感謝いたします。

平成元年 3月31日

財団法人 東大阪市文化財協会
理 事 長 木 寺 宏

例 言

1. 本書は東大阪生駒電鉄株式会社が実施した東大阪都市高速鉄道東大阪線建設事業ならびに、大阪府八尾土木事務所が計画した国道308号線および都市計画道路築港枚岡線建設計画事業に伴う西ノ辻遺跡第10次発掘調査の概要報告の一部、遺物編である。
2. 本調査は財団法人東大阪市文化財協会が、東大阪生駒電鉄ならびに大阪府八尾土木事務所
の委託を受けて実施した。現地調査の期間は昭和58年12月1日より昭和59年9月10日まで実施した。
3. 発掘調査および整理作業は以下の事務局体制のもとにすすめた。(昭和63年4月1日現在)

事務局長	木寺宏 (東大阪市教育委員会教育長)
事務局長	寺沢勝 (東大阪市教育委員会社会教育部参事)
庶務部長	下村晴文 (東大阪市教育委員会文化財課主任)
調査部長	原田修 (東大阪市教育委員会文化財課主査)
庶務部	安藤紀子 (東大阪市教育委員会文化財課) 上野節子 (財団法人東大阪市文化財協会)
調査担当	松田順一郎 (財団法人東大阪市文化財協会) 中西克宏 (財団法人東大阪市文化財協会)
4. 遺物写真の撮影はスタジオGFプロに委託した。

目 次

序

例言

I 調査に至る経過	1
II 西ノ辻遺跡の位置と環境	3
III 調査経過と層序	6
IV 出土遺物	
1. 出土状況	12
2. 鎌倉～室町時代の遺物	14
3. 奈良・平安時代の遺物	17
4. 古墳時代の遺物	21
出土遺物観察表	22
5. 弥生時代の遺物	32
出土遺物観察表	35
V まとめ	36

挿 図 目 次

図 1 中世遺物出土状況	2
図 2 西ノ辻遺跡周辺遺跡分布図	4
図 3 古墳時代水利遺構検出状況	5
図 4 調査地地区割	8
図 5 調査地西辺断面図	10

図版目次

- 図版一 出土遺物実測図（土器類）
図版二 出土遺物実測図（土器類）
図版三 出土遺物実測図（土器類）
図版四 出土遺物実測図（土器類）
図版五 出土遺物実測図（土器類・土製品・瓦）
図版六 出土遺物実測図（土器類）
図版七 出土遺物実測図（土器類）
図版八 出土遺物実測図（土器類）
図版九 出土遺物実測図（土器類）
図版十 出土遺物実測図（土器類）
図版十一 出土遺物実測図（土器類）
図版十二 出土遺物実測図（土器類）
図版十三 出土遺物実測図（土器類・土製品・瓦）
図版十四 出土遺物実測図（土器類）
図版十五 出土遺物実測図（土器類・瓦）
図版十六 出土遺物実測図（土器類）
図版十七 出土遺物実測図（土器類）
図版十八 出土遺物実測図（土器類・埴輪）
図版十九 出土遺物実測図（土器類）
図版二十 出土遺物実測図（土器類）
図版二十一 出土遺物実測図（土器類）
図版二十二 出土遺物実測図（土器類）
図版二十三 出土遺物実測図（土器類）
図版二十四 出土遺物実測図（土器類）
図版二十五 出土遺物実測図（土器類）
図版二十六 出土遺物実測図（土器類）
図版二十七 出土遺物実測図（土器類）
図版二十八 出土遺物実測図（土器類）
図版二十九 出土遺物実測図（土器類）
図版三十 出土遺物実測図（土器類）
図版三十一 出土遺物実測図（土器類・土製品）
図版三十二 出土遺物写真（土器類）

- 図版三十三 出土遺物写真 (土器類)
- 図版三十四 出土遺物写真 (土器類)
- 図版三十五 出土遺物写真 (土器類・土製品・瓦)
- 図版三十六 出土遺物写真 (土器類)
- 図版三十七 出土遺物写真 (土器類)
- 図版三十八 出土遺物写真 (土器類)
- 図版三十九 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十一 出土遺物写真 (土器類・瓦)
- 図版四十二 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十三 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十四 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十五 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十六 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十七 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十八 出土遺物写真 (土器類)
- 図版四十九 出土遺物写真 (土器類)
- 図版五十 出土遺物写真 (土器類)
- 図版五十一 出土遺物写真 (土器類)
- 図版五十二 出土遺物写真 (土器類)
- 図版五十三 出土遺物写真 (土器類)
- 図版五十四 出土遺物写真 (土器類)

I 調査に至る経過

大阪府と奈良県を結ぶ近畿日本鉄道奈良線は近年の人口増加によって輸送能力の限界をむかえた。そのため、地下鉄中央線を延長し、奈良県生駒市と結ぶ新鉄道建設が計画された。同時に国道308号線の整備とこれに並行する阪神高速道路の延長もあわせて計画された。しかし、これらの開発予定地内では、すでに鬼虎川遺跡、西ノ辻遺跡などが周知されており、その周辺でも未知の遺跡が存在すると予想された。

このため、東大阪生駒電鉄株式会社は、昭和54年、すでに用地確保のすんだ国道308号線中央分離帯内で、恩智川以西の試掘調査を東大阪市教育委員会に依頼。同教育委員会は東大阪市遺跡保護調査会に調査を依頼して実施した。この結果、あらたに水走遺跡が発見された。

昭和55年には鬼虎川遺跡内において、鉄道橋脚工事に先立つ発掘調査が実施された。その後、東大阪市教育委員会と大阪府教育委員会の合同で、同年、国道308号線関係遺跡調査会が組織され、調査体制の強化が図られた。同調査会による2回の鬼虎川遺跡の調査とともに、国道308号線伊東、鉄道トンネル口付近までの試掘調査が行なわれ、神並遺跡、植附遺跡が発見された。

308号線関係の西ノ辻遺跡の調査は、昭和57年11月に開始された第7次調査が最初であった。この調査では、弥生時代中期の方形周溝墓、甕棺が検出された。この後、現在の新石切駅周辺で引き続き2つの調査が実施されている。昭和58年11月に開始された第8次調査では、溝、土壇、井戸、柱穴よりなる室町時代の集落跡が検出された。さらに、同年12月に開始された第9次調査は、第8次調査の隣接地出、鎌倉～室町時代の木棺墓、井戸、溝、土壇墓、柱穴を検出している。

なお、国道308号線関係遺跡調査会は昭和57年3月をもって、解散し、その後、あらたに組織された財団法人東大阪市文化財協会と大阪府教育委員会が分担して調査を実施した。

その後石切神社参道伊東で行なわれた試掘調査では、おもに縄文時代、奈良時代、中世の遺構、遺物が検出されていた。いっぽう、西石切町地区の各試掘トレンチでも遺構、遺物が認められ、旧国道170号線付近の西ノ辻遺跡に至るまで神並遺跡の範囲が拡大し、それに隣接することが知られた。そこで便宜的に旧国道170号線の東を並行して走る東高野街道をその境界にし、これより東を神並遺跡、西を西ノ辻遺跡とした。西ノ辻第10次調査地区は、東高野街道をはさんで、神並遺跡第4次調査区と隣接し、西ノ辻遺跡の北東端に位置する。なお、西ノ辻遺跡の西辺は、国道170号線伊東の調査で検出された鬼虎川遺跡の方形周溝墓群が途切れるあり、国道170号線の約200m東にある。

西ノ辻第10次調査は西石切地区の鉄道および道路建設予定地内の2030m²を対象とし、東高野街道をはさんだ神並遺跡第4次調査区の西隣で、昭和58年12月より開始された。調査の結果神並遺跡第4次調査区から続く旧河道の下流部分を検出し、多量の遺物とともに、古墳時代の水

利遺構を検出した。また、異なる2本の旧河道も新たに検出した。これらの上には、古墳時代以降の堆積層があり、これをベースに中世の遺構群が検出された。遺構面の上部は削平を受けているものの、遺構の密度は高く、鎌倉～室町時代の井戸、溝、土壇、柱穴、土壇墓などがみとめられた。また、遺構からは多数の遺物が出土した。

その後、西ノ辻遺跡第10次調査期間の後半は、その西隣、旧国道170号線までの区間で、西ノ辻遺跡第16次調査が並行して実施され、同線をはさんでさらに西隣では西ノ辻第17次調査も同時に進んだ。また、昭和60年12月より21次、昭和61年1月より22次の調査が実施された。これらの調査によって縄文時代から室町時代にいたる複合遺跡の広範囲にわたる部分が明らかにされた。



図1 中世遺物出土状況

II 西ノ辻遺跡の位置と環境

大阪府の東辺中央部は奈良県と境を接し、ここに南北に長く連なる生駒山地がある。この西麓、西石切町3丁目、東山町、弥生町にかけて西ノ辻遺跡は所在する。遺跡の標高は約8～15m。

逆断層作用の圧力で隆起したこの山地の西斜面は急俊で、これを開析する多くの谷が河内平野に流下し、各所に扇状地を形成している。これらの扇頂部は標高100m付近に、扇端部は標高10m付近にあり、この間の水平距離は1kmに満たない。扇状地堆積物はいくつかのかつての段丘面を覆っていると考えられるが、現地形の観察からは、あまり明瞭に判断できない。ただ、縄文海進時の海食崖とこれを段丘崖とする低位段丘面は発掘によって確認されている。標高約5～6m。外環状線の東約150～250m付近にあたる。先の扇端部は、ほぼこの段丘面上にある。これより西には、低湿な沖積平野がひろがる。

西ノ辻遺跡は、低位段丘面および中位段丘面と、これを覆う扇状地扇端部の薄い堆積物のうえに形成されたと想定しうる。しかし、これらの地形要素は第四紀後期更新世と完新世における要因の異なるいくつかの地形変化をこらむっていると考えられる。すなわち崖錘性および扇状地性堆積物の侵食や再堆積、これらを下刻したり埋積する不安定な河道などである。これらは、発掘調査の対象地区における微地形ないしは超微地形を複雑にしている。

ところでこの生駒山西麓は、低平な平野部が完新世以降、比較的新しい時期まで、居住地としては不安定な氾濫原であったのにたいして、より古くからの人間活動の場を提供してきたであろう。このことは神並遺跡の始まりが縄文時代早期までさかのぼることにも示されている。先の縄文時代の海岸線が発掘された鬼虎川遺跡では同時に縄文時代前期の土器も出土している。縄文時代中期以降にも、この山麓部には、日下遺跡（後～晩期）、鬼塚遺跡（中～晩期）、縄手遺跡（中～後期）、馬場川遺跡（晩期）などの遺跡が点在する。

西ノ辻遺跡周辺の弥生時代の遺跡の立地は地形的条件から、大きく3種に分けられる。まず、先の低位段丘の下端に隣接する沖積平野であり、この時期の鬼虎川遺跡（前～中期）が著名である。次に低位～中位段丘、扇状地緩斜面に立地する遺跡で、西ノ辻遺跡をはじめ、東に隣接する神並遺跡、鬼塚遺跡、皿池遺跡など、中期から後期にかけての遺跡が多い。第3には、標高80～100m付近の扇状地上半～扇頂部あるいは、土石流堆積段丘や尾根の末端に立地する遺跡がある。これらは、ふつう高地性集落とよばれるが、西ノ辻遺跡周辺には発見されていない。東大阪市内では、山畑遺跡や岩滝山遺跡（いずれも中期～後期）がある。

ところで西ノ辻遺跡第10次調査区は、神並遺跡と接しており、弥生時代の集落は神並遺跡西端部にまで拡大していたことが神並第3次調査によって明らかになった。また、北には植附遺跡が隣接しており、中期から後期の土器が出土している。これら鬼虎川遺跡をも含めた一連の集落跡からの発掘成果は、当時の集落の配置、集団関係や生業とその歴史的な変遷といった問

題を解く手がかりになるであろう。

さて、古墳時代の西ノ辻遺跡周辺でも、その東の扇状地斜面のより高い部分には古墳時代後期の神並遺跡群があり、神並遺跡では建物跡も検出されている。より古い時期の塚山古墳が北北西約400mにあり、集落跡では、北方に芝ヶ丘遺跡、馬場遺跡が、南方には、鬼塚遺跡がある。このようなことから、生駒山西麓では5世紀の末から古墳が各所に築造され、その後群集墳が山地の屋根や扇状地の上部に移動してゆくいっぽう、低平な土地条件においては、より生業と結びついた集落の開発が高い密度で進行したと考えられる。

奈良時代以降もこの傾向は引き続き、現代までに残された人間活動の痕跡は無数にある。この歴史時代の経過のなかで、先史時代以来人びとがふかく関与してきた地上の自然環境の多く

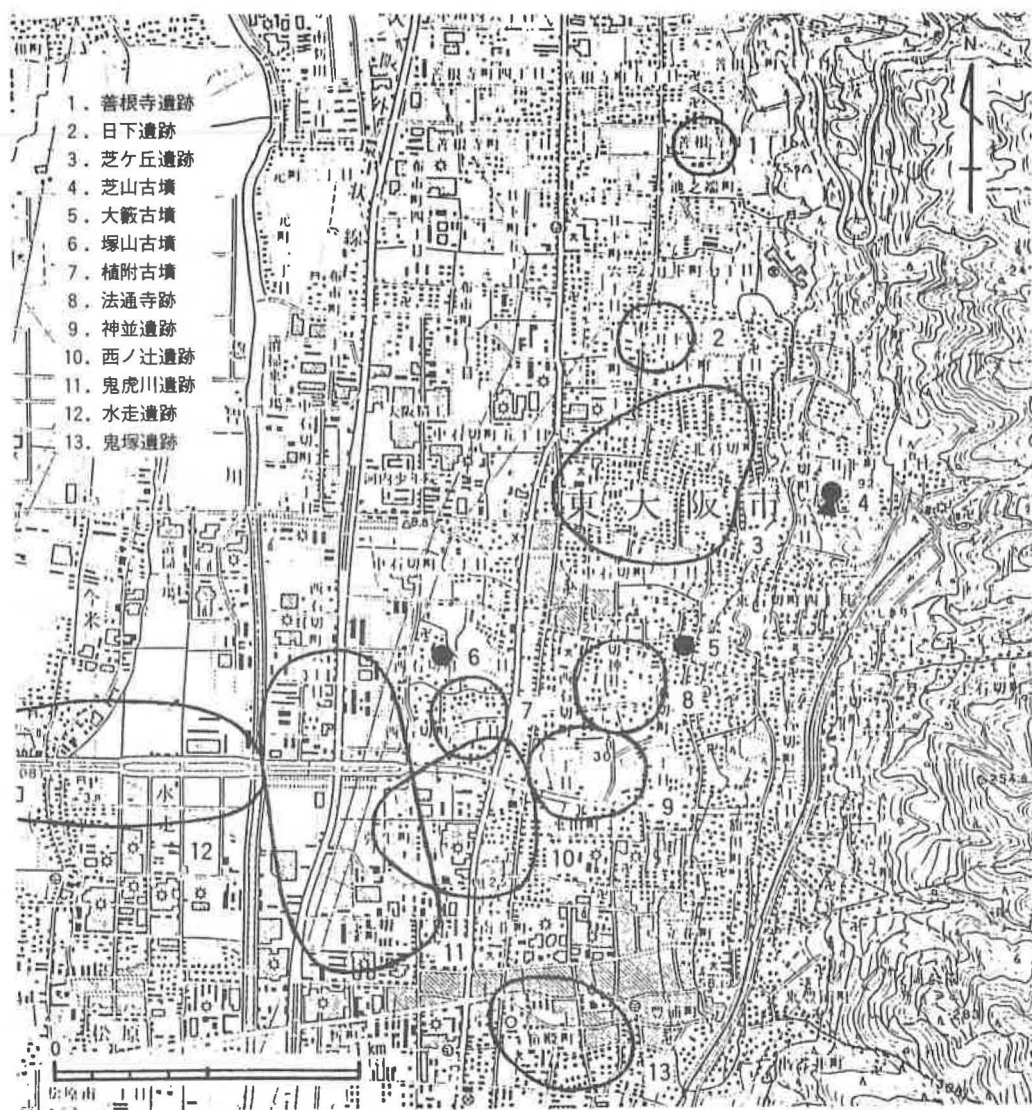


図2 西ノ辻遺跡周辺遺跡分布図

は姿を消した。歴史時代の西ノ辻遺跡周辺の状況はさほど詳細になっているわけではないが、北東約200mには、奈良時代に創建された法通寺があり、これと関係する掘立柱建物が神並遺跡で検出されている。同時期の遺構は南の鬼塚遺跡などでも検出されており、この山麓に連続と集落が営まれたことを物語っている。鎌倉時代には、神並遺跡と共に西ノ辻遺跡においても集落が形成されたことが最近の調査によって明らかになってきた。

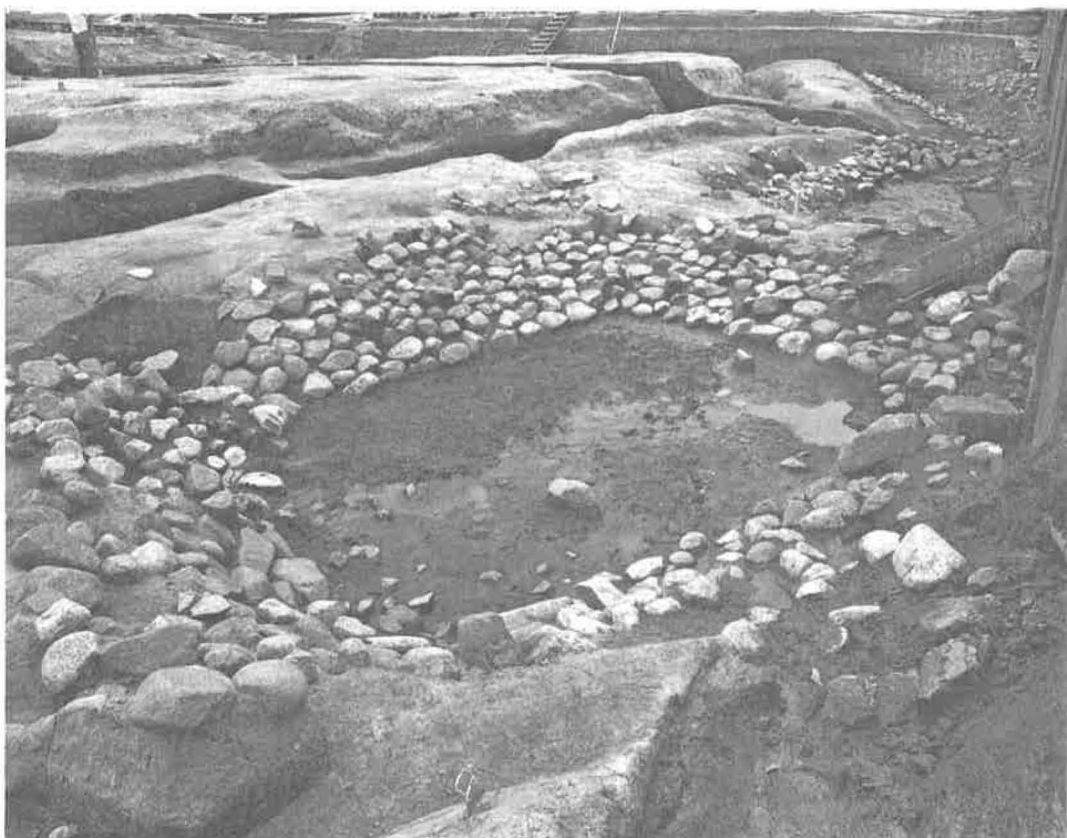


図3 古墳時代水利遺構検出状況

III 調査経過と層序

生駒山西麓の標高10~100m地帯に分布する洪積段丘上や扇状地上には、古くより人びとの生活がいとなまれ、その痕跡を残す多くの遺跡が認められる。

西ノ辻遺跡は東大阪市西石切町3丁目、東山町、弥生町にかけて所在する。従来より弥生土器の標準遺跡として著名であったが、最近の調査により弥生時代から室町時代に至る複合遺跡として徐々にその性格が明らかになりつつある。西ノ辻遺跡10次調査は、昭和58年12月に開始し、昭和59年9月に終了した。

調査はまず、調査区内の現代の耕土および盛土を機械掘削で除去し、さらにこの下層にある近代および近世の耕土を確認した後、これも機械掘削で除去した。耕土下は、調査区南半で地山があらわれ、北半では、遺物を含む暗褐色土層および茶灰色砂質土層が認められ、これをベースとする中世の遺構群が検出された。また、南西隅の地山面には弥生時代中期の溝も検出された。この中世遺構面は後世の整地などによって著しく削平されていた。中世の遺構は調査区のほぼ全域で検出され、井戸、溝、土壇、土壇墓、柱穴などが確認された。井戸には直径2m程のものと、直径3m前後でやや大型のものがある。このうちのあるものは素堀であろうが、いくつかのものには井戸枠を抜き取った形跡があった。

土壇には長方形のものが多く、多量の遺物を出土した。柱穴は調査区北半に集中し、直径20cm前後の円形のものが多数確認された。このなかには柱根の残るものもあった。溝には東西方向にはしり、幅約1m、深さ30cm前後のもので、溝の一側面に人頭大の石を一列に配したものがあった。これらの遺構からは、土師器、瓦器、須恵器、陶器、銭貨、輸入陶磁器類、瓦をはじめ、石臼、砥石、曲物、漆器、鉄釘、壁土などが出土した。これらは、14世紀代の遺物と考えられる。

中世の遺構面下には、奈良時代から平安時代の灰色粘質土を主体とする堆積層が認められた。これは古い埋没谷の上部に残存した湿地内の堆積と考えられる。この最下部からは杭列、護岸施設などの遺構が検出された。16次調査区では、この下層に砂、シルトを主体とする古墳時代後期の堆積がみられ、土器や木製品が出土した。

西ノ辻10次調査区で中世遺構の下層で古墳時代以前の堆積層を掘削する一方、西ノ辻16次調査区の上層の調査を開始した。この層序および遺構の性格は上述の10次調査区と大きなちがいはない。ただ、16次調査区の北隣で工事用の進入路部分を調査した際に、12~13世紀の井戸、ピットなどを検出した。井戸からは土器類の他に、呪符木簡が出土した。

さきに述べた奈良時代の堆積層は、神並4次調査区からのびる埋没谷とは別のより古い、もうひとつの埋没谷の上面にひろがる。この埋没谷は西ノ辻10次調査区の中央付近から、16次調査区の中央部をやや北にふりながら、流下していたもので、神並4次調査区からの埋没谷は、16次調査区でこの谷と合流し、その上部を開析し、その後土砂に埋まった。

この埋没谷の堆積層中では、古墳時代の水利遺構を検出した。これは、谷内に設置、築造された樋状木製品、木組の暗渠、排水溝、4基の石組の貯水池とこれらを連結する樋管などからなり、延長100mあまりにわたって検出された。この遺構はすでに谷内を埋積していた5世紀の堆積層をベースにしていたが、16次調査区では広範囲に埋めた盛土をベースにしていた。

この下層では弥生時代の遺物を多く含む堆積層がその上面を侵食されたかたちでみとめられた。この層上部はすでに神並4次調査区で確認された弥生時代後期の土器を含むものであったが、西ノ辻10、16次調査区では、この層はほとんどなくなり、これにかわって弥生時代中期の土器を含む層になっていた。砂礫、シルトないしは粘土、および植物遺体の小刻みに交替する堆積層であった。神並4次、10次調査区の北辺を横断する谷では、この堆積層を除去すると、ほとんど無遺物の基底礫層となり、さらに地山に達した。

調査範囲と地区割

地区割は、昭和55年度実施の鬼虎川遺跡調査時に設置した国土座標系をもちいた。東大阪市川中(x=146.3, y=-29.9)を起点とし、x軸を100mごとにローマ数字で、y軸を100mごとにアルファベット大文字で区画標記し、大地区を設定した。さらに、それぞれの100m方面のx軸、y軸を5mごとにアラビア数字とアルファベット小文字で区画表記し、小地区を設定した。区画された座標軸の交点の表記をもって、その北西側にできる5×5mの小地区名とした。本調査区の各地区名称は図に示したとおりである。

層序

西ノ辻10次調査区野層序はすでに遺構編にくわしく述べたので、先述の調査概要をまとめるかたちで、その基本的なことがらを以下に示しておく。(図4参照)

図4の第1層は中世遺構面野ベースであり、以下第3層まで耕作らしき土層が続く。これらの層相はほとんど変りなく細礫混じりのシルト、粘土ないしはシルト質粘土である。同層からは奈良・平安時代以降の遺物がごく少量出土しているが、無遺物に近い状態であった。水田土壌特有の鉄やマンガンの沈着がみとめられた。

第6層、第7層も堆積物は上層と殆ど変りなかったが、やや粘土分が多く、還元状態にあったため、幾分青味がかかった色調を呈していた。これらの下、第9層まではより粘土分の多く、幾分西に向かって傾斜する堆積層が続く。これらは谷2が埋没する最終段階の堆積層であり奈良・平安時代に属する。第9層の下面は緩い皿状の落ち込みで、西に向かって傾斜している。すでに述べたようにこの層中で打ち込まれた南北方向のしがらみ状の杭列と落ち込み左岸に設けられた護岸のための杭列が検出された。そのベースとなっている層、つまり谷2の第72層以下第84層までは、青味がかかった細礫を交えるシルト質粘土層が続き、ほとんど遺物をふくまなかった。ただ、それらの下部で、縄文時代晩期の凸帯文土器の破片が出土し、おそらくは同時期の谷の堆積層と考えられる。谷2の最下層は粗粒砂から小礫から成る基底礫層であった。

いっぽう、谷1においては、上述の奈良・平安時代の層に対応する層は顕著にみとめられず、かろうじて第17層に同時期の遺物がわずかに含まれていた。以下第19層までにおいても、ほと

んど遺物の出土はなかった。第19層は、砂層であり、この段階まで谷1に水流があったことをしめしている。同層はこの下層にある古墳時代5世紀末から6世紀初頭の水利遺構とこれを埋

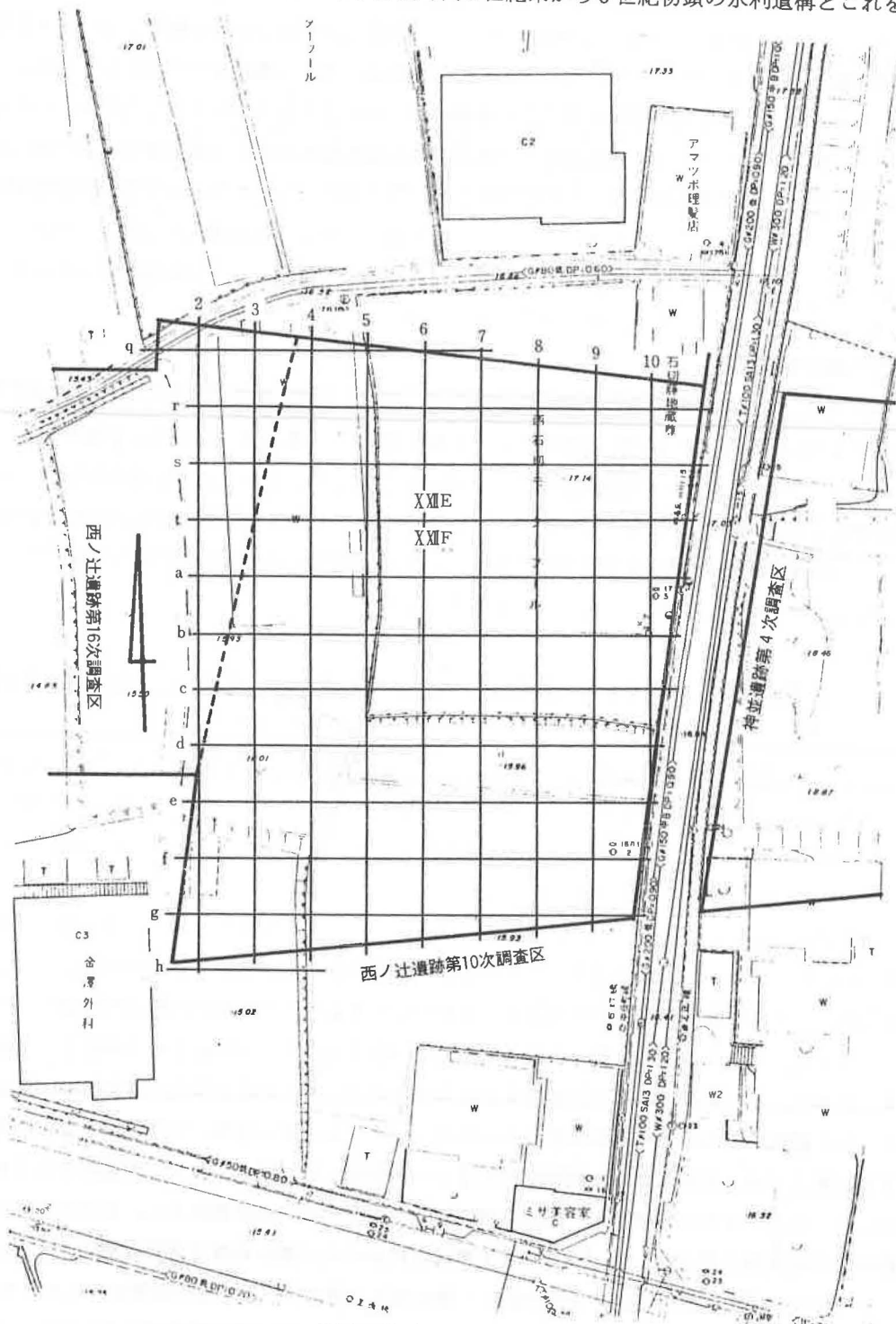


図4 調査地地区割図

積した堆積層を平面的に侵食している。

第22層から第31層までが水利遺構のプールに堆積した層である。また、谷1に左岸に並行して掘削されたプールに付属する溝の堆積層は第23～27層および第32層から第35層である。これらの上部は人為的に埋められた形跡がみとめられ、いっぽう下部は砂がちな水流による堆積層である。水利遺構の築造時に施されたとおもわれる盛土が第37層から第40層および第43層である。この遺構のベースとなった層も古墳時代と堆積層であり、これは第51層まで続く。

谷1では弥生時代の堆積層が上記の古墳時代の堆積層に開析された状態であった。第52層から第70層までがこれで、活発な河川の堆積作用がうかがえる砂礫を主体とした層である。遺物の時期から縄文時代後・晩期頃から下刻され始めた河道とおもわれる。この河道と同時期の溝が谷3の上部にみられる。第74、75層。

谷3の堆積層は第89層から94層であり、これらも細礫をまじえる粘土層である。谷3は工事の都合上完全に調査できず、その基底部に達することができなかった。谷2との層位的な関係から縄文時代の埋没谷とかがえられる。94層以下に打ち込まれた杭を3本検出した。

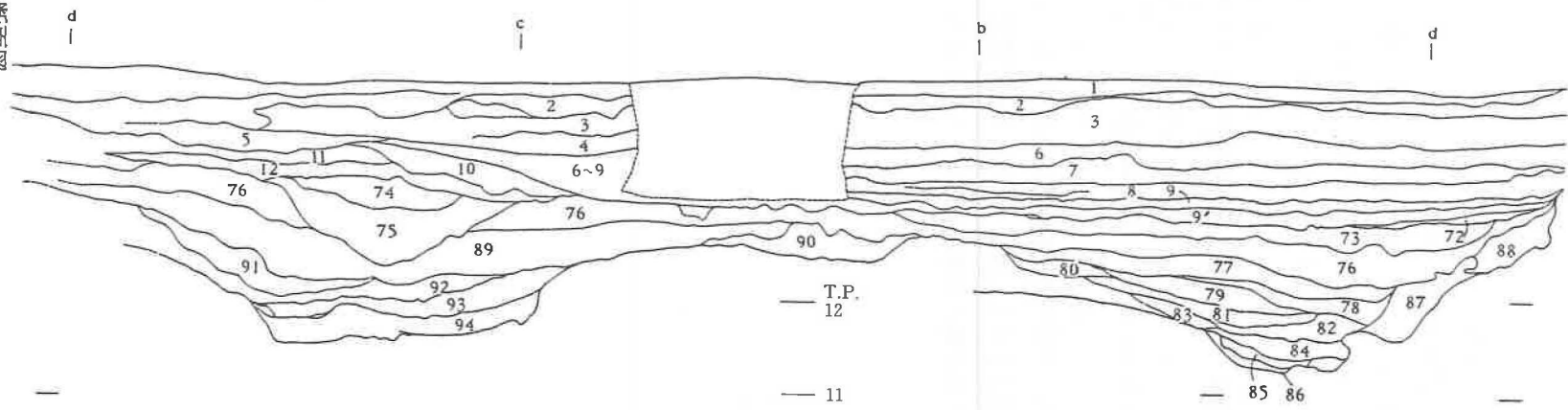
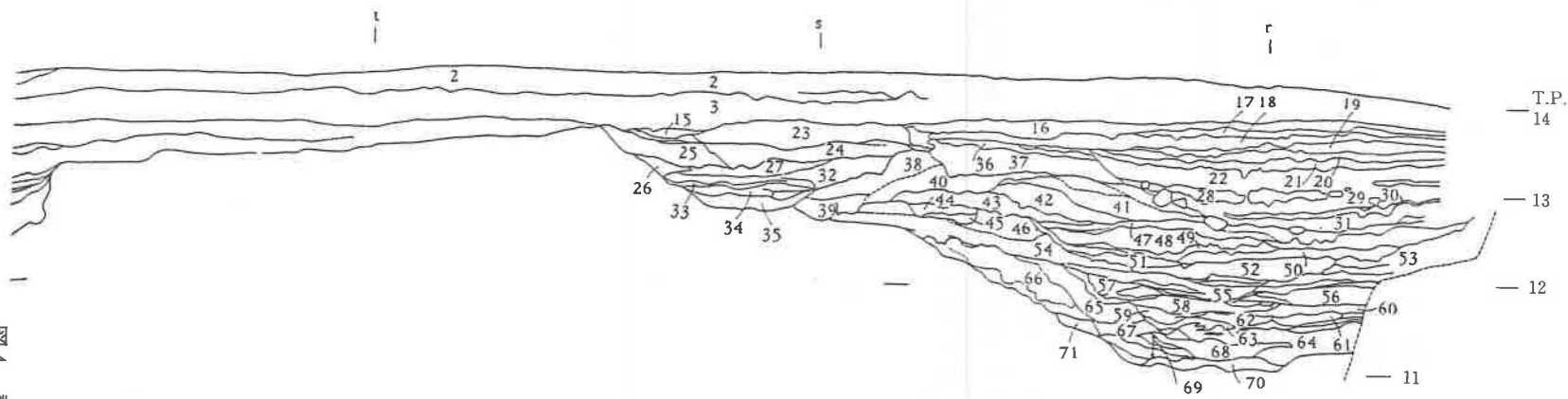


图4 调查地西边断面图

1	10YR 3.5/2	FS~CSmx. Cl+Si	34	7.5Y 3/1.5	MS~VFS	65	8GY 4/1	Cl (G若干まじる)	
2	2.5Y 3.5/2	FPBmx. Si-Cl	35	5Y 4/1	Si. Cl. VFSラミナ互層	66	2.5GY 4/1	G~MSmx. Si~Cl (G多い)	
3	10YR 4/2	FS~CSmx. Cl+Si	36			67	5Y 4/1	植物遺体mx. Cl	
4	5Y 4/1.5	Cl-Si	37		盛土	68	10YR 4/1.5	植物遺体+Si. Cl	
5	5Y 4.5/1.5	Cl-Si	38		盛土	69	5Y 4/1	植物遺体mx. VFS~Si	
6	10YR 4/3	FS~CSmx. Cl+Si	39		盛土	70	7.5Y 4/1.5	P~CS	
7	10YR5/5	FG~MSmx. Cl-Si	40		盛土	71		C	
8	7.5Y 3.5/1	VCS~FSmx. Si-Cl	41	5Y 3.5/1	Gmx. Si+Cl	72	10G 4/1	C	
9	5Y 4.5/1	VCSmx. Si (FPB)	42	7.5GY 4.5/1	Gmx. Si-Cl	73	10G 4/1	C (VCS少しまじる)	
9'	5GY 4/1	Si-Cl (ch)	43		盛土	74	2.5GY 3.5/1	P~Cmx. Cl (chまじる)	
10	2.5Y 4/1	Gmx. Si-Cl	44		新深	75	=74		
11	2.5Y 4.5/1.5	S~Gmx. Si-Cl	45	5Y 4.5/2	G~MS	76	2.5GY 4.5/1	P~Cmx. Si-Cl	
12	10GY 4/1	Gmx. Cl	46	2.5GY 4/1	Gmx. Cl	77	7.5GY 4/1	Gmx. Si-Cl	
15	5Y 4/1.5	Si~VFS	47	5Y 2.5/2	Si+Cl (植物遺体まじる)	78	2.5GY 4/1	G~VCSmx. Si-Cl	
16	2.5GY 4/1	Clmx. Si~NS	48	2.5Y 4.5/2	VFS~Si	79	10YR 4.5/2	C~VCSmx. Cl	
17			49	5Y 3.5/1	Si~Cl (みだれたラミナ)	80		P~Gmx. VCS	
18	2.5GY 4/1	Clmx. Si	50	5Y 3.5/2	VFS~Si. Clラミナ	81	10YR 2/1.5	P~Gmx. Si-Cl (植物遺体まじる)	
19	5Y 4/1.5	FS~VCS	51	5Y 4/1	Gmx. Cl	82	2.5Y 3.5/1	炭. 植物遺体mx. Cl	
20	5Y 4/1.5	Cl+Si (Gmx.)	52	10YR 2.5/1	CS~FSmx. Si~Cl. 植物遺体層)	83		P~G (上層まじる)	
21	5Y 4/1.5	Si~CS	53	2.5GY 4/1	Gmx. Cl	84	7.5YR 3.5/1	Cl~Si-Cl	凡例
22	7.5Y 4/1	Cl (Simx.)	54	2.5GY 4.5/1	Gmx. Si-Cl	85	10YR 5/1.5	VCS~G	大礫・・・C
23	7.5Y 4/1.5	Gmx. Si+Cl	55	5Y 4/1.5	Gmx. Si~Si~Cl	86		P~G. VCS	中礫・・・P
25	5Y 4.5/3	CS~VCS	56	5Y 4.5/1.5	FS~C	87	2.5Y 4.5/1	P~G. VCSmx. Cl	細礫・・・G
26	10Y 4/1	FS~Si	57	5Y 4/1	植物遺体mx. Si-Cl	88		地山ブロック土	極粗粒砂・・・VCS
27	=26		58	5Y 5/2	C~FS	89	10GY 4/1	P~Gmx. Cl	粗粒砂・・・CS
28	BB		59	2.5GY	Cl. Siのラミナ互層	90		地山ブロック土	中粒砂・・・MS
29	=22		60	7.5GY	Si~VFS (植物遺体ラミナ)	91	7.5GY 4.5/1	Gmx. Cl	細粒砂・・・FS
30			61	7.5GY 4/1	植物遺体mx. VFS	92	10GY 4/1	P~Gmx. Si	極細粒砂・・・VFS
31	=22. 29		62	5GY 5/1	G~VCS	93	5GY 4.5/1	P~Gmx. Si-Cl	シルト・・・Si
32	5Y 4/1	VFS~Si+地山ブロック土	63	=61		94	10YR 2/1	P~Gmx. Cl	粘土・・・Cl
33		VFS~Si+地山ブロック土	64	2.5GY 4.5/1	植物遺体まじりP~FS				

IV 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、室町時代～鎌倉時代の土器類、木器、金属器、銭貨、石製品、奈良・平安時代の土器類、古墳時代（5世紀～6世紀）の土器類、木器、弥生時代の土器、石器である。これらの遺物のほとんどは、遺構ないし、比較的堆積環境が解釈しやすい小規模な凹地、あるいは旧河道の堆積層である。遺構や自然地形における堆積環境に関しては、既に『神並遺跡第4次、西ノ辻遺跡第10・16次発掘調査報告 遺構編』に詳述し、各遺構出土の遺物の一覧表も掲げたので、ここではそれらの内で図化できた遺物に限って報告する。

1. 出土状況について

『遺構編』と重複する説明もあろうが、簡略に遺物の出土状況について述べておく。既に前章で述べたとおり、室町～鎌倉時代の遺構面は後世の削平を受けており、生活面そのものは存在しなかった。そのため、当時の遺物は削平による消失を免れた深い遺構一井戸、溝、柱穴一から出土したものがほとんどである。このうちのほとんどのものは室町時代（13～14世紀）の遺物で、鎌倉時代のものは僅かであった。

各遺構、特に井戸について全般的にいえることは、その覆土が概ね上下の層に分かれることである。下層はその遺構が形成され使用されていた時期のものであり、その堆積は遺構廃棄後の堆積とも連続している。いっぽう上層は、遺構廃棄後いくらかの時間が経過後に、人為的あるいは故意に投入された土砂からなる層である。同層中には、室町時代の遺物が含まれていたが、その堆積時期は確定することはできない。後世に本来の生活面を削平した際に、それが堆積した可能性が高い。

このような一般的な傾向とは別に、集落存続期間中に廃棄されている井戸もあると考えられる。この場合、それを故意に埋め立てた状況はあまり顕著ではなかった。廃棄の痕跡は、掘りかたを崩して井戸枠を抜き取る程度であったようである。つまり、集落存続期間中にはほとんどの井戸が開口していたと思われるのである。このような状態で何10年オーダーの時間経過を想定すれば、この間に編年学上の型式を異にする遺物が混在してゆく可能性がある。また、上下の層を厳密に分離することができても、それらの間で新旧の逆転があることも考えられる。このような問題点を考慮すれば、層的な連続性のない遺構間で、遺物の形態のみを基準に編年作業を試ることは、危険を伴うであろう。

奈良・平安時代の遺物は谷1および谷2の堆積過程の最終段階に堆積したもので、調査区の東辺では人為的な埋め土の可能性をもつ部分もある。この時期の遺構は、神並遺跡で高密度に検出されているが、当調査区ではほとんどみとめられず、谷2の杭列および護岸施設のみであった。もちろん、同地点も当時の人間の活動域に含まれているのであって、西ノ辻16次調査で検出した同一堆積層の上面には、多数の獣の足跡に混じって人間の足跡もみとめられた。遺物の量はさほど多くはないが、ほとんど攪乱を受けていない層である。

古墳時代、6世紀末の遺物は、上記の奈良・平安時代の遺物包含層の下にあり、おもに谷1に堆積していた。これはさらに下層の水利遺構が廃棄埋没した後、残存した浅い谷を埋積しており、同遺構によって生じた凹凸を平滑化している。神並第4次調査区においては、川畔の祭で使用されたと考えられる同時期の人物埴輪2個体と伴に土器類も多く出土している。いっぽう、本調査区の西に隣接する西ノ辻第16次調査区では、谷2から谷1との合流点にかけて、かなり広範囲な同層の分布がみとめられ、前代の河道の様相を大きく変貌させている点が注目された。

5世紀～6世紀初頭にかけての遺物は、基本的に上記6世紀後半の堆積層の直下にあり、水利遺構の形成と廃棄に至るまでの短期間に堆積したと考えられる層に含まれている。それは地形的にも谷1がまだ比較的明瞭に機能していた時期のもので、水利遺構形成直前の、いわゆる「石組ベース」とその下の「木材集積層」および水利遺構内の覆土にあたる。当時の人間活動の痕跡が比較的盛んな河道内の堆積作用で順次包埋された状況を呈している。その堆積作用は、同時に下層の弥生時代堆積層を下刻する部分もあり、弥生土器の混入するところもあったが、大勢に影響はないであろう。

弥生時代の堆積層はきわめて錯綜した旧河道内の土砂よりなる。神並遺跡第4次調査では、西ノ辻弥生集落の縁辺より谷1に投棄されたとみられる土器が、左岸の粘土がちな堆積層に含まれており、その堆積状況からみても、遺物の時期的なまとまりがほぼ確認されたが、本調査区では次の2つの点では状況を異にする。(1)谷1の左岸は、水利遺構の築造にともない「側溝」が掘削されたため弥生時代の形態をとどめていないこと、(2)河道内の堆積層が水流方向では、著しく連続性を欠き、神並遺跡4次調査で知られた中期～後期初頭の幾つかの堆積層が同一の堆積物から構成されていないこと。

以上の点を考慮したうえで、あえて判断を下すならば、概ね神並遺跡第4次調査の弥生時代の層準を敷衍し近接した集落からの投棄という遺物堆積状況が想定される。遺物の出土量は多いが、集中した場所はなかった。また、水流による磨滅はほとんどなく、近接した場所からの投棄を裏づける。

弥生土器は谷1から出土したもの以外に、当時の遺構でただ一つ検出された溝状遺構からのものがある。これは、調査区南西隅で検出された。南東から北西に向かって伸び、幅約1.2m、深さ約1m。きわめて多くの土器がその覆土に含まれていた。ここでは水流による堆積層がほとんどみとめられなかったことから、溝掘削後短期間のうちにこれらの土器が投棄されたと考えられる。この溝は、谷3の縄文時代の堆積層を切り込んで、西ノ辻16次調査区に伸び、その上層は先に述べた古墳時代および奈良・平安時代の堆積層で覆われているため、層位的には後世の攪乱を受けた包含層が構内に投棄された結果ではないことがわかる。

鎌倉・室町時代の遺物

1) 土器

井戸・溝・柱穴などの遺構をはじめ包含層から多量に出土している。まず、各器種ごとに分けて記述をすすめることにする。

瓦器

瓦器には、椀・小皿・釜・播り鉢・火舎・甕などの器形がある。

椀

椀A 口縁端部内面に沈線をもつもので、いわゆる大和型の椀。高台をもつものともたないものがある。

椀B 口縁端部を丸くおさめるもので、いわゆる和泉型の椀。高台のあるものもないものがある。

小皿A 口縁端部を丸くおさめるもの。底部は平底を呈する。

小皿B 口縁端部に内傾する面をもつもの。

釜 口縁部が段状になるものとならないものがある。口縁端部は、平坦面をなすものが多い。三足釜も少量ある。

土師器

土師器には、皿・釜などの器形が認められる。皿の出土量は土器の中で最も多い。

皿

口径10cm未満のものを小皿、10cm以上のものを中皿とする。小皿・中皿とも底部および口縁端部の形態によって以下のように細分する。

皿A 丸底を呈するもので、口縁端部がつまみ上がり、やや尖り気味のものA1と口縁端部を丸くおさめるものA2がある。

皿B 平底のもので、口縁端部をつまみ上げ、尖り気味におさめるものB1と口縁端部を丸くおさめるものB2がある。

皿C 上げ底を呈するもので、口縁端部がつまみ上がり、尖り気味に仕上げるものC1と口縁端部を丸くおさめるものC2がある。

釜

形態の特徴によって3種類に細分できる。

釜A 内傾する肩部に鏝をもち、口縁部が外反する。口縁端部を内側上方に玉ぶち状に丸くおさめる。

釜B 球形に近い体部から内傾する肩部に鏝をもち、口縁部を外反させる。端部を丸くおさめるものと肥厚気味につくるものがある。

釜C 内彎する肩部に断面が三角形の短い鏝をもち、口縁部が外反する。上端部を内側に肥厚させる。

須恵器

甕・鉢がみられる。おおむね東播系である。

甕

口縁端部が下方に外折するものと端部の上面に凹線または凹みをもつものがみられる。

鉢

口縁部の形態から4種類に分けることができる。

鉢A 口縁端部の断面形がほぼ短形を呈するもの。

鉢B 口縁部の下端部を下方に拡張し丸くおさめる。上端部はそのままで鋭角をなす。

鉢C 口縁部の上端部は上方につまみ上がる。

鉢D 口縁部の上下を拡張するもの。

陶器

出土量は瓦器・土師器に比べると極めて少ない。常滑・瀬戸・備前焼などがある。器形には
摺り鉢・甕・壺が認められる。

輸入磁器

輸入磁器には、白磁・青磁がみられる。ともに碗が多い。

白磁

碗・皿などが検出されている。

青磁

青磁は、龍泉窯系の碗・皿が出土している。

2) 土製品

出土した土製品には、土錘・埴塼がある。

土錘

長さ3cm前後・直径1cm程度の紡錘形を呈する。すべて土師質である。

埴塼

1点出土している。瓦質である。使用痕はない。

3) 瓦

出土した瓦には、丸瓦・平瓦・軒瓦がみられる。全出土量は、コンテナ3箱程度である。軒瓦には、軒丸瓦があるものの軒平瓦はまったくみられない。軒丸瓦は、巴文をもつ。

4) 石製品

石製品には、砥石がある。砥石は、砂岩製で2～6面の研面がある。

5) 金属製品

金属製品には、鉄釘・包丁・止め金具・銭貨などがある。

銭貨

出土しているものには、至道元宝・元豊通宝・皇宋通宝・隆平永宝・開元通宝など多種類ある。

6) 木製品

主に井戸内から出土している。木製品には、曲物・折敷・横槌・匙形木器・呪符・木錘・漆器・容器底板などがある。

曲物

すでに側板が破損し、全形態の判明するものはない。平面形は、円形を呈する。円形曲物の制作技法は、円板のうえにひとまわり小さい側板をあてて、円板に2穴1対、側板に1孔の結合孔をあけ、紐で結合したものと円板を側板の内側にはめ込み、側板の上から木釘を打ち込んで結合したものがある。釘結合曲物の側板は、円筒形に曲げるため、内面にケビキを入れる。ケビキは、縦平行線・斜平行線・この両者を組み合わせ斜格子に入れるものに細分できる。また、法量によって分類することもできる。

折敷

出土しているものは、底板のみで全形を知り得るものはない。底板は、隅丸方形を呈する。側板を結合するための結合孔や紐の残っているものもみられる。

横槌

円柱形の身と棒状の柄とからなるもので、わらなどを打つのに使用するものと想定できる。身の中央は、4方にこう打による窪みがつく。

匙形木器

小さい細板を削って制作している。身の形態から3種類に区分できる。

匙形木器A 身の前縁を一直線にするもの。

匙形木器B 身の前縁を半円形にするもの。

匙形木器C 身の前縁が半円形を呈するが身の幅が狭く長細いもの。

呪符

井戸内堆積層から出土している。細長い薄板の先端を尖らせ、末端を直線状に切る。先端部ちかくの両側面には、左右対象の位置に三角形に切り取りを加える。表面には「蘇民将来子孫」と記されている。裏面への記載はない。

木錘

木材片を利用しておもしろにしたもの。材の一カ所に孔をあけて紐を通すものと、材の中央を細くして紐を結ぶものがある。後者は、むしろ編みなどに用いられる。

漆器

木材をくっっておよその形を整え、ろくろによって整形している。縦木どりと横木どりの両方がみられるがいずれも木芯をさけている。大半が黒漆である。漆は、直接木地にかけるものと布をあててからかけるものが見られる。

用途不明木製品

井戸をはじめとする各遺構内からは、用途のはっきりしていない木製品も多数ある。類例の増加をまって今後再検討する必要がある。

奈良・平安時代の遺物

1) 土器

包含層から出土しているが、他の時期の資料に比べるとその出土量は、極めて少ない。土器には、須恵器と土師器があるので以下では、それぞれにわけて記すことにする。

須恵器

須恵器には、杯・蓋・皿・鉢・高杯・壺・平瓶・水瓶・横瓶・甕などの器形が認められる。これらのうち、最も出土量の多いのは、供膳用の杯である。

杯

杯には、3種類のものがある。

杯A 平坦な底部と斜め上にまっすぐのびる口縁部からなり、口縁端部を丸くおさめる。

杯B 杯Aに高台をつけた形態を備え、蓋と一組になる。高台端部には、内傾・水平・外形の3種類がある。

杯C 平底と斜め上にひらく口縁部からなる。口縁端部は、内側に巻き込む。

蓋

蓋には、2形態のものがみられる。

蓋A たいらな頂部と屈曲する縁部からなるもの。

蓋B 頂部が丸く笠形を呈し、縁部が屈曲せず、彎曲気味に仕上げるもの。

鉢

鉢は形態の特徴から4種類に分けることができる。

鉢A 内彎してたつ口縁部と尖底ないし丸みを帯びた尖底からなる。口縁端部が丸くおさまるものと平坦に面どりするものがある。

鉢B 外反する短い口縁部と上位で肩の張る体部からなる。高台をつけるものとつけないものがある。

鉢C 平底で、長い口縁部がまっすぐ上方にひらくバケツ状のもの。

鉢D 円盤状を呈す底部と斜め上にひらく口縁部からなる。口縁部の一部を外方にひねり出し片口としてもものもある。

高杯

ラッパ状にひらく脚部と外反する口縁部をもつ平坦な杯部からなる。

壺

壺には、形態の特徴から8種類に分けることができる。

壺A 肩の張ったイチジク形の器体に直立する短い口縁部と高台を張り付ける。

壺B 平底で斜め上に立ち上がる体部と、みじかく直立する口縁部からなる。肩と体部の境は、鈍い稜となり、底部に高台を付ける例もある。

壺C 肩部に稜をもつ胴長の体部に、直立する口縁部を付けた平底の器。高台をもつものもある。

壺D 直立する短い口縁部をもつ扁平な体部に高台を張りつけたもの。

壺E 内彎気味に斜め上にひろく胴部と、狭い肩部に外傾する短い口縁部を付けた広口のものの。

壺F 縦長の胴部に太くて長い口頸部を載せた形態のもので、ロクロ生計で作られる。

壺G 巾の狭い肩に稜をもつ扁平な体部に、直立する口頸部と大きく外反すく広口の口縁部からなる小型の器。底部には、低い高台を付ける。

壺H 細長い口頸部と肩が張り稜を呈する体部からなる長頸壺。

平瓶

平底で扁平な体部の背面に広口の口頸部と逆U字形の把手を付ける。高台を張りつけるものとつけないものがある。

水瓶

銅製品を模倣したもので、卵形の器体に細長い口頸部をのせたもの。頸部および体部に沈線を施す。

横瓶

横に長い俵形の体部上面中央に外反する口縁部を付けたもの。

甕

甕は、口縁部および体部の形態によって3種類に細分できる。

甕A 卵形の体部に外反する口縁部を付けたもので、口縁部は、肥厚し外傾する面をなす。

甕B 卵形の体部に内彎気味の口縁部を付けたもので口縁端部は丸くおさまるもの、内傾するものがある。肩部に耳を付けた例もある。

甕C 肩の張った広口短頸の器。肩幅は器高をしのぐものが多く、高台を張りつけるものと付けないものがある。

土師器

土師器には、杯・蓋・碗・皿・鉢・高杯・壺・甕・鍋・羽釜・かまどなどの器形が出土している。これらのうち、供膳用のものでは、杯・皿の出土量が多い。また、煮沸用では、羽釜の出土がめだつ。

杯

杯A 広く平らな底部と斜め上方にひろく口縁部からなる。口縁部の形態には、下半が内彎し、上半がわずかに外彎し口縁端部が内側に丸く肥厚するものと全体が内彎し、口縁端部の肥厚の小さいものがある。

杯B 外傾する口縁部をもつ平底の器で、低い高台が付く。口縁部と底部の境は、丸みを帯びる。

蓋

ボタン状のつまみが付く平坦な頂部となだらかに彎曲する縁部からなる。

碗

- 碗A 丸底に小さな平底と内彎する弧を描いて、斜め上に大きくひらく口縁部からなる。
碗B 丸底に近い平底から屈曲しながら外反し、口縁部の上半が垂直に立ち上がり、端部ちかくで小さく外反する。

皿

- 皿A 広く平な底部と斜め上にひらく短い口縁部からなる。口縁部の形態には、杯と同様に2種類ある。
皿B 皿Aに高台を付けたもので、蓋と対になる。口縁部の形態には、皿Aと同様に2形態みられる。

鉢

- 鉢A 丸底ないし尖底に近い底部から外彎気味にひらく口縁部が端部近くで内傾するもので、いわゆる鉄鉢形である。
鉢B 丸底に近い底部と外傾ないし直立する口縁部からなる。口縁端部が内側に軽く巻き込むものと内傾するものがある。
鉢C 口縁部が内彎する半球形の形態で口縁部の一部を外に折り曲げて片口にする。
鉢D 底部は平底に近い丸底で、口縁部との境は不明瞭で外傾し、口縁部上端がやや外傾する。

高杯

ラップ状にひらく裾部と、ヘラで多面体に面どりした脚部に大きく外方にひらく浅い杯部を付けるものである。脚部と杯部の接合法には、2手法みられる。

壺

- 壺には、形態の特徴によって3種類に細分できる。
壺A 高台を付けた平底と肩の張ったイチジク形の胴部と直立する短い口縁部からなる。肩部に上方に強く折り曲げた三角形把手を張りつける。
壺B 平底に丸い丸底と球形に近い胴部と外反する短い口縁部からなる広口の器。
壺C 蓋受けのような短く内側に屈曲する口縁部と低い高台を付けた広口の壺。

甕

- 甕A 半球に近い胴部と強く外反する口縁部からなるもの。
甕B 甕Aとほぼ同形態で、相対する二方の肩に把手を付けたもの。
甕C 頸部でややすぼまる長手丸底の器体に斜め上にひらく口縁部を付ける。

鍋

- 鍋A 半球形の体部に外傾する口縁部の付くもの。
鍋B 鍋Aの体部の両側に把手を張りつけたもの。

かまど

曲げ底系のものと付け底系のものの2種類がある。

- 高杯B 口縁部は外上方へ直線的に長く延びる。口縁部と杯底部との境界には、明瞭な段を

構成する。杯底部には、斜め上方にひろがるものと水平にひらくものがある。

壺

壺A 口縁部は短く外上方にのび、端部を丸くおさめる。体部は球形をなす。

壺B 口縁部は内彎気味に外上方へひらき、端部を丸くおさめる。口縁部と体部との境界には、強い稜をもつ。体部は肩にやや張りをもち扁球形を呈する。

壺C 二重口縁の壺。

壺D 口縁部は外反し、端部に外傾する凹面を構成する。口縁部と体部とを区画する稜は鋭い。体部はほぼ球形を呈する。

甕

甕A 口縁部は内彎気味にたちあがる。端部は内側に大きく肥厚し、内傾する面を構成する。体部は球形からやや長胴形を呈し、体部最大径が器高をしのぐ。底部は丸底を呈する。

甕B 口縁部が外傾ないしやや内彎し、端部を平坦な面で仕上げる。体部は球形からやや長胴の形態を呈する。口径によってさらに2種に細分できる。

甕C 口縁部が外反するものである。体部は球形から長胴形を呈し、丸底の底部につづく。甕Cは、口縁端部の形態によって4種類に細分できる。

甕D 口縁部はゆるく外反する。口縁端部は外傾する面を構成する。体部は張りをもち、安定した平底の底部につづく。

甑

口縁端部は、平坦な面をなす。体部は砲弾形を呈する。

羽釜

口縁部は短く外反し、端部を丸くおさめる。鏝は水平方向に長くのび、端部を丸く仕上げる。

韓式系土器

器形としては、煮沸用の甕がみられる。胎土は、生駒西麓のものほか他地域の製品もある。

甕

口縁部は短く外反する。端部は外傾する凹面を呈する。口縁部と体部との境界には、強い稜をもつ。体部は、球形ないしやや長胴の形態である。底部は、丸底を呈する。

製塩土器

口縁部は直立ないしは内彎し、端部を丸くおさめるものや尖り気味におわるものがある。

2) 木製品

斧

柄は、木の幹と枝の股を利用し、枝から握りを幹から斧台を作り出す。装着状況から袋状鉄斧を取り付けたものであろう。

火きり板

細い角棒の側面に間隔をおいて切り欠きを加える。

古墳時代の遺物

古墳時代の遺物は、水利施設ならびにこの遺構を覆う包含層から須恵器・土師器・韓式系土器・製塩土器などの土器類と木製品が出土している。

1) 土器

須恵器

須恵器には、杯・蓋・無蓋高杯・壺・甕・カップ形土器などの器形がある。土師器にくらべ出土量は少ない。

蓋

蓋A 杯と組み合わせになり、天井部につまみをもたないもの。

蓋B 有蓋高杯と組み合わせになり、天井部中央につまみをもつもの。

杯

たちあがりは内傾する。口縁端部は、水平な面をなすものや丸くおさめるものがある。

無蓋高杯

杯部は、中央に稜線で区分した文様帯をもつ。口縁部は外反してたちあがり、先端でやや内彎する。口縁端部は丸くおさめる。脚部には、長方形の透かしを3方向から穿つ。

壺

口縁部は外反し、端部に面をもつものや内彎気味にたちあがり、端部を丸くおさめるものがみられる。口縁部は、いずれも断面三角形の凸帯によって区画され、凸帯間に櫛がき波状文を施す。

甕

口縁部は朝顔形に外反する。口縁端部は、やや外傾する面をもつものや凹面をなすものがある。口縁端部直下には、断面三角形の凸帯を巡らせる。また、口頸部には、凸帯や櫛がき波状文を施すものもある。

土師器

土師器には、供膳用の杯・高杯・貯蔵用の甕・甑・羽釜などがみられる。

土師器の胎土には、生駒西麓のものほか他地域のものも認められる。他地域のものは、生駒西麓のものと同様にすべての器形にみられる。特に供膳用の杯・高杯では、他地域の精良な胎土の製品が生駒西麓のものよりも多く出土している。

杯

杯A 口縁部は短く外反し、端部を丸くおさめる。体部は張りをもち半球形を呈する。

杯B 口縁部が内彎するもので端部に内側に傾斜する面をもつものと丸くおさめるものがある。体部は半球形を呈し、丸底の底部につづく。

高杯

高杯A 杯部が碗形を呈するもので内彎気味に外上方へひらく。脚部は下方でややひろがる柱状部から緩やかにひらく裾部にいたる。脚端部は面をもつ。

中世・古墳時代土器観察表

凡例

1. 遺物の名称は、東大阪市文化財協会の遺物登録様式に従う。これは遺物の種類と器種で表示する。
2. 法量は、口径×器高で示す。(底)と表示したものは、底径を示す。
3. 色調は、マンセル表色系を採用し、『標準土色帖』を使用した。Nは灰色、YRは褐色系統である。表中には明度/彩度の順で表示した。個々の色調の名称は下表のとおりである。

5 Y R

灰白 8/1 8/2		淡橙 8/3 8/4		
明褐灰 7/1 7/2		にぶい橙 7/3 7/4		橙 7/6 7/8
褐灰 6/1	灰褐 6/2	6/3 6/4		6/6 6/8
5/1	5/2	にぶい赤褐 5/3 5/4		明赤褐 5/6 5/8
4/1	4/2	4/3 4/4		赤褐色 4/6 4/8
黒褐 3/1	暗赤褐 3/2 3/3 3/4 3/6			
2/1 2/2	極暗赤褐色 2/3 2/4			
黒 1.7/1				

7.5 Y R

灰白 8/1 8/2		浅黄橙 8/3 8/4 8/6			黄橙 8/8
明褐灰 7/1 7/2		にぶい橙 7/3 7/4			橙 7/6 7/8
褐灰 6/1	灰褐 6/2	にぶい褐 6/3		6/4 6/6 6/8	
5/1	5/2	5/3 5/4		明褐 5/6 5/8	
4/1	4/2	褐 4/3 4/4 4/6			
黒褐 3/1 3/2	暗褐 3/3 3/4				
黒 2/1	2/2	極暗褐 2/3			
1.7/1					

10 Y R

灰白 8/1 8/2		浅黄橙 8/3 8/4		黄橙 8/6 8/8		
7/1		にぶい黄橙 7/2 7/3 7/4			明黄褐 7/6	6/6
褐灰 6/1	灰黄褐 6/2	6/3 6/4		6/8		
5/1	5/2	にぶい黄褐 5/3 5/4		黄褐 5/6 5/8		
4/1	4/2	4/3		褐 4/4 4/6		
黒褐 3/1 3/2	暗褐 3/3 3/4					
黒 2/1	2/2 2/3					
1.7/1						

- N 8~7 灰白色
 6~4 灰色
 3 暗灰色
 2 >= 黒色

4. 胎土中の砂粒は、0.1mm前後以上の石英(Q)、長石(F)雲母(M)角閃石(A)について観察した。各鉱物の出現頻度はVF=かなり多い、F=多い、R=少ない、VR=ほとんどない、で表示した。

5. 極力几長な表現は避け、内外面の技法の表示を簡略化した。

	標頭	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外夕	外ケ	外工	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内工
1	土師器	羽釜	20*-		7/3			F	VF	R	R	X					X					
2	陶器	練鉢	27*-			4/4		F	VF	VR	R	X					X					
3	瓦器	摺鉢	31*12	4				F	F	R	R	X					X	X				
4	土師器	カメ	17*-			5/4		R	F	VR	R	X			X		X					
5	瓦器	羽釜	20.1*-	3				VR	F	VR	R	X					X	X				
6	瓦器	カメ	33.1*-	3				F	F	VR	R	X			X		X	X				
7	陶器	練鉢	28.1*-			4/4		R	VF	-	R	X					X					
8	瓦器	羽釜	31.2*-	4				VR	VF	-	-	X					X					
9	瓦器	カメ	53.6*-	5				R	F	-	-	X					X					
10	瓦器	椀	11.3*3.4	4				R	F	-	-	X					X	X		X		
11	瓦器	椀	12.9*3.2	3				VR	F	-	VR	X					X	X		X		
12	瓦器	椀	12.6*2.6	4				F	F	-	-	X					X	X		X		
13	土師器	羽釜	22.8*11.1			5/4		R	F	R	R	X					X	X	X			
14	瓦器	摺鉢	31.4*-	4				R	F	VR	R	X	X				X	X				
15	磁器	青磁椀	(底)5.4*-					R	F	-	R	X					X					
16	瓦器	火鉢	34.8*-	4				R	F	-	-	X		X			X					
17	陶器	カメ	34.0*-		5/3			R	F	VR	-	X					X					
18	土師器	小皿	9.0*1.5			6/6		F	F	VR	R	X					X	X				X
19	土師器	小皿	8.8*1.3			6/4		R	VF	VR	R	X					X	X				X
20	瓦器	椀	13.0*3.6	4				VR	VF	VR	VR	X					X	X		X		
21	瓦器	椀	13.0*3.5	4				VR	VF	-	VR	X					X	X		X		
22	瓦器	椀	12.6*3.2	4				VR	F	-	VR	X					X	X		X		
23	土師器	小皿	7.4*1.3			6/4		VR	F	-	VR	X					X	X				
24	土師器	小皿	8.3*1.4			6/4		F	F	-	VR	X					X					
25	土師器	小皿	7.6*1.7			6/4		F	F	-	VR	X					X					
26	瓦器	椀	9.8*3.7	3		6/4		F	VF	VR	-	X					X	X		X		
27	土師器	小皿	99.2*1.4				7/4	R	F	-	-	X					X					
28	土師器	小皿	11.1*2.3					VR	F	-	-	X					X					
29	磁器	青磁椀	(底)5.2*-					VR	F	-	-	X			X		X					
30	瓦器	火鉢	-	4				VR	F	VR	-	X					X					
31	土師器	小皿	8.3*1.4			7/4		VR	F	R	-	X					X					
32	土師器	小皿	8.2*1.3				7/4	VR	F	-	-	X					X					
33	土師器	小皿	8.3*1.4			6/4		VR	F	-	-	X					X					
34	土師器	小皿	8.7*1.3			6/6		F	F	-	VR	X					X					
35	瓦器	椀	11.7*2.9	5				R	F	-	VR	X					X	X		X		
36	瓦器	カメ	37.6*-	5				R	F	VR	-	X		X			X					
37	土師器	小皿	12.1*2.1			6/6		R	VF	-	-	X					X					
38	瓦器	椀	13.3*4.3	3				R	VF	-	-	X					X	X		X		

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
39	瓦器	椀	13.8*3.8	5				VR	VF	VR	-	X		X			X		X			
40	土師器	小皿	7.8*1.6			6/8		VR	VF	-	-	X					X					
41	土師器	小皿	9.4*1.0			6/4		F	F	-	-	X					X					
42	瓦器	椀	13.0*3.6	4				F	F	-	-	X		X			X		X			
43	陶器	練鉢	21.3*6.5		5/3			R	F	-	-	X					X					
44	土師器	小皿	9.2*1.5			6/6		R	F	VR	-	X					X					
45	土師器	小皿	8.6*1.3			6/3		R	VF	VR	VR	X					X					
46	土師器	小皿	8.4*1.3			6/8		R	F	VR	-	X					X					
47	瓦器	椀	11.6*2.8	4				R	F	VR	-	X				X	X		X			
48	土師器	羽釜	31.0*-			7/4		R	F	VR	-	X					X					
49	土師器	小皿	7.5*1.4			7/4		R	R	VR	VR	X					X					
50	土師器	小皿	8.0*1.3			7/8		VR	R	-	VR	X					X					
51	土師器	小皿	8.8*1.5			7/3		VR	VF	-	VR	X					X					
52	土師器	小皿	8.9*1.3			7/4		R	VF	-	VR	X					X					
53	土師器	小皿	13.0*2.1			6/6		F	VF	-	-	X					X					
54	磁器	青磁椀	12.4*-					VR	VF	-	-	X					X					
55	磁器	青磁椀	(底)4.6*-					VR	VF	-	VR	X			X		X					
56	瓦器	椀	12.2*-	3				VR	VF	-	VR	X				X	X		X			
57	瓦器	椀	11.3*3.2	4				F	VF	-	VR	X				X	X		X			
58	瓦器	椀	11.4*3.8	3				R	VF	VR	VR	X				X	X		X			
59	瓦器	椀	11.9*3.1	4				R	VF	-	VR	X				X	X		X			
60	土師器	小皿	8.1*1.1			6/6		R	VF	-	VR	X					X					
61	土師器	小皿	8.6*1.6			6/7		R	VF	-	-	X					X					
62	土師器	小皿	9.4*1.5				7/3	R	F	-	-	X					X					
63	土師器	小皿	7.9*1.3			6/6		R	F	VR	-	X					X					
64	瓦器	椀	12.8*3.6	4				VR	F	VR	VR	X		X			X		X			
65	瓦器	椀	11.2*3.6	4				R	F	-	VR	X		X			X		X			
66	瓦器	椀	11.6*2.4	3				VR	F	-	R	X		X			X		X			
67	瓦器	椀	13.4*3.6	3				VR	R	-	VR	X		X			X		X			
68	土師器	カメ	29.0*-		6/6			VR	F	VR	VR	X					X					
69	土師器	小皿	8.4*1.5			7/4		FR	F	-	VR	X					X					
70	土師器	小皿	9.2*2.8			7/8		VR	F	-	VR	X					X					
71	土師器	小皿	8.0*2.3			7/3		F	VF	-	VR	X					X					
72	瓦器	椀	11.3*3.2	4				VR	VF	-	-	X		X			X		X			
73	瓦器	椀	10.9*2.9	4				VR	VF	VR	-	X				X	X		X			
74	瓦器	椀	11.8*2.8	3				VR	VF	VR	-	X				X	X		X			
75	瓦器	椀	13.8*3.2	3				VR	VF	-	-	X				X	X		X			
76	陶器	練鉢	24.8*11.1		5/3			VR	F	-	-	X					X					

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
77	瓦器	羽釜	26.8*-					R	VF	VR	-	X					X	X				
78	瓦器	摺鉢	31.0*-	5				R	VF	VR	-	X				X		X				
79	瓦器	カメ	43.0*-	4				R	F	-	-	X		X				X				
80	土師器	小皿	7.2*1.8	4				VR	F	-	VR	X						X				
81	土師器	小皿	8.6*1.6				6/7	VR	VF	VR	VR	X						X				
82	土師器	小皿	8.8*1.6				7/2	R	VF	-	VR	X						X				
83	土師器	小皿	11.6*2.4		6/6			R	VF	-	VR	X						X				
84	瓦器	椀	10.6*-	4		6/6		R	VF	-	-	X		X				X			X	
85	瓦器	椀	13.3*-	5				R	VF	-	-	X		X				X			X	
86	瓦器	釜	2.8*-	5				VR	F	-	-	X						X		X		
87	瓦器	羽釜	26.8*-	4				VR	F	-	-	X						X	X			
88	瓦器	火鉢	28.5*10.8	4				VR	VF	-	-	X		X				X			X	
89	瓦器	摺鉢	32.5*-	4				VR	F	-	-	X				X		X	X			
90	瓦器	練鉢	28.5*-	3				VR	F	-	VR	X						X				
91	磁器	青磁椀	(底)4.8*-					VR	F	VR	VR	X						X				
92	土師器	土釜	0.8*3.2			6/6		R	F	-	VR	X				X						
93	土製品	るつぼ	10.0*12.3	4				R	F	-	VR						X					X
94	瓦	巴文軒丸瓦						R	F	-	-	X						X				
95	土師器	小皿	8.3*1.4			6/8		R	F	VR	-	X						X				
96	土師器	小皿	8.3*1.6			6/6		R	F	VR	-	X						X				
97	土師器	小皿	8.8*1.6		6/6			R	F	-	VR	X						X				
98	土師器	小皿	8.2*1.4		6/8			R	VF	-	VR	X						X				
99	土師器	小皿	9.2*1.8		7/6			VR	VF	-	-	X						X				
100	土師器	小皿	8.3*1.4				7/6	VR	VF	-	VR	X										
101	土師器	小皿	8.9*1.5			7/4		F	VF	VR	VR	X						X				
102	土師器	小皿	8.8*1.4		7/4			VR	VF	VR	-	X						X				
103	土師器	小皿	8.0*1.4			7/6		VR	VF	VR	VR	X						X				
104	土師器	小皿	9.0*1.6			7/6		VR	F	-	VR	X						X				
105	土師器	中皿	12.3*1.6			6/8		VR	F	-	-	X						X				
106	土師器	中皿	12.0*2.0			6/8		VR	F	VR	VR	X						X				
107	土師器	中皿	12.0*2.0				6/6	VR	F	VR	VR	X						X				
108	土師器	中皿	13.0*1.8		7/4			VR	F	VR	-	X						X				
109	瓦器	椀	12.5*3.2	4				F	F	VR	-	X						X			X	
110	瓦器	椀	12.5*3.2	4				R	VF	VR	-	X						X			X	
111	瓦器	椀	12.2*3.5	5				R	VF	VR	-	X		X			X	X			X	
112	瓦器	椀	12.2*3.8	4				R	VF	-	-	X		X			X	X			X	
113	瓦器	羽釜	23.5*-	3				R	VF	-	-	X						X	X			
114	陶器	練鉢	27.3*-		5/3			VR	VF	-	-	X						X				

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
115	陶器	鉢鉢	27.2*-		5/3			VR	VF	-	-	X						X				
116	瓦器	三足	16.3*11.8	3				F	F	VR	-	X						X	X			
117	瓦器	三あし	17.5*11.2	4				F	F	-	-	X						X	X			
118	陶器	壺	48.2*-			5/3		R	VF	VR	VR	X						X				
119	土師器	小皿	8.3*1.2			6/6		R	F	-	-	X						X				
120	土師器	小皿	8.5*1.1				6/8	R	VF	VR	-	X						X				
121	土師器	小皿	8.5*1.2		6/6			VR	VF	-	-	X						X				
122	土師器	小皿						VR	VF	-	-	X						X				
123	土師器	小皿	7.9*1.5				6/4	VR	F	-	-	X						X				
124	土師器	小皿	8.0*1.9				6/6	VR	F	-	-	X						X				
125	土師器	小皿	8.0*1.5			6/6		F	F	-	-	X						X				
126	土師器	小皿	8.0*1.1		5/6			R	F	VR	-	X						X				
127	土師器	小皿	7.5*1.5			5/6		R	F	VR	-	X						X				
128	土師器	小皿	8.0*1.5			6/7		R	F	VR	-	X						X				
129	土師器	中皿	11.3*2.2			6/6		R	F	-	VR	X						X				
130	土師器	中皿	12.0*1.5				6/6	VR	VF	-	VR	X						X				
131	土師器	中皿	11.7*2.3				6/6	VR	F	VR	VR	X						X				
132	瓦器	小皿	9.0*1.7	4				VR	F	-	VR	X					X	X		X		
133	瓦器	小皿	9.0*1.7	4				VR	VF	-	VR	X					X	X		X		
134	瓦器	小皿	8.2*1.8	4				VR	VF	VR	VR	X					X	X		X		
135	瓦器	小皿	8.4*1.2	3				R	VF	-	-	X						X				
136	瓦器	中皿	11.2*3.0	4				R	VF	-	VR	X						X				
137	瓦器	椀	13.2*3.4	4				F	VF	-	VR	X		X				X				
138	瓦器	椀	15.5*4.2	5				F	VF	-	-	X					X	X		X		
139	瓦器	椀	14.3*4.3	4				F	F	-	VR	X					X	X		X		
140	瓦器	椀	14.2*5.2	3				F	F	VR	-	X					X	X		X		
141	瓦器	椀	15.2*5.0	4				R	F	VR	VR	X					X	X		X		
142	瓦器	椀	14.4*5.0	4				R	F	VR	VR	X					X	X		X		
143	瓦器	椀	13.2*4.2	4				R	R	VR	-	X					X	X		X		
144																						
145	磁器	白磁椀	16.3*6.7					VR	R	-	-	X				X		X				
146	陶器	壺	(底)11.0...			5/4		VR	F	-	-	X						X				
147	陶器	カメ	28.0*-			5/3		VR	F	-	-	X			X			X				
148	瓦器	羽釜	25.5*-	5				VR	F	-	-	X						X	X			
149	瓦器	羽釜	30.7*-	4				VR	F	-	-	X						X				
150	土師器	羽釜	33.6*-		6/4			R	F	VR	-	X						X				
151	土師器	羽釜	25.9*-		5/6			R	VF	-	-	X						X				
152	土師器	羽釜	31.0*-			6/4		R	F	-	VR	X						X				

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外コ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内コ
153	土師器	羽釜	27.9*-			6/4		R	F	VR	VR	X						X				
154	土師器	羽釜	30.5*-			7/6		F	F	-	-	X						X				
155	土師器							F	F	-	-	X						X				
156	土師器	小皿	7.5*1.5			6/8		VR	F	VR	VR	X						X				
157	土師器	小皿	8.3*1.3				6/6	VR	F	VR	-	X						X				
158	土師器	小皿	7.7*1.7				7/3	F	F	VR	VR	X						X				
159	土師器	中皿	11.1*2.2			7/4		R	F	-	-	X						X				
160	土師器	中皿	12.3*2.5			7/6		R	F	-	VR	X						X				
161	瓦器	小皿	8.9*1.5	3				R	F	-	-	X					X	X		X		
162	瓦器	小皿	9.0*1.5	3				R	F	-	-	X					X	X		X		
163	瓦器	小皿	8.3*1.3	4				VR	F	VR	-	X					X	X		X		
164	瓦器	小皿	9.5*1.6	4				VR	F	-	-	X					X	X		X		
165	瓦器	椀	14.5*-	4				VR	F	-	-	X		X				X	X		X	
166	瓦器	椀	13.0*4.4	3				VR	VF	VR	-	X		X				X	X		X	
167	瓦器	椀	14.2*5.0	4				VR	VF	-	-	X		X				X	X		X	
168	瓦器	椀	13.0*3.9	3				VR	VF	-	-	X		X				X	X		X	
169	瓦器	椀	13.4*5.3	4				VR	VF	-	-	X		X				X	X		X	
170	瓦器	椀	12.2*4.5	4				VR	VF	-	-	X		X				X	X		X	
171	陶器	壺底部	(底)21.1...		5/3			VR	R	VR	VR	X						X	X			
172	土師器	小皿	7.6*1.3			6/6		VR	F	-	VR	X						X				
173	土師器	中皿	10.9*2.0			7/4		VR	F	-	VR	X						X				
174	瓦器	中皿	11.8*2.8	5				VR	F	VR	VR	X					X	X				
175	土師器	小皿	8.2*1.3			7/3		F	F	-	VR	X						X		X		
176	土師器	小皿	8.6*1.5			7/6		F	F	-	VR	X						X				
177	土師器	小皿	11.0*2.2			6/6		R	F	VR	VR	X						X				
178	瓦器	皿	12.0*2.8	4				R	F	-	-	X					X	X		X		
179	瓦器	皿	12.0*3.2	4				R	F	VR	-	X					X	X		X		
180	瓦器	皿	11.4*2.8	3				R	F	VR	-	X					X	X		X		
181	瓦器	皿	11.2*2.8	4				R	F	VR	-	X					X	X		X		
182	瓦器	皿	11.0*2.6	3				R	F	VR	-	X					X	X		X		
183	瓦器	皿	11.2*2.8	4				R	F	-	-	X					X	X		X		
184	陶器	練鉢	27.4*-			5/2		R	VF	VR	-	X						X				
185	土師器	羽釜	24.5*14.6		6/6			R	VF	-	F	X						X				
186	瓦器	羽釜	27.0*-	3				R	VF	-	-	X				X		X	X			
187	瓦器	カメ	25.5*-	5				R	VF	-	-	X			X			X				
188	瓦器	火鉢	39.5*9.0	4				R	VF	VR	-			X						X		
189	陶器	壺	36.7*-			5/4		VR	VF	-	-	X						X				
190	土師器	小皿	8.4*1.4			6/4		VR	VF	-	-	X						X				

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
191	土師器	小皿	7.9*1.2		7/4			VR	VF	VR	-	X						X				
192	土師器	小皿	8.0*1.6			6/6		VR	F	VR	VR	X						X				
193	土師器	小皿	7.8*1.2			7/4		VR	F	VR	VR	X						X				
194	瓦器	小皿	8.0*1.3	3				VR	F	VR	VR	X						X				
195	瓦器	椀	13.4*-	4				VR	R	VR	-	X		X			X	X		X		
196	瓦器	椀	13.8*4.5	4				F	F	VR	-	X		X			X	X		X		
197	瓦器	椀	12.5*4.2	4				R	F	VR	-	X		X			X	X		X		
198	土師器	羽釜	26.0*-		7/4			R	F	-	F	X						X				
199	土師器	小皿	8.0*1.6			7/4		VR	F	VR	-	X						X				
200	土師器	小皿	8.0*1.5		7/6			R	F	VR	-	X						X				
201	瓦器	小皿	8.0*1.6	4				VR	R	-	-	X						X				
202	瓦器	中皿	10.6*3.0	4				VR	F	VR	-	X						X				
203	土師器	小皿	9.1*1.3		6/4			VR	F	VR	-	X						X				
204	土師器	小皿	8.0*1.6			6/6		VR	F	-	-	X						X				
205	土師器	小皿	8.0*1.6			7/6		F	F	VR	-	X						X				
206	瓦器	中皿	11.2*2.6	3				R	VF	-	VR	X						X				
207	土師器	小皿	11.2*1.6			7/4		R	VF	VR	VR	X						X				
208	土師器	小皿	11.4*1.6			7/6		R	VF	-	-	X						X				
209	土師器	小皿	11.0*2.0			7/8		VR	F	VR	VR	X						X				
210	瓦器	中皿	13.5*2.0	3				VR	F	VR	-	X						X				
211	陶器	簾鉢	23.8*-		4/3			R	F	VR	-	X						X				
212	瓦器	椀	11.8*2.6	4				VR	F	-	VR	X					X	X		X		
213	瓦器	椀	13.2*3.2	4				VR	F	VR	-	X					X	X		X		
214	瓦器	椀	12.2*3.2	4				VR	F	-	-	X					X	X		X		
215	瓦器	椀	12.0*3.1	4				V	F	VR	-	X					X	X		X		
216	瓦器	椀	11.6*3.0	4				VR	F	-	-	X					X	X		X		
217	瓦器	椀	11.2*3.2	4				VR	F	VR	-	X					X	X		X		
218	瓦器	椀	10.7*3.5	4				VR	F	-	VR	X					X	X		X		
219	瓦器	椀	11.7*3.0	4				VR	F	VR	VR	X					X	X		X		
220	瓦器	椀	12.0*3.0	4				V	F	-	VR	X					X	X		X		
221	土師器	小皿	7.7*1.3		7/4			R	F	VR	VR	X						X				
222	土師器	小皿	8.3*1.4		7/6			R	F	-	-	X						X				
223	土師器	小皿	8.5*1.7		6/4			R	VF	-	-	X						X				
224	土師器	小皿	7.1*1.7			6/7		R	F	-	-	X						X				
225	土師器	小皿	7.5*1.7				7/3	VR	VF	-	VR	X						X				
226	瓦器	椀	10.7*2.5	3				VR	VF	-	-	X					X	X		X		
227	瓦器	椀	10.7*2.6	3				VR	VF	-	-	X					X	X		X		
228	瓦器	椀	11.0*2.5	4				F	VF	-	VR	X					X	X		X		

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
229	瓦器	椀	12.8*2.7	4				R	F	-	VR	X					X	X		X		
230	瓦器	椀	12.5*3.2	3				R	F	-	-	X					X	X		X		
231	瓦器	椀	12.8*3.8	4				VR	VF	VR	VR	X					X	X		X		
232	瓦器	椀	11.0*3.7	4				VR	F	VR	VR	X					X	X		X		
233	土師器	小皿	8.8*1.3			7/4		VR	F	-	VR	X						X				
234	土師器	小皿	7.9*1.4			7/4		R	F	VR	VR	X						X				
235	土師器	小皿	8.0*1.3			7/6		R	VF	VR	VR	X						X				
236	土師器	小皿	8.2*1.6				7/6	VR	F	VR	VR	X						X				
237	陶器	壺	(底)7.9*-		4/3			R	F	-	-	X						X				
238	土師器	鍋	22.9*-			6/6		R	F	-	VR	X					X	X		X		
239	土師器	小皿	8.2*1.5		6/6			VR	F	-	VR	X						X				
240	土師器	小皿	8.2*1.7			7/8		VR	F	-	VR	X						X				
241	瓦器	羽釜	28.7*-	3				F	F	-	F	X						X				
242	瓦器	羽釜	32.7*-	3				R	VF	-	F	X				X		X	X			
243	磁器	青磁椀	14.5*-					VR	FV	-	-	X						X				
244	磁器	青磁椀	-					VR	F	-	-					X		X				
245	瓦器	摺鉢	(底)10.7...	3				R	F	-	VR	X	X					X				
246	瓦器	羽釜	26.5*-	4				R	F	-	R	X						X	X			
247	土師器	鉢	23.5*-		6/4			R	F	-	VR	X						X				
248	瓦器	摺鉢	25.9*-	4				R	F	VR	VR	X	X					X	X			
249	陶器	麻鉢	30.5*-					VR	F	VR	-	X				X		X				
250	瓦器	火鉢	(底)27.8...	4				VR	R	VR	-	X						X				
251	瓦器	カメ	32.0*-	4				VR	F	-	VR	X				X		X				
252	土師器	小皿	7.8*1.5		6/6			R	F	-	VR	X						X				
253	土師器	小皿	8.0*1.5			7/4		R	VF	-	VR	X						X				
254	土師器	中皿	12.0*2.5			7/4		R	VF	-	VR	X						X				
255	土師器	小皿	8.0*1.3			8/3		VR	VF	VR	-	X						X				
256	土師器	小皿	8.0*2.0			8/6		F	VF	-	VR	X						X				
257	土師器	小皿	7.0*2.0			7/8		R	F	VR	VR	X						X				
258	土師器	小皿	8.2*1.5				8/6	R	F	-	-	X						X				
259	瓦器	椀	11.4*2.7	4				R	F	-	-	X					X	X		X		
260	瓦器	椀	10.0*3.0	3				VR	F	VR	-	X						X	X		X	
261	瓦器	椀	11.8*3.5	4				VR	F	-	VR	X		X				X	X		X	
262	瓦器	椀	10.7*2.5	4				VR	F	-	VR	X					X	X		X		
263	磁器	青磁椀	(底)5.7*-					R	F	-	-					X		X				
264	土師器	鍋	20.5*-			8/6		R	F	-	VR	X						X	X			
265	瓦器	火鉢脚部		3				R	F	-	-	X						X				
266	土師器	羽釜	17.7*-			8/8		R	F	-	VR	X						X				

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外夕	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
267	土師器	羽釜	25.0*-			7/6		R	F	-	VR	X						X				
268	瓦器	摺鉢	27.0*12.1	4				R	VF	-	VR	X	X					X	X			
269	陶器	摺鉢	26.2*-					R	VF	-	-	X						X				
270	瓦器	羽釜	20.0*-	4				R	VF	VR	VR	X						X	X			
271	須恵器	不明	8.0*-	4				R	VF	VR	-	X						X				
272	陶器	練鉢	(底)10.2...					R	VF	VR	VR	X						X				
273	瓦器	カメ	29.0*-	5				R	R	VR	-	X			X			X				
274	土師器	小皿	7.9*2.0			7/6		R	F	VR	VR	X						X				
275	土師器	小皿	10.5*-			7/4		R	F	VR	VR	X						X				
276	瓦器	小皿	11.1*2.3	4				R	R	VR	VR	X					X	X		X		
277	瓦器	小皿	10.5*2.4	3				R	VF	VR	VR	X						X				
278	瓦器	摺鉢	25.8*12.2	5				R	VF	VR	VR	X	X		X			X				
279	土製品	土鉢	1.7*4.5			8/8		FR	VF	VR	-	X					X					
280	瓦	丸瓦		5				R	VF	-	VR	X						X				
281	土師器	小皿	8.0*1.6			8/6		R	VF	-	VR	X						X				
282	土師器	小皿	0*2.2			8/8		VR	VF	-	VR	X						X				
283	瓦器	小皿	12.7*3.0	5				VR	VF	-	-	X					X	X		X		
284	土師器	羽釜	21.0*-			8/8		VR	VF	VR	-	X						X				
285	瓦器	三足	7.4*7.0	4				R	VF	-	-	X						X				
286	土製品	土鉢	1.0*3.6			7/6		R	F	-	-	X					X					
287	土製品	土鉢	1.2*3.8			8/3		R	R	-	VR	X					X					
288	土師器	小皿	6.6*1.0			7/4		R	F	-	-	X						X				
289	土師器	小皿	8.9*1.3			8/6		R	F	-	-	X						X				
290	土師器	小皿	8.8*1.3				7/6	VR	F	-	-	X						X				
291	陶器	練鉢	20.5*-		5/3			VR	F	-	VR	X						X				
292	陶器	練鉢	26.5*-			4/3		VR	F	VR	-	X						X				
293	瓦器	カメ	38.0*-	4				R	F	-	-	X			X			X	X			
294	土師器	壺	9.3*-					VR	VF	-	VR	X	X	X				X		X		
295	土師器	カメ	16.9*-			8/6		VR	VF	VR	F	X	X					X	X		X	
296	土師器	カメ	14.0*15.6			8/4		VR	VF	-	F	X	X					X	X			
297	須恵器	壺	30.8*-	5				R	F	-	VR	X	X					X	X			
298	土師器	カメ	20.0*-			7/6		R	F	VR	F	X	X					X	X			
299	須恵器	カメ	23.0*-	6				VR	VF	R	F	X						X				
300	須恵器	カメ	16.2*24.7	5				VR	VF	VR	R	X			X			X				
301	土師器	カメ	18.0*-			6/6		VR	VF	-	VF	X						X				
302	土師器	カメ	15.0*-			6/4		VR	R	R	F	X	X					X	X			
303	須恵器	蓋	13.0*-	5				VR	VF	R	VR	X						X				
304	須恵器	蓋	11.4*-	6				VR	VF	-	R	X						X				

	種類	器種	法量	N	YR5	YR7.5	YR10	Q	F	M	A	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
305	須恵器	杯身	11.0*-	6				VR	VF	-	R	X						X				
306	須恵器	杯身	11.8*5.4	5				VR	F	VR	VR	X				X		X				
307	須恵器	カップ形土器	10.4*-	5				VR	F	VR	VR	X				X		X				
308	須恵器	器台	32.4*37.8	5				R	F	VR	VR	X			X			X				
309	土師器	壺	9.0*-			6/4		R	F	VR	VR	X		X				X		X		
310	土師器	壺	9.5*17.0			6/4		R	F	VR	VR	X		X				X		X		
311	土師器	壺	9.2*10.6			5/4		VR	F	VR	VR	X			X			X	X			
312	土師器	製塩土器	3.4*-			7/4		R	F	VR	-	X						X				
313	土師器	高杯	16.5*-			6/8		VR	F	-	VR	X						X		X		
314	土師器	高杯	17.2*-			6/8		R	VF	-	VR	X						X				
315	土師器	高杯	26.2*-			6/6		VR	VF	-	-	X						X				
316	土師器	壺	24.0*-			5/4		VR	VF	-	-	X	X					X				
317	土師器	カメ	8.4*9.6			5/8		R	VF	VR	F	X						X				
318	土師器	カメ	10.0*8.0			4/6		VR	VF	VR	F	X	X					X	X			
319	土師器	カメ	11.0*9.3			5/6		RV	F	-	F	X	X					X				
320	土師器	カメ	13.0*10.8			5/4		R	VF	VR	F	X	X					X	X			
321	土師器	カメ	16.5*-		5/4			VR	F	-	F	X	X					X	X			
322	土師器	カメ	13.0*16.3		5/6			VR	R	-	F	X	X					X	X			
323	土師器	カメ	15.0*15.1			5/3		VR	F	VR	F	X	X					X	X			
324	土師器	カメ	12.6*16.9			5/3		VR	F	-	F	X						X				
325	土師器	カメ	12.0*-			5/4		R	F	VR	F	X	X					X				
326	土師器	カメ	15.5*-			4/3		R	F	VR	F	X	X					X	X			
327	土師器	カメ	18.7*18.9				5/3	VR	F	VR	F	X	X					X	X			
328	土師器	壺	17.2*-		4/3			R	F	VR	VR	X						X				
329	土師器	カメ	20.3*-			5/3		R	VF	VR	F	X	X					X				
330	土師器	カメ	20.0*-			4/3		R	VF	VR	F	X	X					X	X			
331	土師器	カメ	16.0*25.3			4/4		VR	VR	-	F	X	X					X	X			
332	土師器	カメ	16.8*30.4				4/4	R	F	VR	F	X	X					X	X			
333	土師器	カメ	19.2*16.2			5/3		R	F	VR	F	X	X					X	X			
334	土師器	カメ	18.2*26.4		4/4			VR	F	VR	F	X	X					X	X			
335	土師器	カメ	17.8*31.4			4/4		VR	F	-	F	X	X					X				

弥生時代の遺物

弥生土器は、すでに本章冒頭の「出土状況」でも述べたように、調査区内を東西に走る旧河道（谷1、谷2、谷3のそれぞれの下層）、溝状遺構、谷2と谷3にまたがりその上部を覆う「緑灰色粘土層」から出土した。

溝状遺構からの遺物は、畿内第Ⅳ様式を主体に第Ⅴ様式と若干の第Ⅲ様式土器を混じえる。多くの資料は表面の風化が著しく、また、完形に復元できるものは少なかった。

谷1下層については、遺物の取りあげに際して上部から1、2、2'と任意の分層を行なったが、整理の結果、各層で時期的な差が認められなかったので一括して取扱う。谷2および谷3の遺物も谷1と同様の時期幅をもつもので、これらの包含層が錯綜しながらも、比較的短期間に堆積したことを示している。

以下に、出土した弥生土器を分類し、その特徴を述べる。なお、一冊の報告書のなかで、同じ内容を何度も形を変えて記述するという冗長さをさけるため、整形・調整技法、個々の形態については図版の実測図、胎土・法量および特記すべき事項については観察表、資料群の総括とタクソノミーについては本文にそれぞれ記載した。

壺

広口壺A：漏斗状に開く口頸部と下垂する口縁端部をもつ。

第Ⅳ様式：簾状文を施すもの（図版22-414）

口頸部外面に簾状文、口縁部内面全体に円形浮文を施す。

横3個、縦2個を単位とする円形浮文が口縁部内面に巡る。口縁部簾状文に刺突文を加える。

第Ⅴ様式：擬凹線文を施すもの。（図版22-418、419、420）

頸部の立ち上がりは垂直に近く、胴部との境目は明瞭。内外面ともに無文でヘラミガキを施す。421は擬凹線文を施した後、竹管文をもつ円形浮文を巡らせる。

広口壺B：漏斗状の口頸部で、口縁端部に面をとるもの。

（図版22-422、423、424）

第Ⅴ様式

強く外反するもの（424）、直立ぎみの頸部の基部に刺突文を施すもの（422）もある。

細頸壺

第Ⅲ様式：外傾する頸部と内弯する口縁部をもつ。口頸部外面に櫛描文を施す。

図版22-412は頸部に簾状文、口縁部に櫛描列点文と円形浮文を上下2条に巡らす。

受口状口縁壺

第Ⅲ様式：大きく外反する漏斗状の頸部に、上下に拡張した口縁部が着く。

（図版22-413）

拡張した口縁部外面に簾状文を施し、刺突文を巡らせる。

第Ⅳ様式：外反する頸部から緩やかに直立して口縁部をなすもの。

(図版22-415、416、417)

口縁部外面に凹線文を施し、頸基部に刻み目疋痕文をもつ凸帯を巡らすもの(415)、口縁部は無文で頸基部にハケ原体による刻み目を施すもの(417)などがある。

短頸壺

第Ⅴ様式：カブラ形の胴部と緩く外傾する円筒形の口頸部をもつ。

(図版425)

外面全体にヘラミガキを施し、無文である。胴部はやや縦長。

長頸壺

第Ⅴ様式：上記の短頸壺の口頸部の長いもの。無文。

外面全体にヘラミガキをほどこし、ほとんど無文。しばしば頸基部から肩部にかけてヘラ描きの文様を施す。426は刺突文。

鉢

第Ⅳ様式：低い角度で大きく開き、体部は直立する。

口縁端部は、外面が段状に肥厚。内方へも肥厚し、上端は面を取る(図版23-428)。台付鉢とも思われる。

台付鉢(脚台部)

第Ⅳ様式：円錐台形で、下部に凹線文、上部に円孔をもつ。

(図版23-429)

上記の鉢を載せるものと思われる。

その他

小型の台付鉢には、円錐形の脚台に椀状の体部を載せると思われる無文のもの(430)、短かく直立ぎみで、円形の刺突文を巡らせるもの(431)がある。

有孔鉢

第Ⅴ様式：逆円錐形の器体の底部に焼成前の穿孔をもつ(図版23-433)。

マグ形土器

第Ⅲ～Ⅳ様式：無文の小型鉢に縦位置の把手がつく(図版23-432)。

高杯

高杯A：脚柱部に直口口縁部をもつ杯部を載せるもの

第Ⅲ様式：平たい受部から緩やかにカーブし、直立した短い口縁部をもつ。

図版24-436は口縁部外面に櫛描列点文を2帯巡らす。

第Ⅴ様式：(1) 浅い椀状の受部を載せるもの(図版24-316)

(2) 皿状の受部の縁辺に外反して短かく立つ口縁部を付けるもの

(図版24-438、439)

438の脚部はほぼ円錐形を呈し、円孔を四方にもつ。いっぽう、439は反り上る形の脚部であり、円孔を三方にもつ。

第Ⅳ様式：摺鉢状の受部の縁辺から、水平に拡張し、端部を下垂させるもの

(図版23-435、434)

脚部は逆Y字形を呈する。口縁端下垂部は無文のもの(434)と凹線文を施すもの(435)がある。後者の脚柱部には退化した凹線文(擬凹線)を巡らす。

高杯脚柱部

第Ⅳ様式：傘形の裾部に円筒形の柱部が載るもの

図版24-441は全体にヘラミガキで無文。442は脚部下端に凹線文を巡らせ、横位置2個一組の小さい円孔を3~4ヶ所に穿つ。

第Ⅴ様式：ほぼ円錐形で短かく開き、円孔をもつもの

図版24-440は、ほぼ円錐形で、四方に穿った円孔が2段ある。

器台

第Ⅴ様式：円筒形ないしは円錐台形の胴部から受部、裾部ともに大きく外反し、端部に狭く面を取るもの

受部端面に刻み目を巡らすもの(図版24-433)、裾部上面に刺突文を巡らせるもの(444)がある。円孔の配置にも幾つかの変異がある。

甕

第Ⅳ様式：(1)大型で弱い膨らみの胴部に対し「く」字形に外傾する口縁部が着き端部に面を取る。

内外面ともにハケメ調整。図版24-446は口縁部端面に凹線文を巡らす。図版25-447は無文。胎土と混和材からともに他地域産と考えられる。

(2)上記(1)と形態は同じ。外面の調整はハケメの後ヘラケズリを施す(図版25-448、450)。

第Ⅴ様式：(1)胴部は最大径が中程にあり、外面全体をハケメ調整する。

口縁部は「く」の字状に外弯し、端部はヨコナデで面を取る。

胴部内面はヘラケズリのもの(図版25-452)、ナデで仕上げるもの(451)がある。また、胴部外面ハケメ調整の甕で、胴部中位よりやや上部にハケメ原体に刻み目文が施されるもの(453)がある。その口縁部は胴部から屈曲し、水平に張りだし、僅かに端部を上方に拡張する。

その他：小型の甕。胴部の張りはなく、粗い作り(図版25-449)。

甕

傘形で頂部が著しくへこむもの(図版25-456)と平坦なもの(457)がある。

弥生土器観察表

報告番号	器種	法量	色調	石英	長石	雲母	角閃石	その他
412	細頸壺	19.7-	10YR5 5/4	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	c-vf(VF)	
413	受口状口縁壺	29.5-	10YR6 5/2		vc-vf(VF)		m-vf(VF)	
415	受口状口縁壺	27.4*	5YR6/6	c-vf(F)	vc-vf(VF)	f-vf(F)		
416	受口状口縁壺	27.4*	7.5YR8/3	vf(VR)	c-vf(VF)			クサリレキ m-vf(F), chert gr c,m(VR)
418	広口壺	23.3-	7.5YR6/3.5	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
419	広口壺	28.0-	5YR6/4	vf(VR)	c-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
420	広口壺	18.6-	7.5YR5 5/4	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	granite gr
421	広口壺	21.9*	7.5YR5/3.5	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
422	広口壺	23.6*	*	vf(R)	m-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr (F)
423	広口壺	17.9-	7.5YR5/3	vf(VR)	vc-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	クサリレキ m-vf(R)
424	広口壺	13.4-	7.5YR5/4	vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(F)	c-vf(F)	gabbro gr
425	短頸壺	9.2*14.4	7.5YR6 5/3.5	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	granite gr
426	長頸壺	(底)15.8	10YR5 5/3.5	m-vf(F)	vc-vf(VF)	vf(VR)	m-vf(VF)	
427	長頸壺	(底)16.2	10YR6/3	f-vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr
428	鉢	54.4-	10YR5 5/4		m-vf(VF)	vf(R)	c-vf(VF)	gabbro gr
429	台付鉢	(底)22.2	7.5YR6/6	c-vf(F)	vc-vf(VF)	m-vf(VR)		chert gr m(VR)
430	台付鉢	(底)110.2	5YR5/5		vc-vf(F)		vc-vf(VF)	gabbro gr
431	台付鉢	(底)18.0	7.5YR6 5/3	vf(VR)	vc-vf(F)	vf(R)	c-vf(VF)	クサリレキ m-f(F)
433	有孔鉢	(底)12.4	10YR6/2.5	vf(VR)	vc-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr
434	高杯	18.1*	5YR5 5/4.5		c-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
435	高杯	26.6-	7.5YR6/4	vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	クサリレキ m-f(R)
436	高杯	21.4*	5YR4/4.5	vf(VR)	c-vf(R)		vc-m(VF)	
437	高杯	21.4*12.0	7.5YR5 3/5		c-vf(F)		vc-vf(VF)	
438	高杯	26.6*18.8	7.5YR7/6	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	f-vf(VF)	クサリレキ m-vf(VF)
439	高杯	25.5*13.6	7.5YR5 5/4	vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(F)	vc-vf(VF)	
440	高杯	(底)11.4	5YR8/3	m-vf(F)	vc-vf(VF)	vf(F)		クサリレキ(R)
441	高杯	(底)12.6	10YR5/4		vc-vf(VF)		vc-vf(VF)	
442	高杯	(底)18.4	5YR7/4	c(VR)	vc(VF)	vf(VR)		
443	器台	21.3*19.8	7.5YR6 5/4	m-vf(VR)	vc-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr
445	器台	16.9*14.4	10YR6/2.5		vc-vf(VF)	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr
446	かめ	31.0*	5YR7/4	vf-f(VR)			vc-vf(VF)	クサリレキ(F)
447	かめ	40.8*	7.5YR7/4	f-vf(R)	g-vf(VF)	vf(VR)		クサリレキ(F)
448	かめ	14.5*20.9	7.5YR5/4		c-vf(F)		c-vf(VF)	
449	かめ	9.9*10.7	5YR6/3	vf(VR)	vc-vf(F)	m-vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr
450	かめ	24.4-	7.5YR7/4	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	c-vf(VF)	
451	かめ	19.2-	*		c-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	gabbro gr
453	かめ	14.8*	7.5YR5/3		m-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	
454	かめ	18.5*	7.5YR6/4	f-vf(VR)	m-vf(VF)	f-vf(VR)	c-vf(VF)	
455	かめ	15.9	7.5YR6/3	f-vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	
456	蓋	15.2*5.0	7.5YR5 5/3		vc-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr
458	広口壺	20.2-	10YR5/2	vf(R)	e-vf(VF)		m-vf(VF)	
459	広口壺	15.8*	7.5YR7/4		vf(R)		vc-vf(VF)	
460	広口壺	15.2-	7.5YR6 5/4	vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	
461	広口壺	13.7-	10YR7/3	vf(R)	vc-vf(VF)			
462	広口壺	21.0*	7.5YR5 5/4		c-vf(F)		vc-vf(VF)	クサリレキ(VR)
464	広口壺	-	10YR5 5/3		vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
465	短頸壺	10.2*	2.5Y5/2	vf(VR)	c-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	gabbro gr
466	長頸壺	12.4*24.3	7.5YR6/3	vf(VR)	c-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr
468	無頸壺	3.4*5.3	10YR6/3	vf(VR)	c-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(F)	
469	鉢	42.6-	7.5YR6/4		m-vf(F)		vc-vf(VF)	
470	鉢	16.5*	10YR4 5/2.5	vf(R)	f-vf(F)	vf(VR)	f-vf(F)	
473	鉢	-	7.5YR7/4	c-vf(F)	vc-vf(VF)			クサリレキ(R), granite gr, chert gr
478	台付鉢	-	10YR5/3	vf(VR)	m-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr
479	鉢	15.0*	2.5YR5/2	vf(VR)	m-vf(VF)	vf(R)	c-vf(VF)	
482	高杯	22.6-	7.5YR5/3		c-vf(F)		c-vf(VF)	
485	高杯	-	10YR5 5/2	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
488	高杯	(底)14.4	10YR6 5/2	c-vf(R)	vc-vf(VF)	vf(VR)		
489	高杯	-	2.5Y6/2	m-f(R)	c-vf(VF)		c-vf(VF)	
490	高杯	*	10YR6 5/2	f-vf(VR)	c-vf(VF)	f-vf(VR)	m-vf(VF)	
491	かめ	26.8*	7.5YR7/5		c-vf(F)			黒クサリレキ(F)=A? 赤クサリレキ(F)
492	かめ	45.2-	7.5YR5 5/2.5		vc-vf(F)		vc-vf(VF)	
494	かめ	44.2*	10YR7/2.5	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	f-vf(R)		
496	かめ	27.8*	10YR7/2					
497	かめ	13.0*	7.5YR6/3	vf(R)	m-vf(F)	vf(R)		
498	かめ	15.0*	10YR5/3	vf(R)	m-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	
499	かめ	12.6*23.5	*	vf(VR)	m-vf(F)			chert gr vf(VR)
501	かめ	14.5*	7.5YR5/4		c-vf(F)	vf(VR)	m-vf(VF)	
505	蓋	16.2*2.9	5YR6/6	f-vf(VR)	c-vf(VF)	f-vf(VR)	c-vf(VF)	
506	蓋	9.6*2.7	7.5YR5 3/5		c-vf(VF)		vc-vf(VF)	
507	蓋	12.2*3.9	7.5YR6 5/2.5	vf(VR)	m-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
518	高杯	29.0*	10YR7/3	vf(VR)	vc-vf(VF)			chert gr m(VR)
521	高杯	25.9*	7.5YR5 5/3	f-vf(VR)	c-vf(VF)	f-vf(R)	vc-vf(VF)	クサリレキ
532	壺胴部	(底)14.2	7.5YR6 5/4		vc-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	granite gr
533	高杯	26.4*	10YR5/4		c-vf(VF)		vc-vf(VF)	gabbro gr
537	高杯		2.5Y3.2	vf(VR)	c-vf(VF)		c-vf(VF)	gabbro gr

V まとめ

西ノ辻遺跡台10次発掘調査で出土した遺物には、縄文時代から室町時代の土器類・瓦・土製品・木製品・石製品・金属製品のほか自然遺物などがある。これらのうち、最も出土量の多いものは、土器類である。以下では、時代ごとに分けて出土遺物の特徴についてまとめてみたい。

鎌倉・室町時代

鎌倉・室町時代の遺物は、主に井戸・溝などの遺構内から出土している。各遺構内出土の資料は、一括性の高いものである。ここではまず、瓦器碗を基準に各遺構の時期決定をおこないたい。瓦器碗からみた各遺構の時期については、表にまとめた。

時 期	井 戸	溝	土 ころ	建 物	柱 穴
12世紀後半	31・32		20		
13世紀前半	7・17・29・30	16	21	2	
13世紀後半	1・2・5・6・8・11・ 12・13・14・15・16・ 18・20・21・22・25・ 26・27・33	1・2・3・4・5・6・7・ 8・9・10・12・13・ 14・15・18・19・20	2・3・4・5・7・10・ 11・12・13・14・15・ 16・17・18・19・23・ 24・25	1・3・4・5	1・2・3・4・5・6・7・ 8・9・10
14世紀前半	3・4・10・19・23・28	11・17・21・22	1・6・8・9・26・27		
14世紀後半	9・24	22			11・12・13・14・15・ 16・17・18

これらの遺構出土の瓦器碗についてみると、13世紀後半から碗Aが増加し、14世紀には、そのほとんどが碗Aになる。このような傾向は、神並遺跡をはじめとする生駒西麓部の他の遺跡でも認められる。

従来からいわれている和泉型や大和型がそのまま生産地をしめすとすれば13世紀後半をさかに搬入先が一定の地域に定まることになる。今後、平野部の状況をも考慮してその歴史的意義を考えなくてはならない。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の出土遺物は、他の時期にくらべると極めて少ない。

土師器のうち、煮沸用の羽釜・かまどは、生駒西麓の胎土であるが、他の供膳用の土器や煮沸用の土器は、他地域の製品である。生駒西麓産の羽釜やかまどは、奈良・平安時代に畿内各地の諸遺跡から多数出土している。これらのことを考えあわせると、この時期には、都城以外に

市などをとおして畿内各地の物資が盛んに流通していたことが推定できる。

須恵器は、近年の生駒市の発掘調査によって生駒山の東側に多数の窯跡の存在することが明らかになっている。これらの窯から製品が本遺跡へ供給されていたことも十分考えられる。今後検討しなければならない課題である。

古墳時代

古墳時代の遺物は、水利関連施設内をはじめ、これを覆う包含層から多量に出土している。これらの出土遺物は、大きく水利施設に伴う古墳時代中期末頃のものと、包含層出土の古墳時代後期のものに分けることができる。

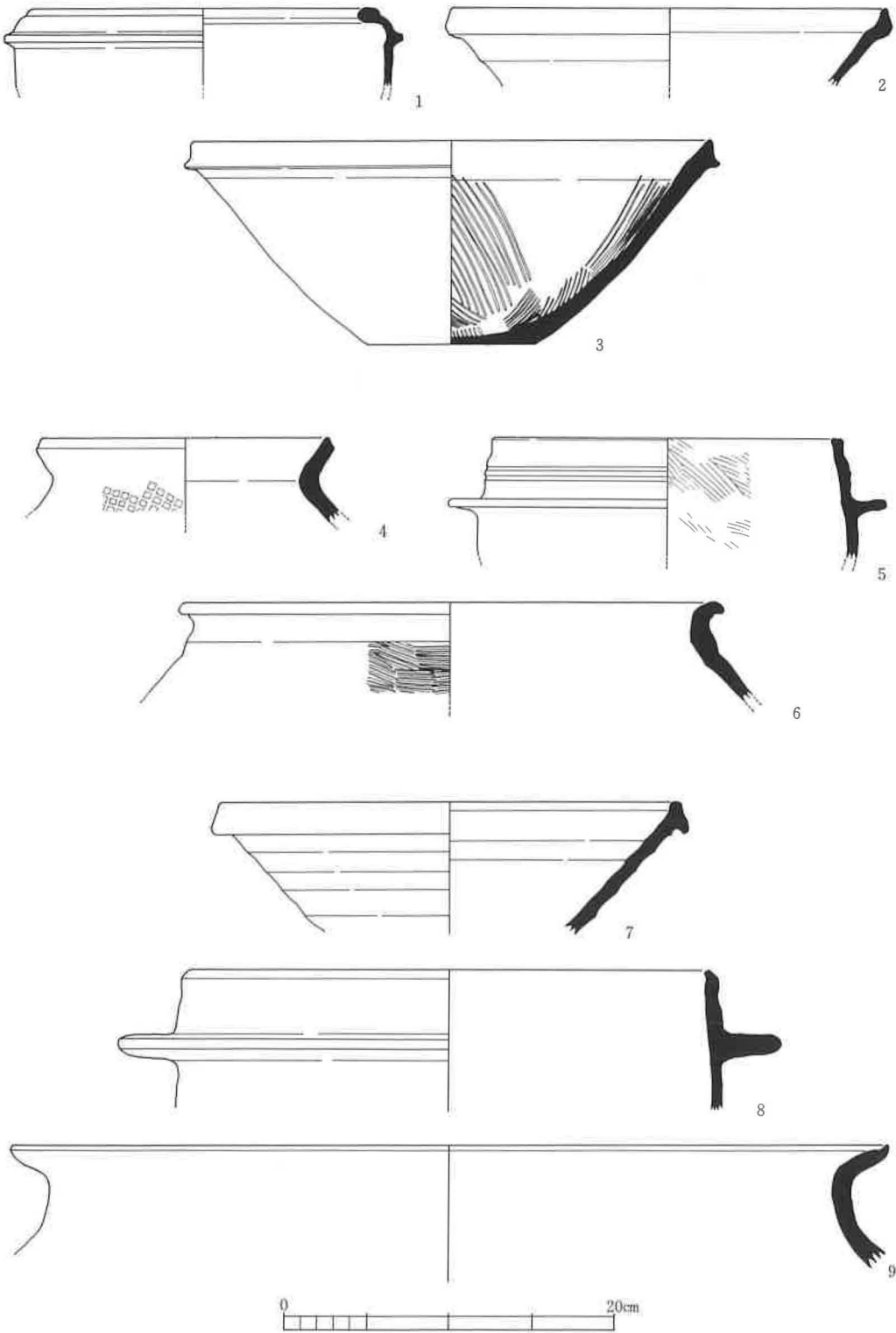
中期末頃ののものには、土師器・初期須恵器・韓式系土器・製塩土器・馬の歯などがある。土師器のうち、供膳用の杯・高杯・鉢などの土器は、他地域産の精良な胎土のものがほとんどを占める。これに対して、煮沸用の土器は、在地産のものと他地域のものが存在する。甕類は、産地をとわず布留式の伝統とはことなる新たな形態や制作手法によって制作している。これらの変化には、大陸からの大きな影響を考えざるをえない。

古墳時代後期の資料の出土量は、あまり多いものではない。特に土師器の資料は、とぼしい。この時期の土師器編年については、ほとんど研究されていないのが現状である。当地域で早急に良好な資料が検出されることを期待したい。

圖

版

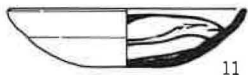
図版一 出土遺物実測図(土器類)



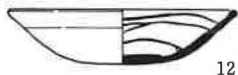
图版二 出土遺物実測図 (土器類)



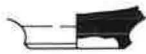
10



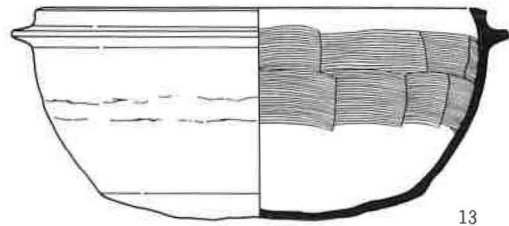
11



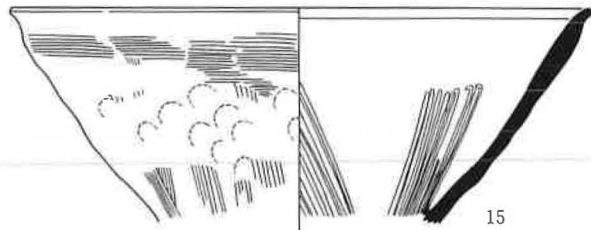
12



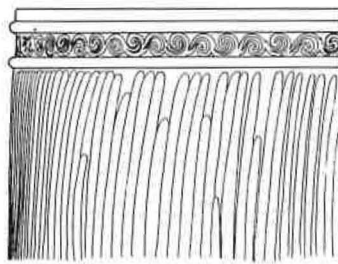
14



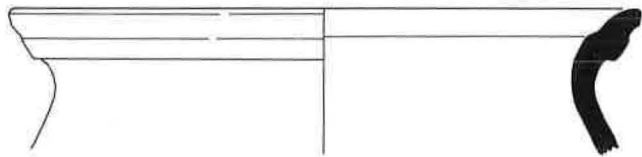
13



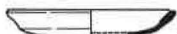
15



16



17



18



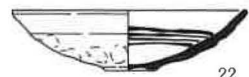
19



20



21



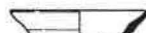
22



23



24



25



27



26



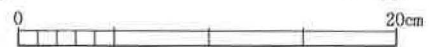
28



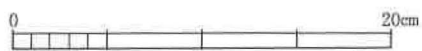
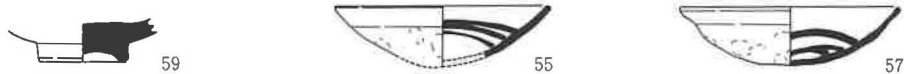
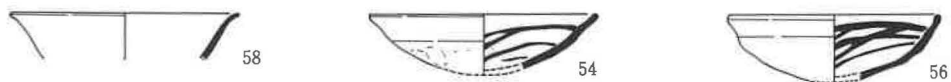
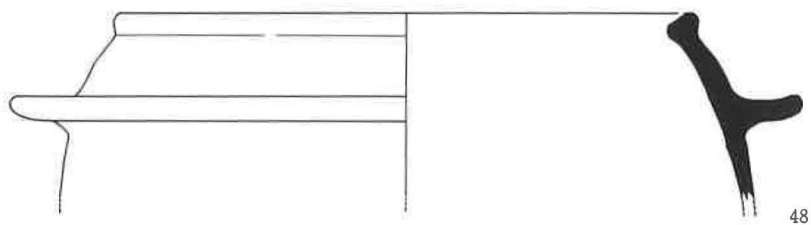
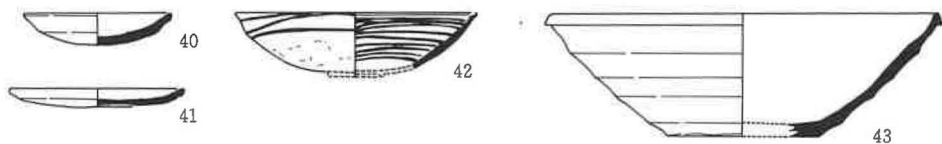
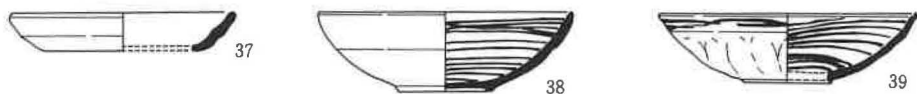
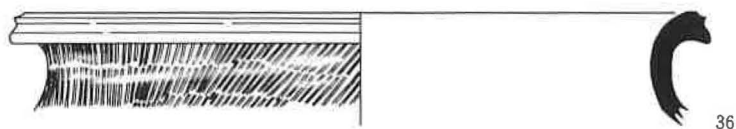
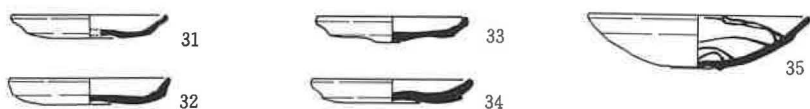
29



30

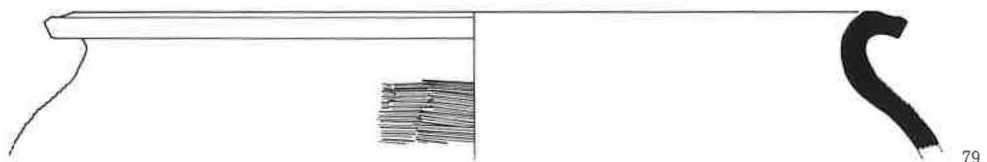
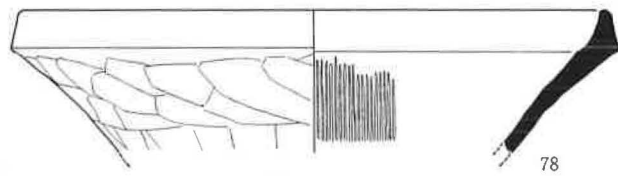
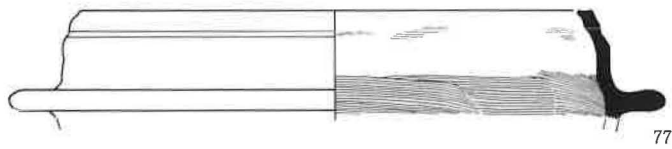
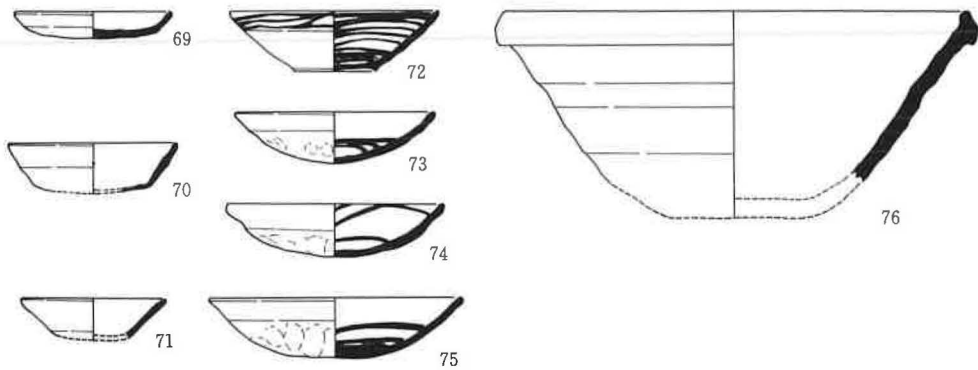
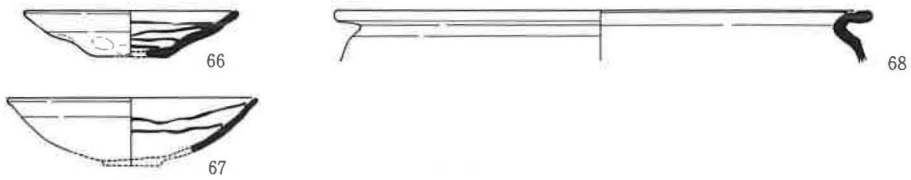
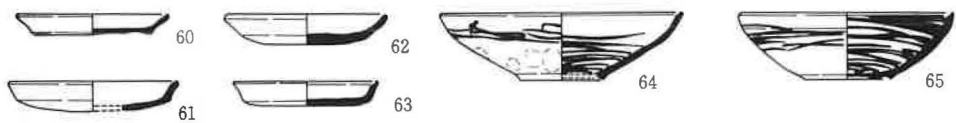


图版三 出土遺物実測図(土器類)

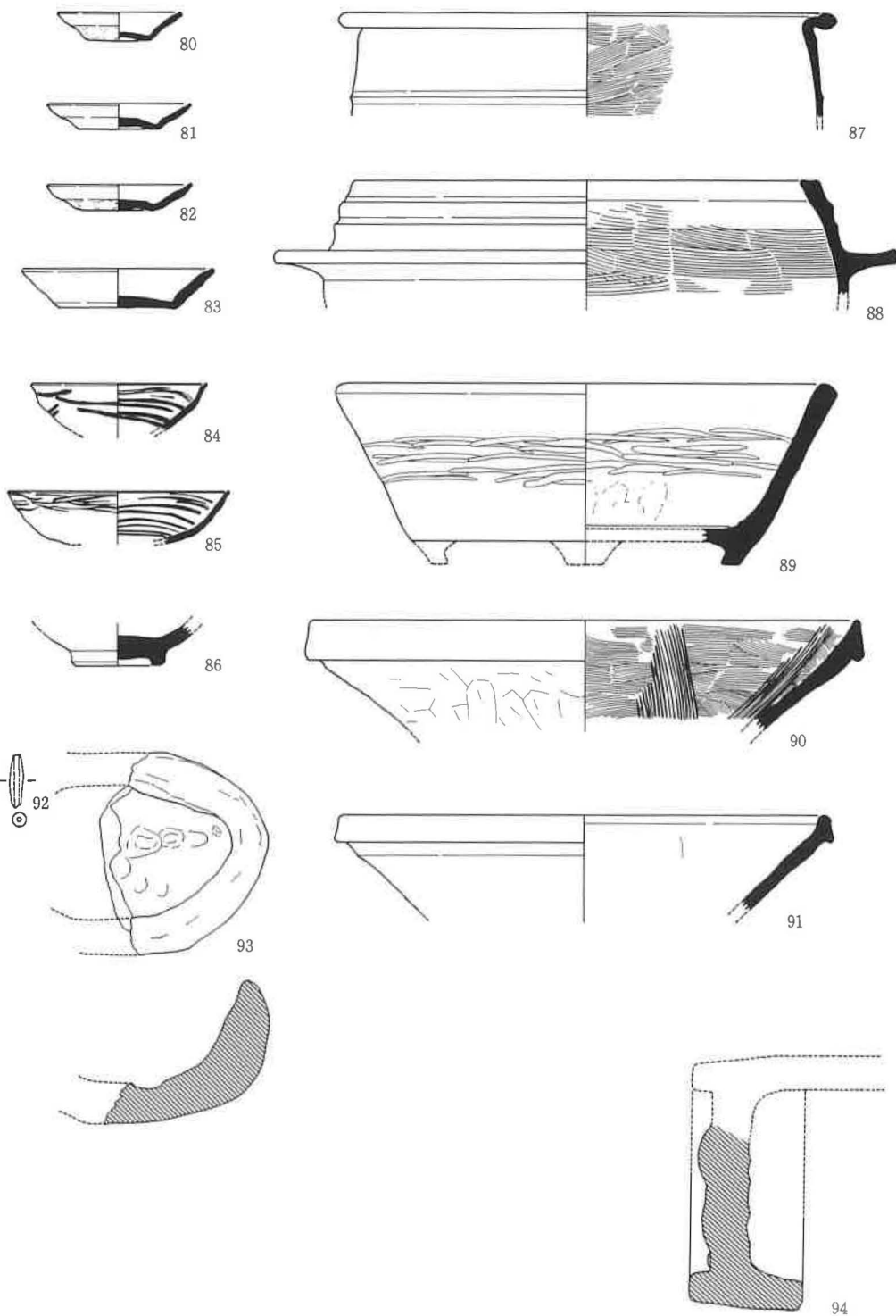


图版四

出土遺物実測図(土器類)

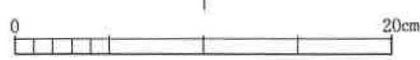
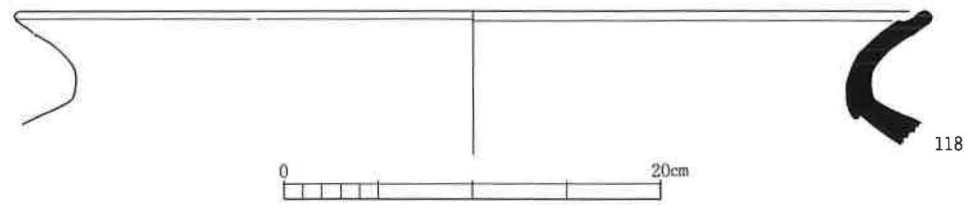
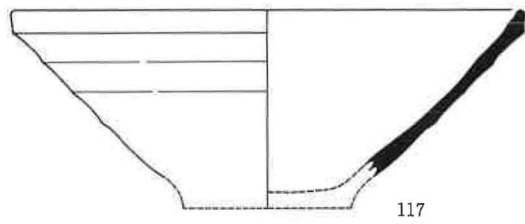
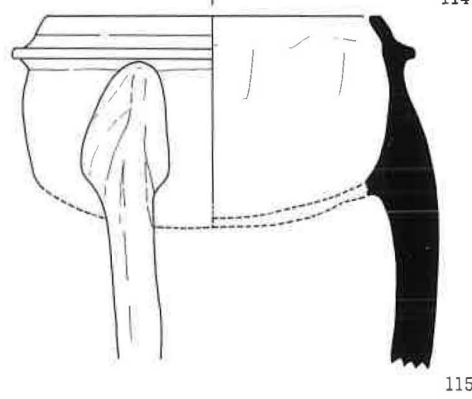
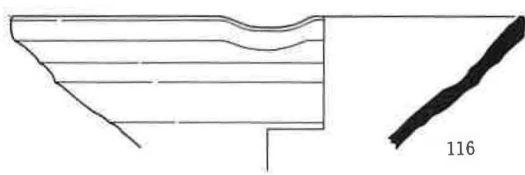
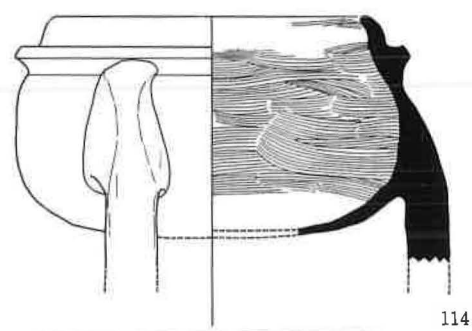
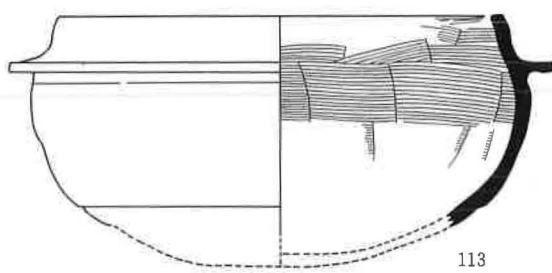
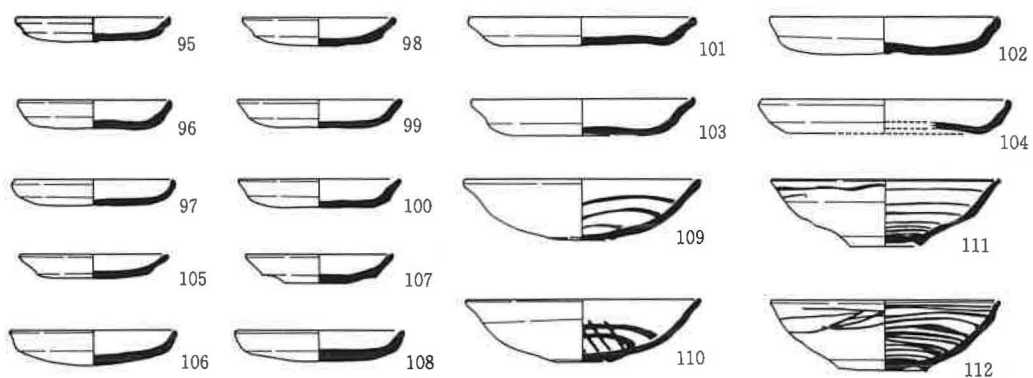


図版五 出土遺物実測図(土器類・土製品・瓦)

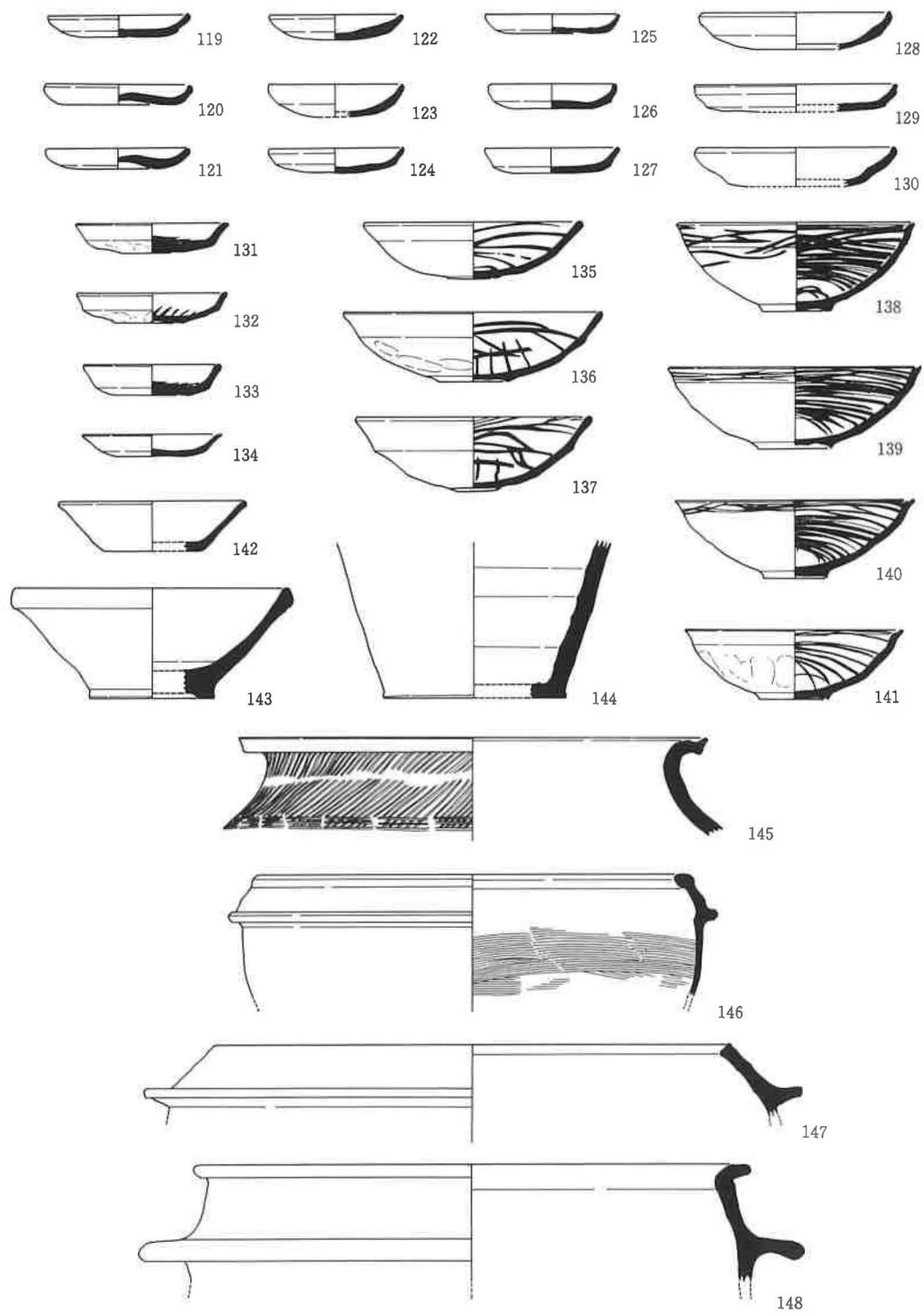


0 20cm

図版六 出土遺物実測図(土器類)

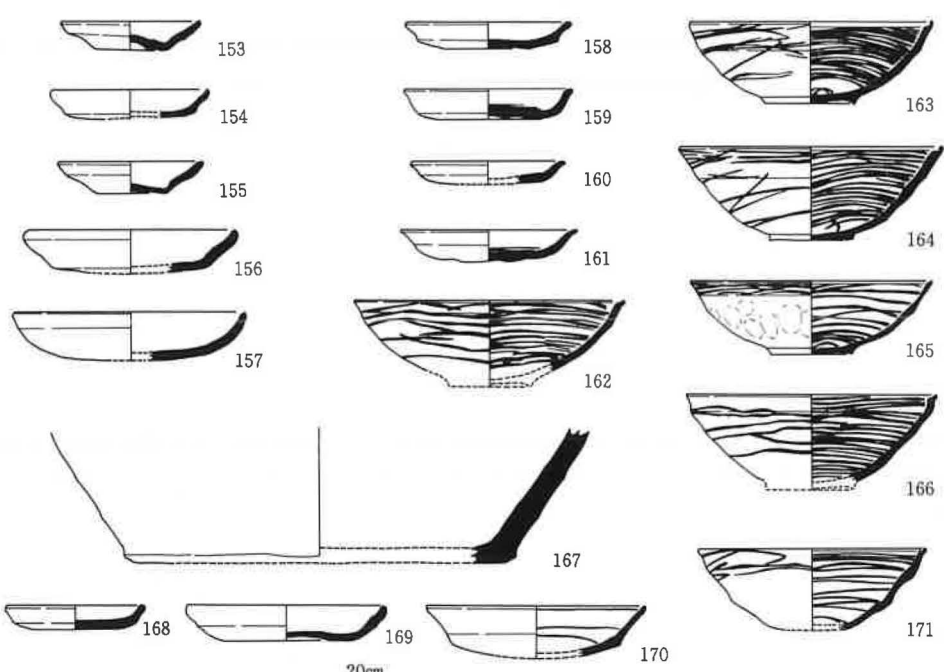
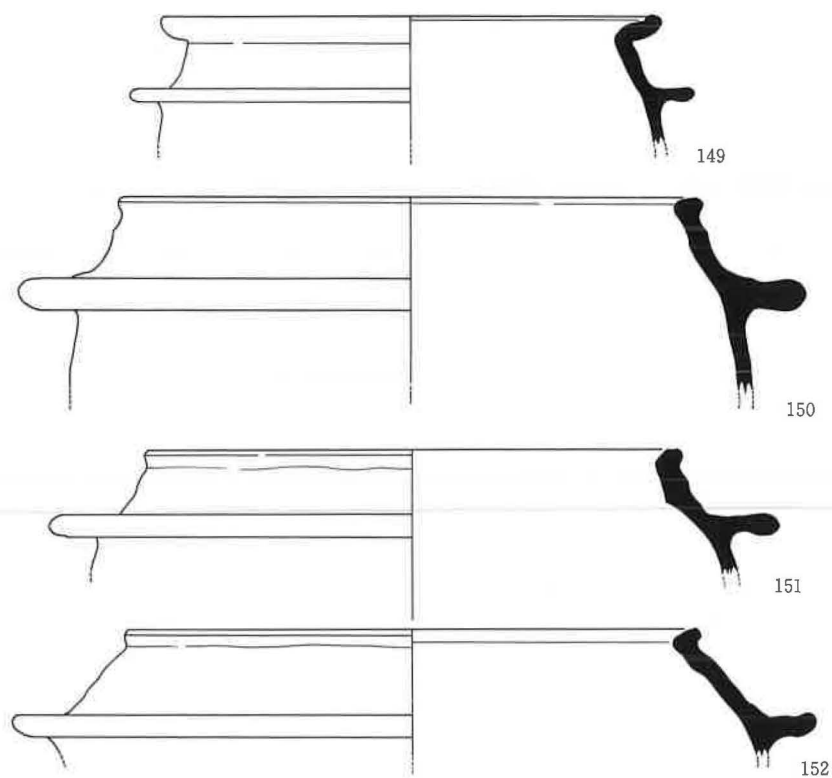


图版七 出土遺物実測図 (土器類)



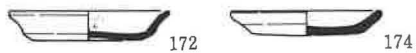
0 20cm

図版八 出土遺物実測図(土器類)



0 20cm

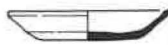
図版九 出土遺物実測図（土器類）



172



174



173



175



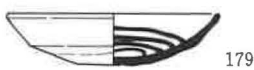
176



177



178



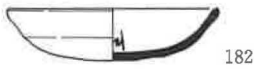
179



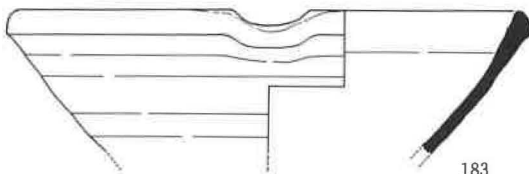
180



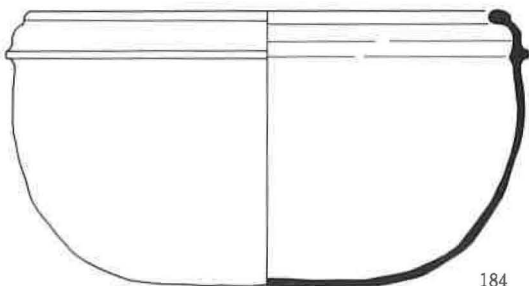
181



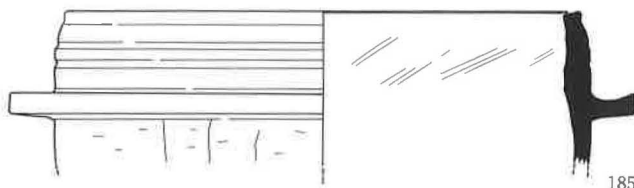
182



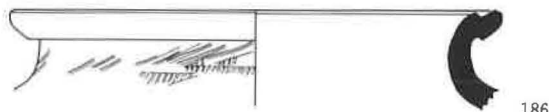
183



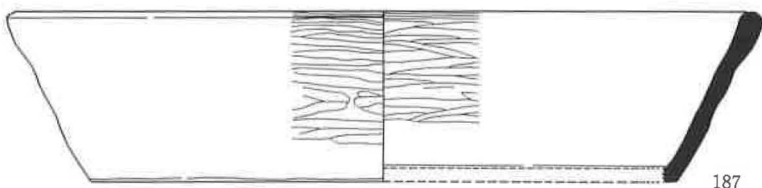
184



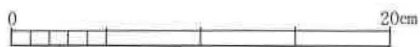
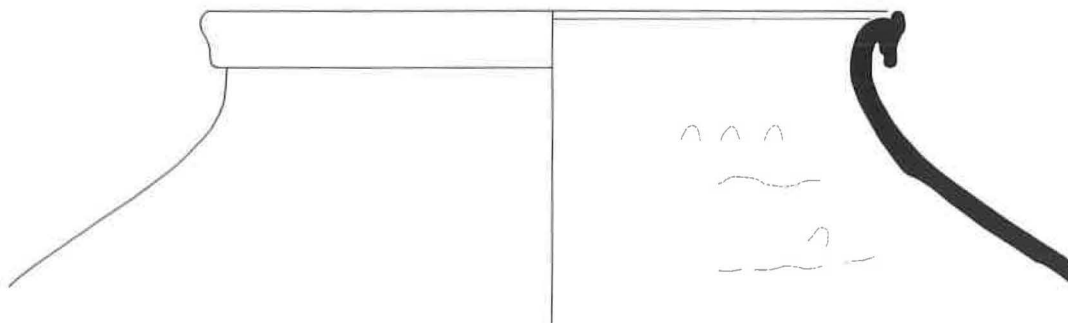
185



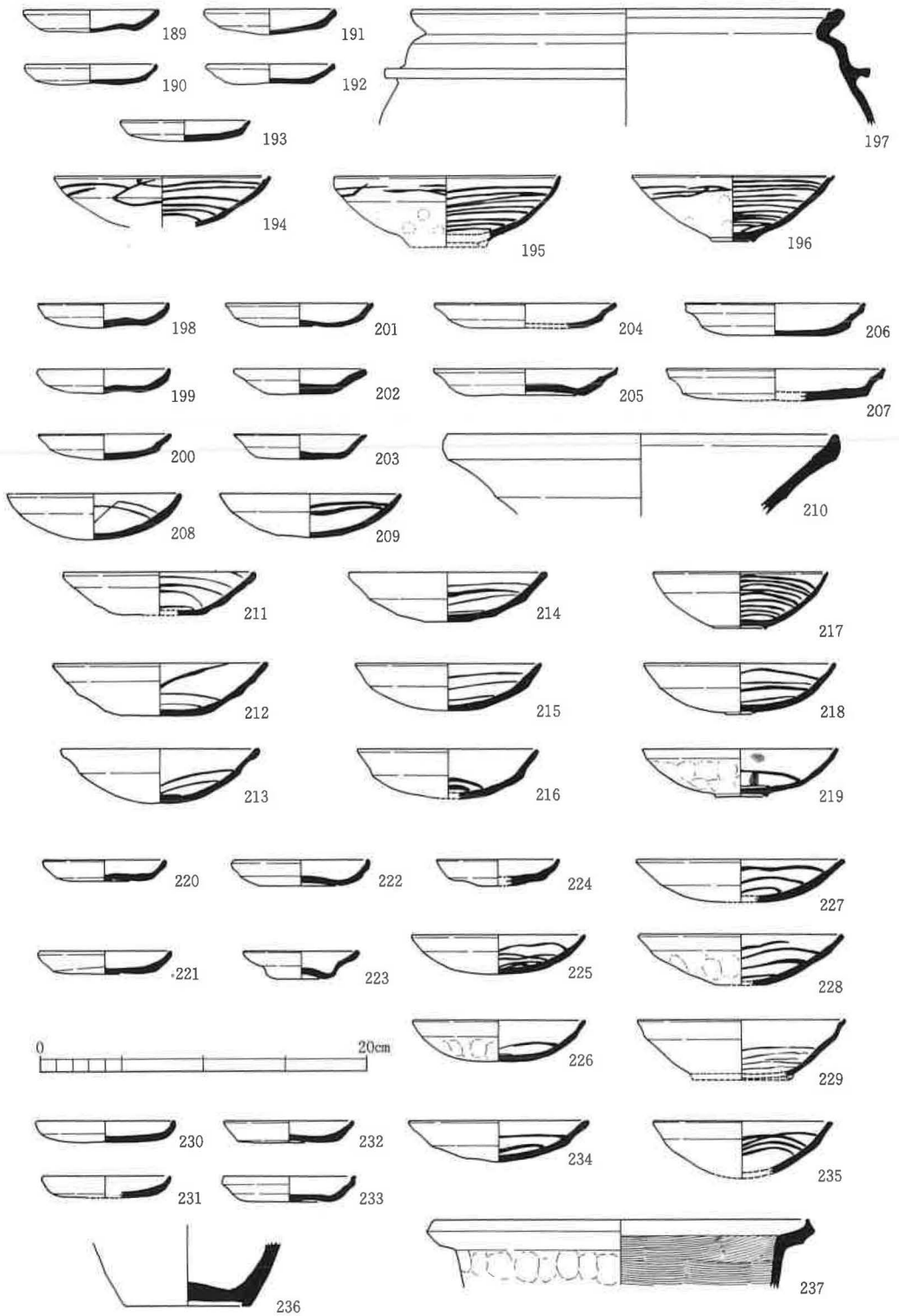
186

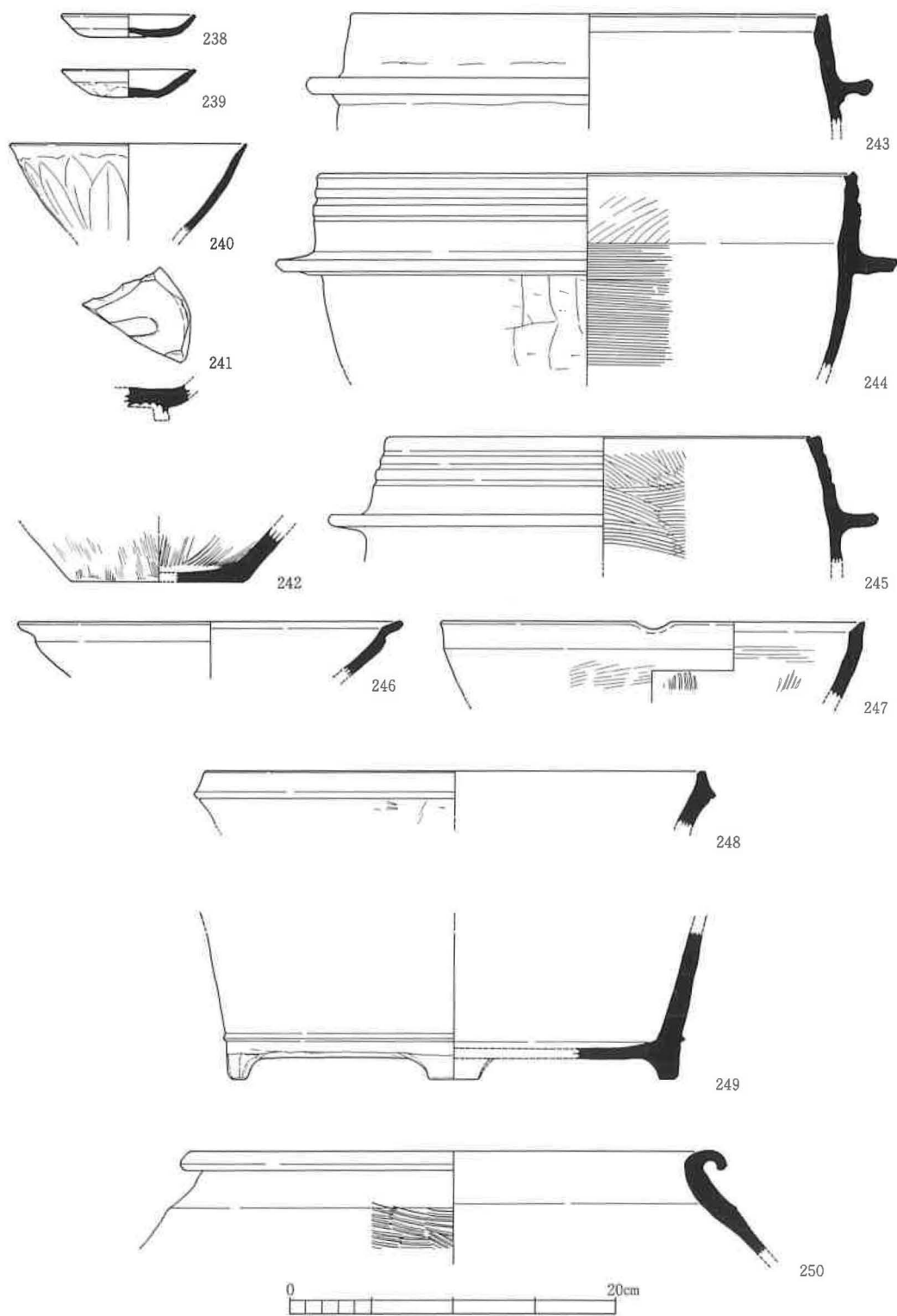


187

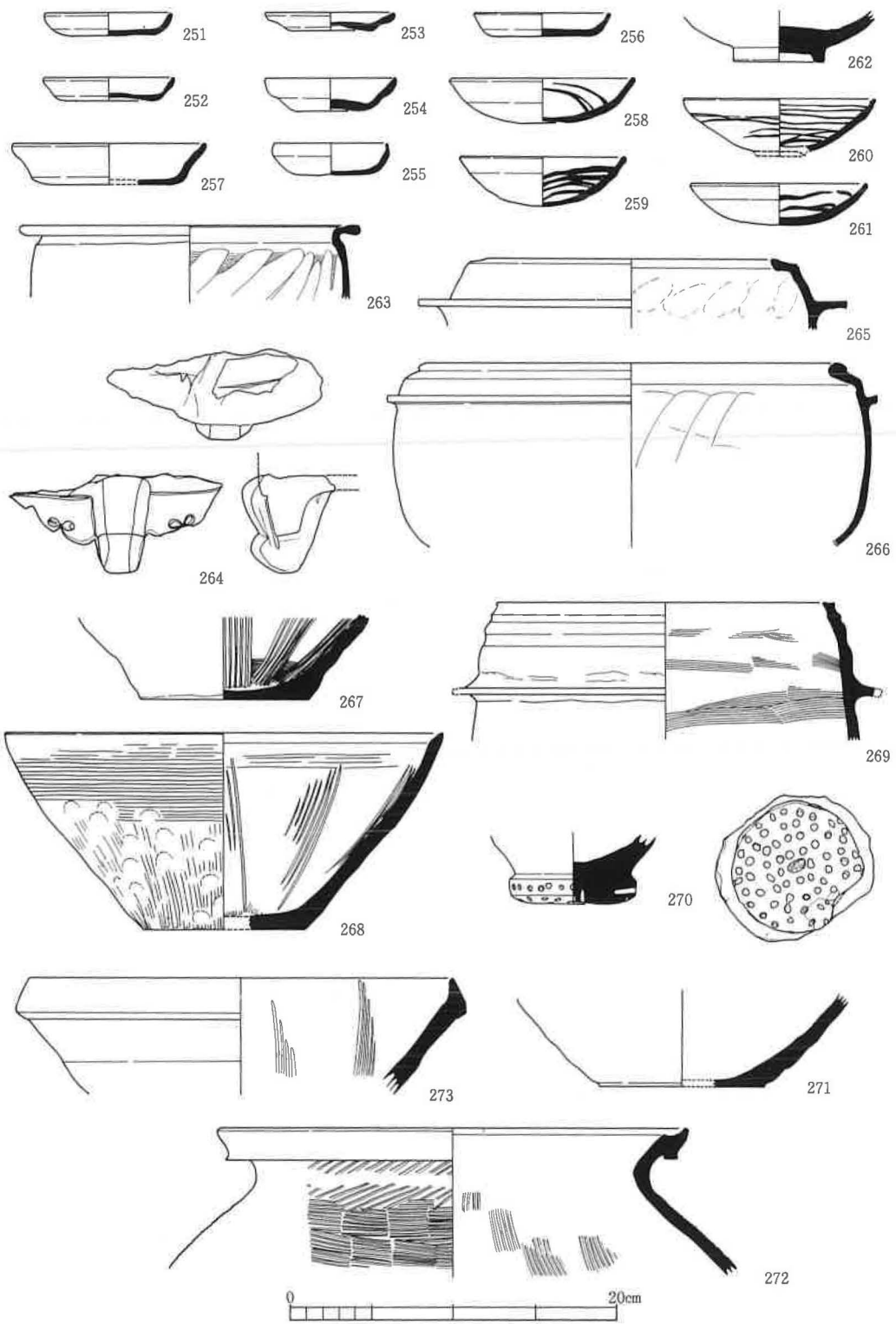


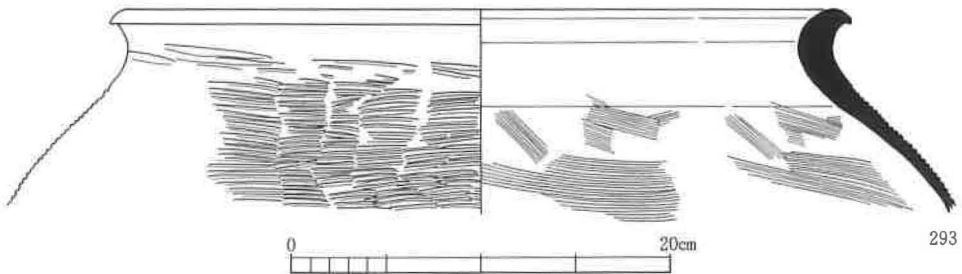
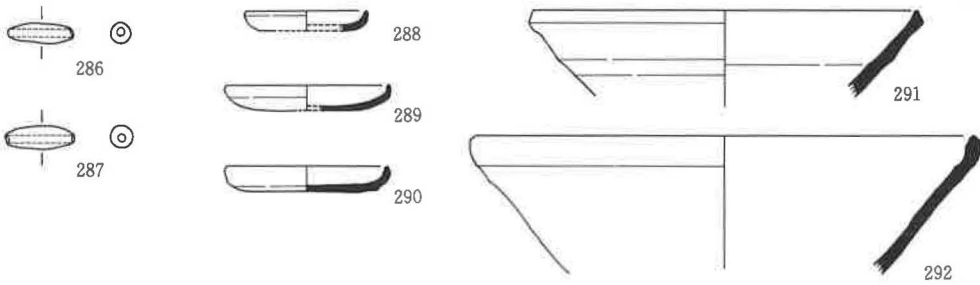
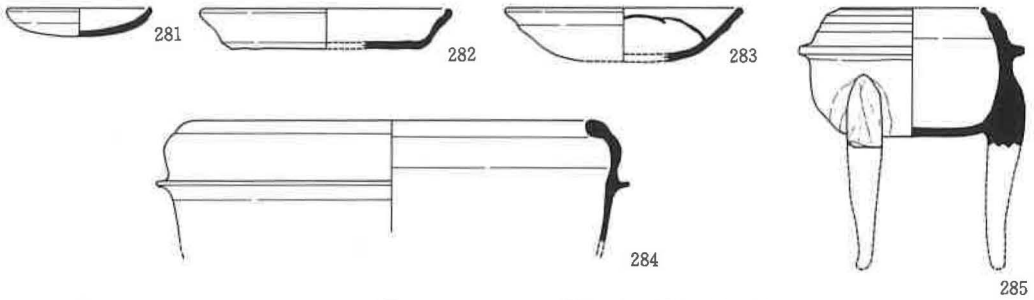
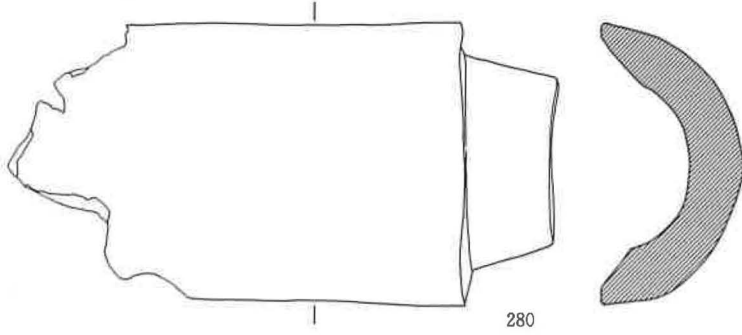
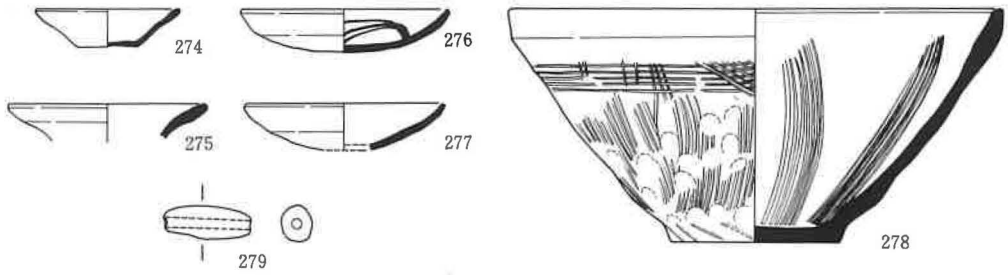
図版十 出土遺物実測図 (土器類)



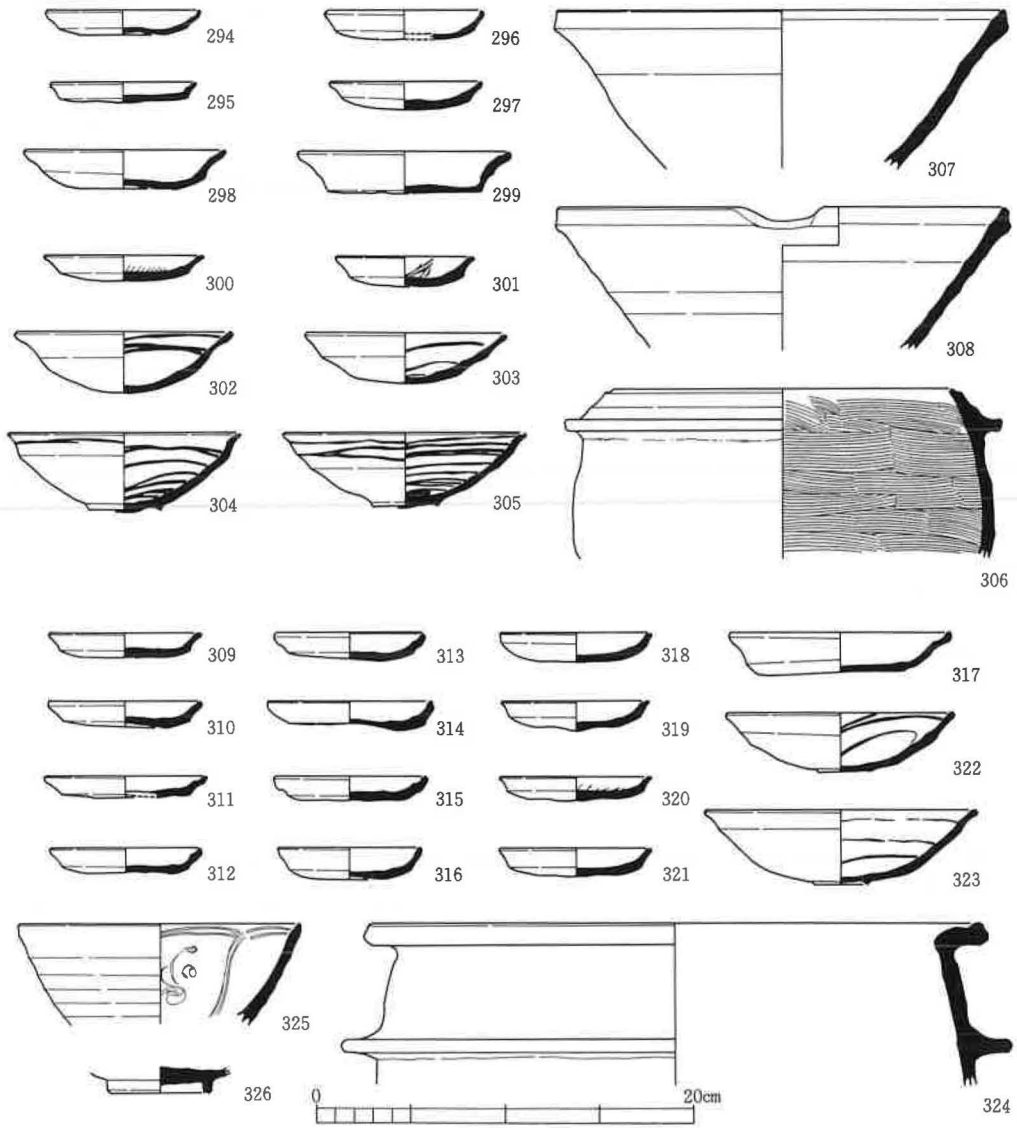


图版十二 出土遺物実測図(土器類)



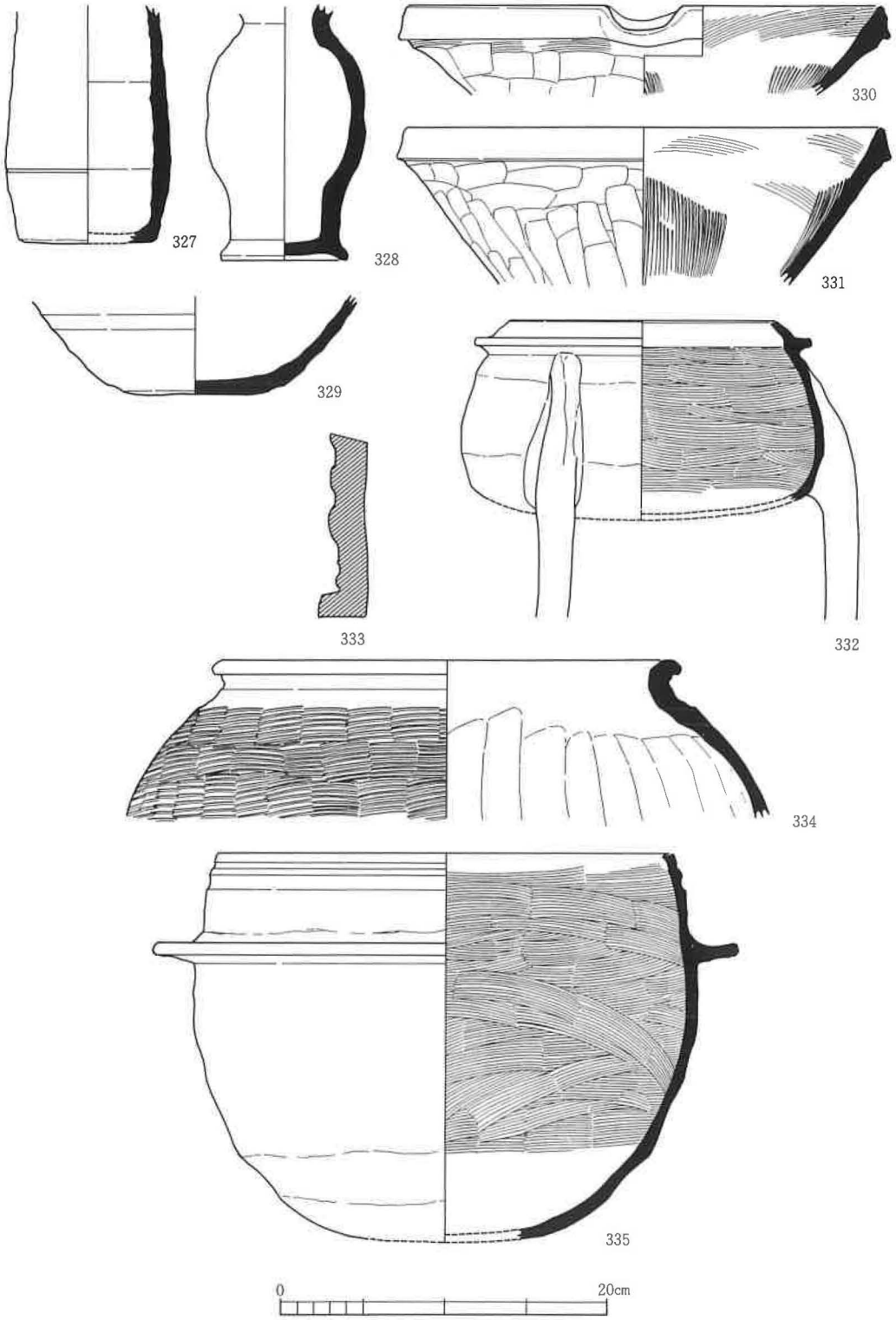


图版十四 出土遺物実測図(土器類)

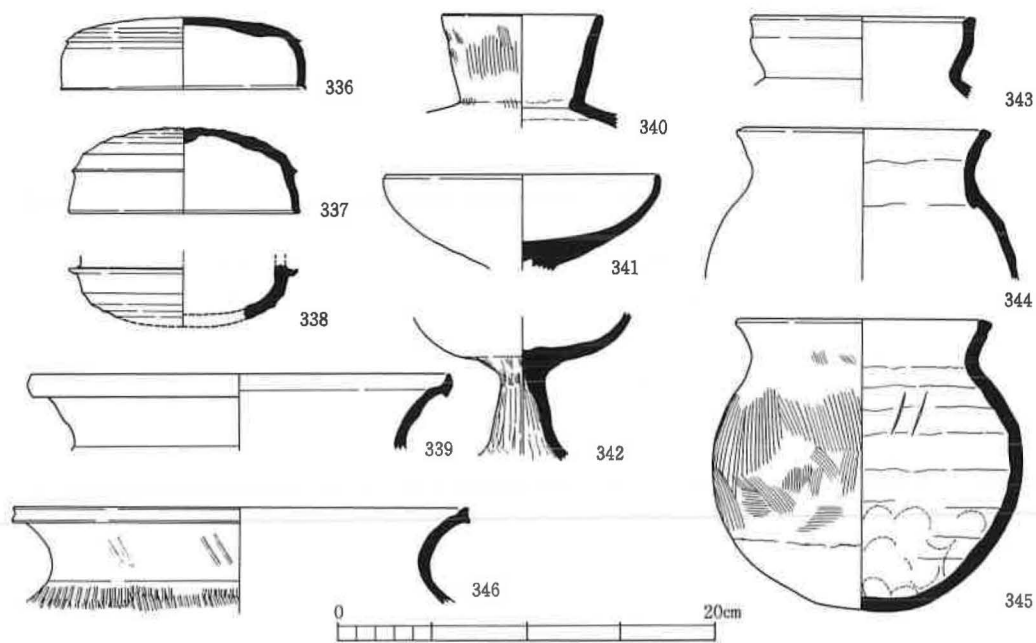


中世包含層 暗褐色土，茶灰色砂質土

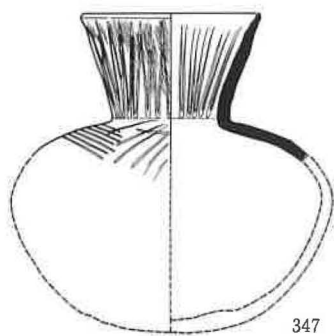
圖版十五 出土遺物實測圖（土器類・瓦）



図版十六 出土遺物実測図(土器類)



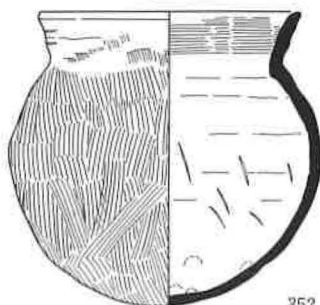
ブール



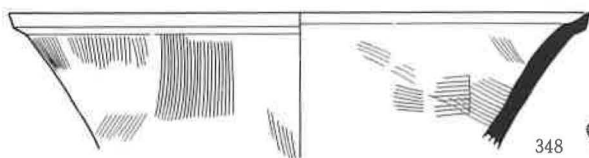
347



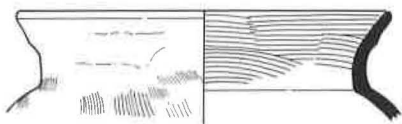
351



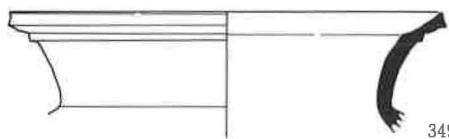
352



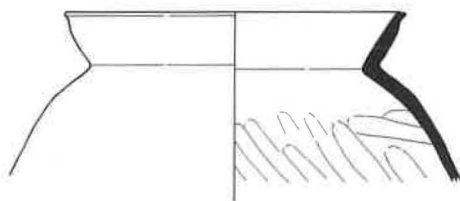
348



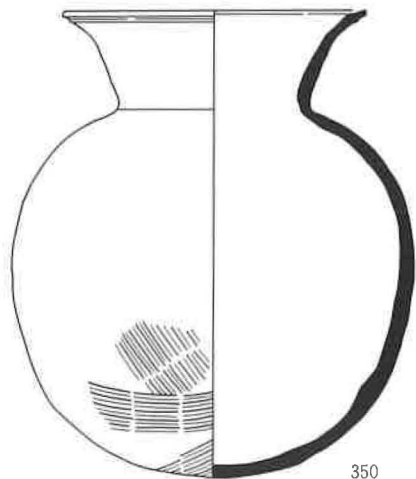
353



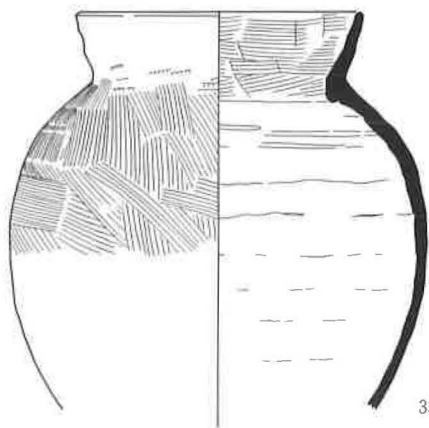
349



354



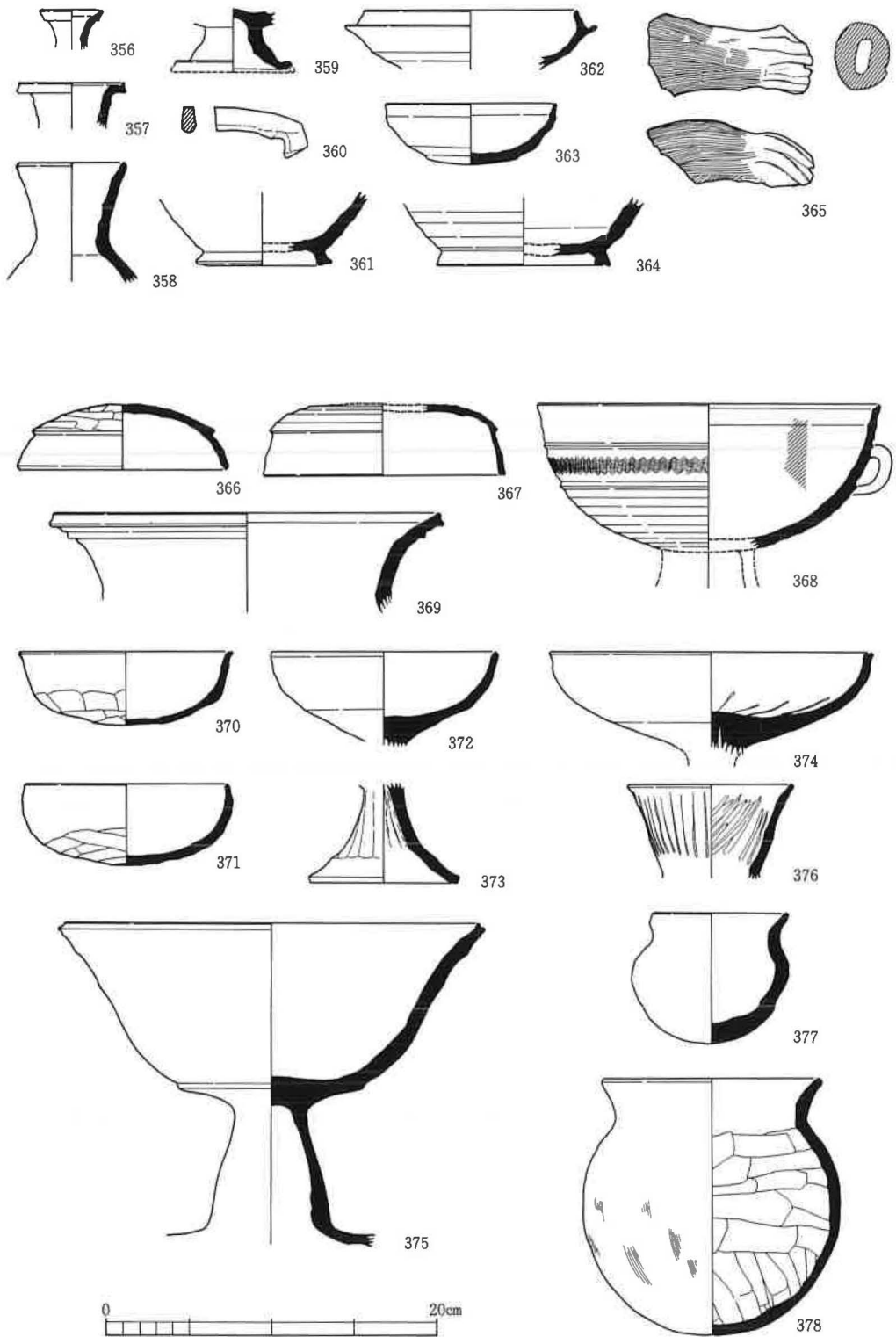
350



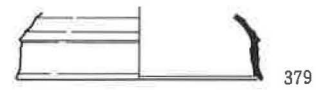
355



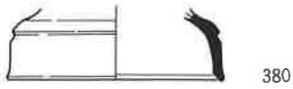
図版十八 出土遺物実測図(土器類・埴輪)



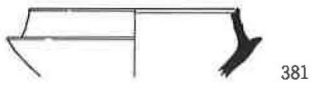
上. 灰色粘質土 下. 谷1石組ベース



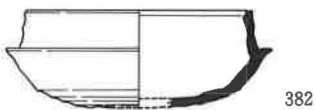
379



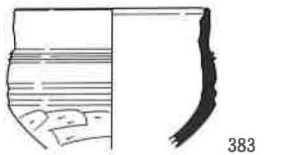
380



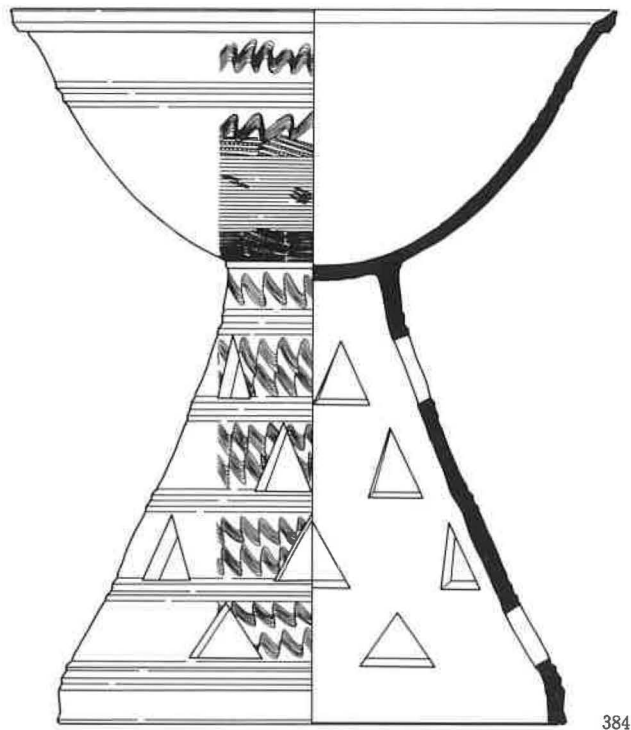
381



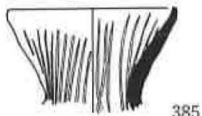
382



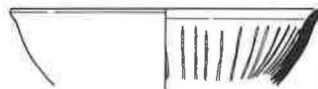
383



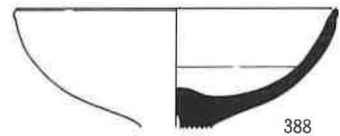
384



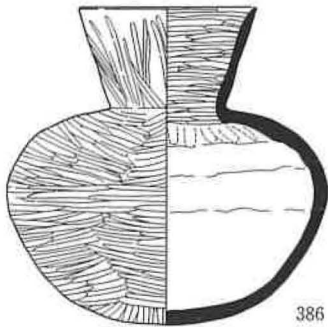
385



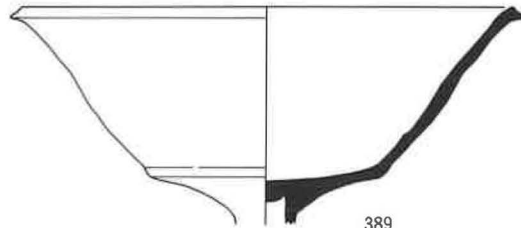
387



388



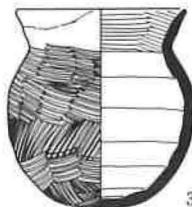
386



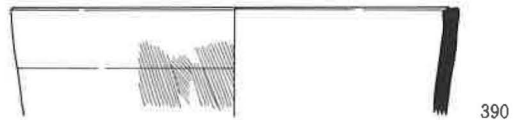
389



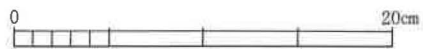
391



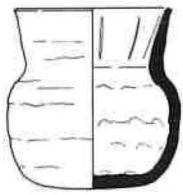
392



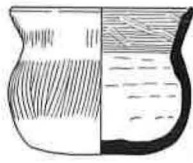
390



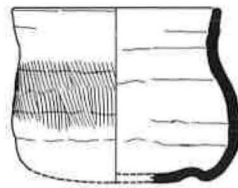
图版二十 出土遺物実測図(土器類)



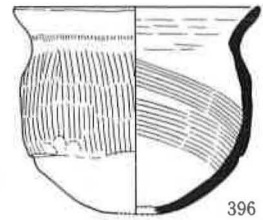
393



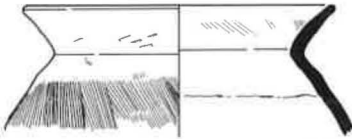
394



395



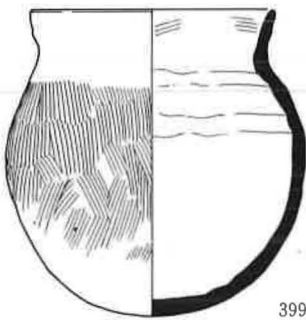
396



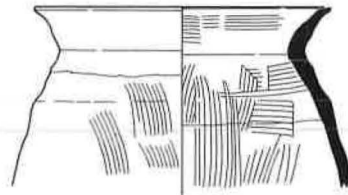
398



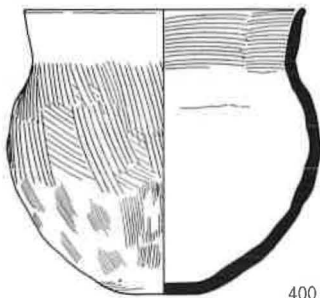
397



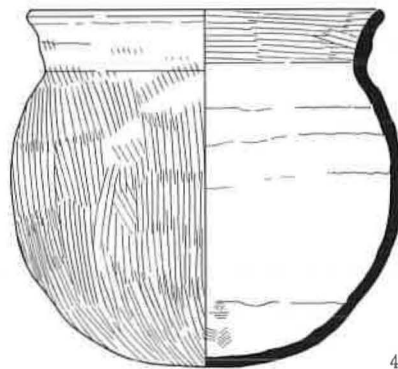
399



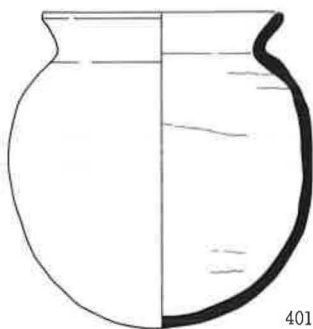
402



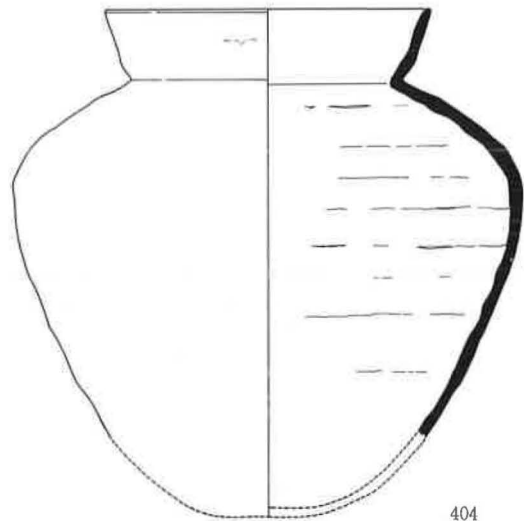
400



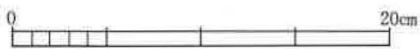
403

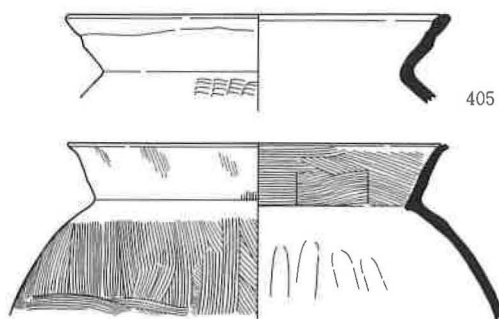


401



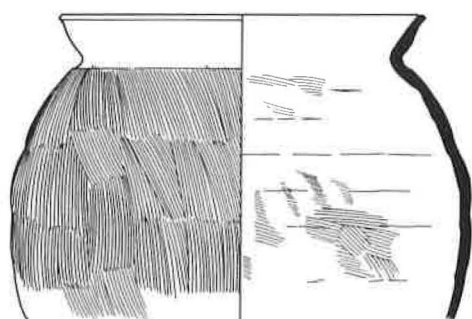
404



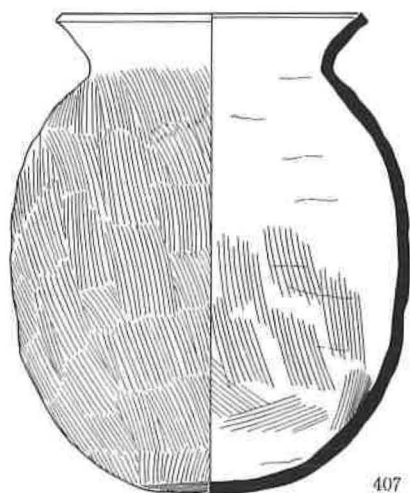


405

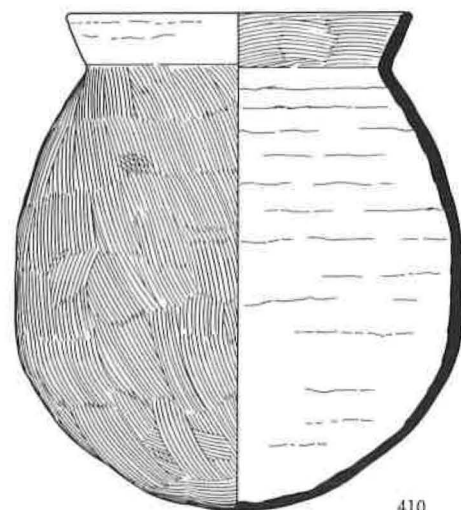
406



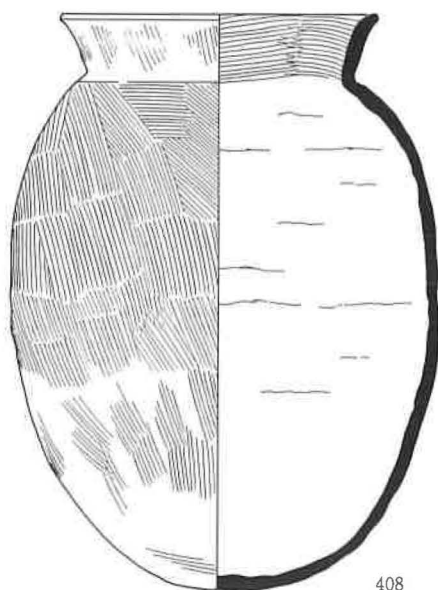
409



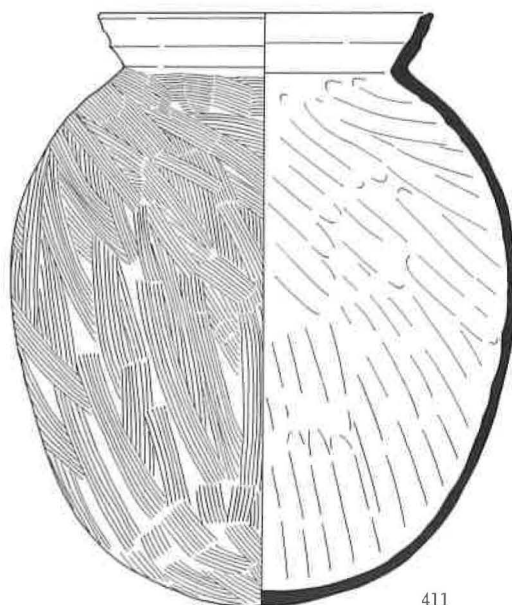
407



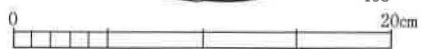
410



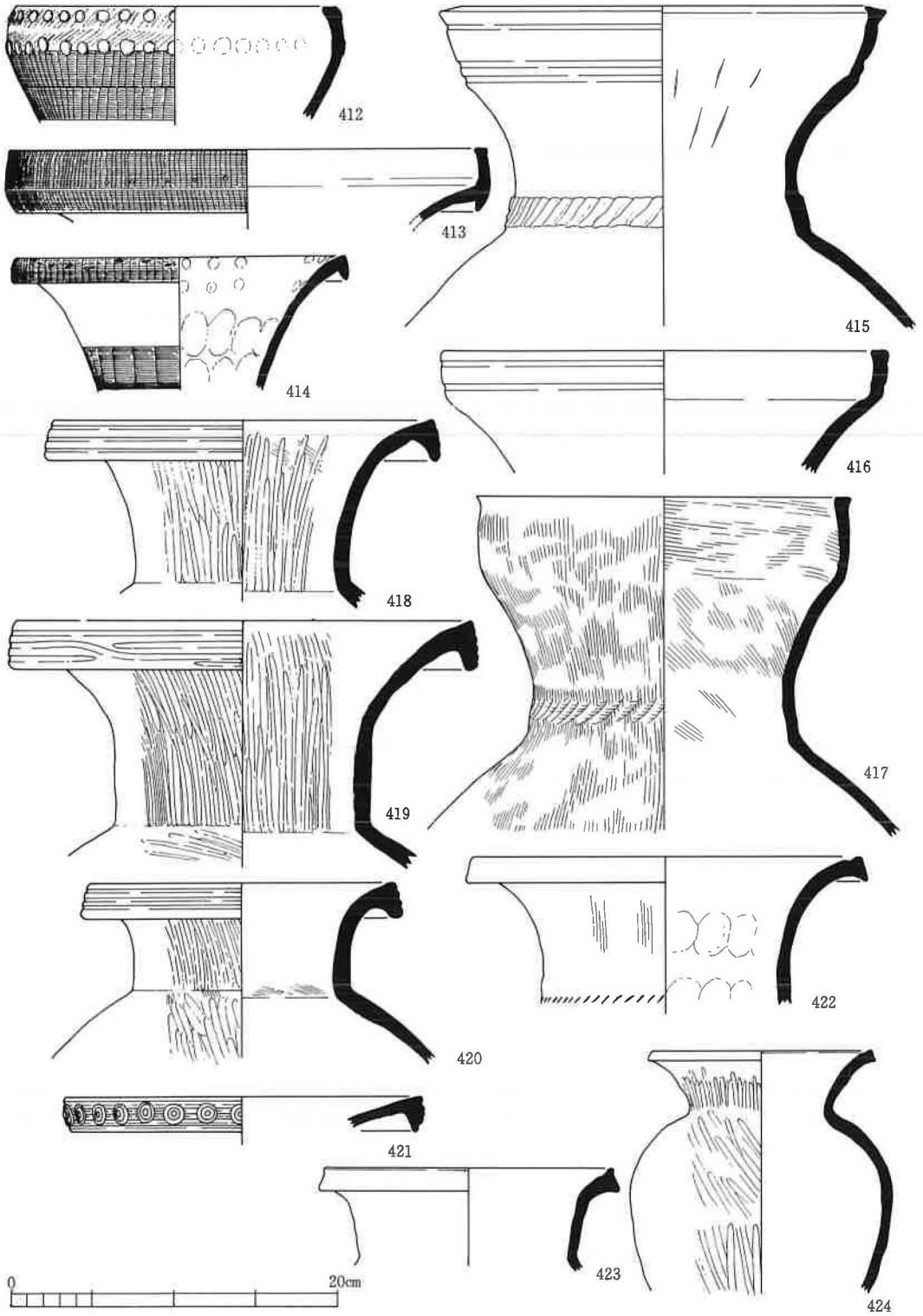
408



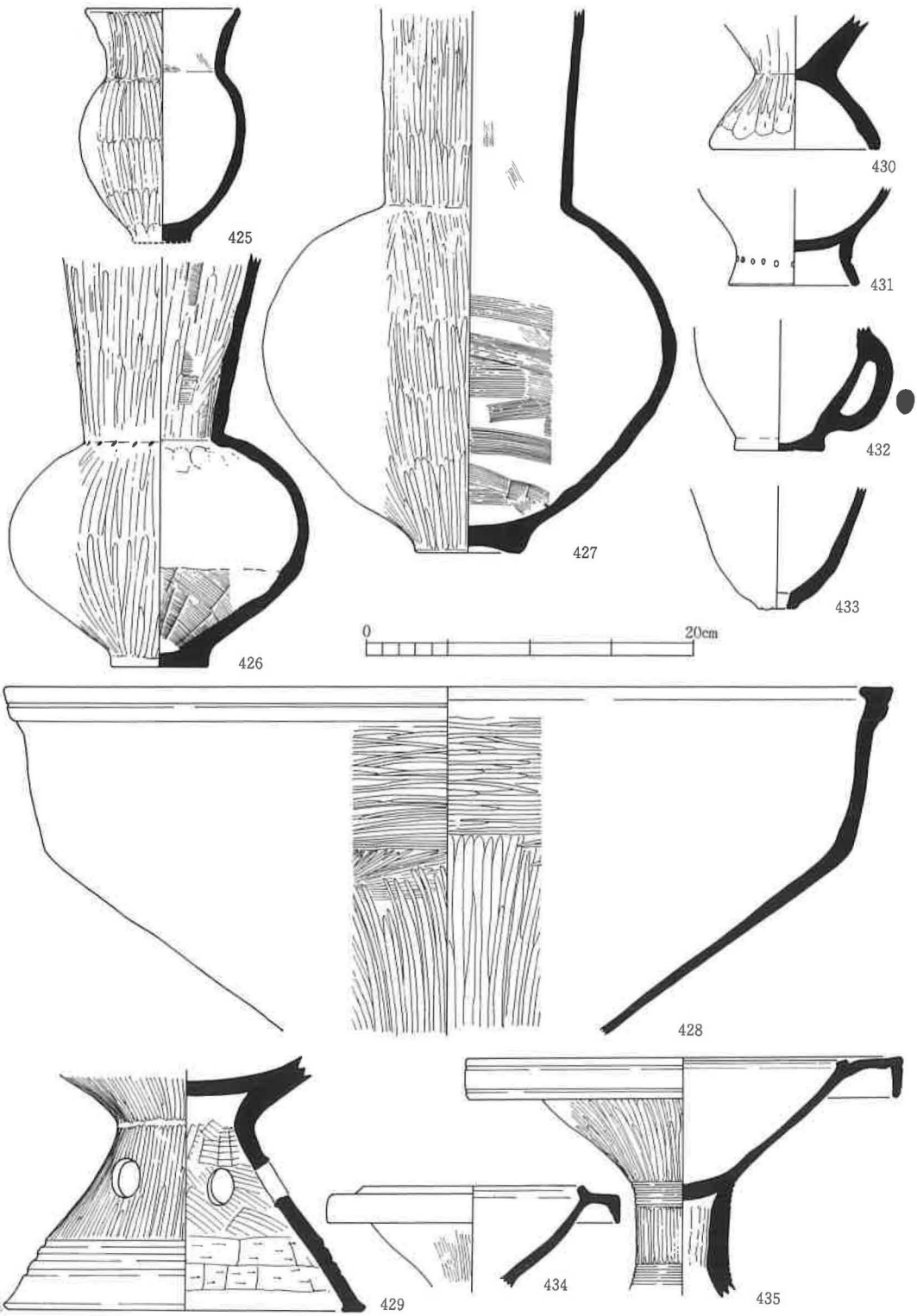
411



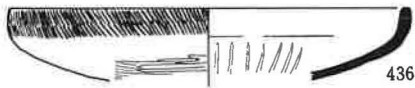
図版二十二
出土遺物実測図(土器類)



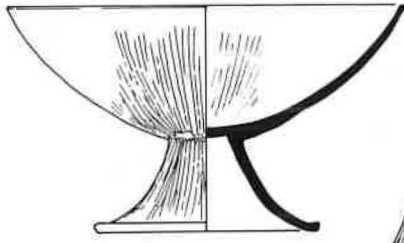
図版二十三 出土遺物実測図(土器類)



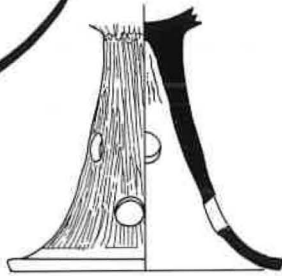
图版二十四 出土遺物実測図(土器類)



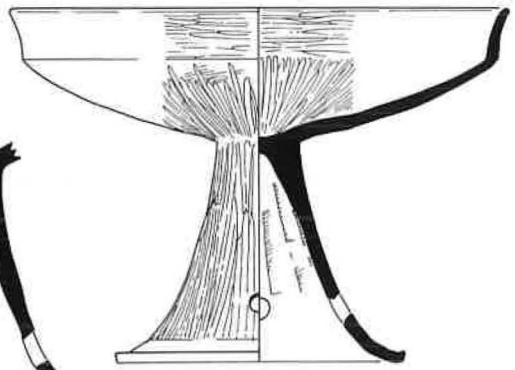
436



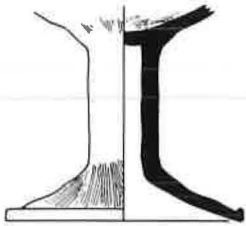
437



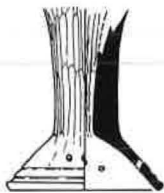
440



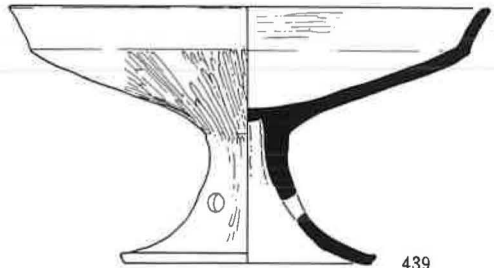
438



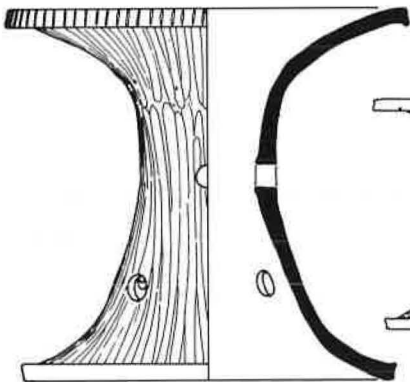
441



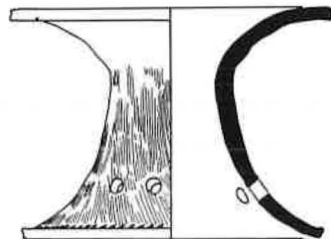
442



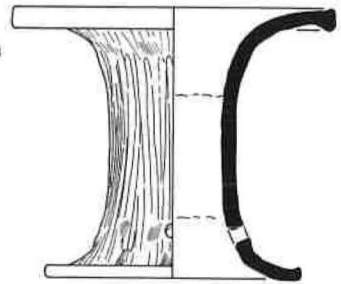
439



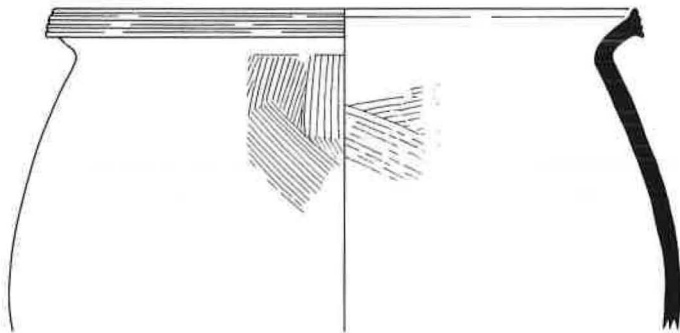
443



444

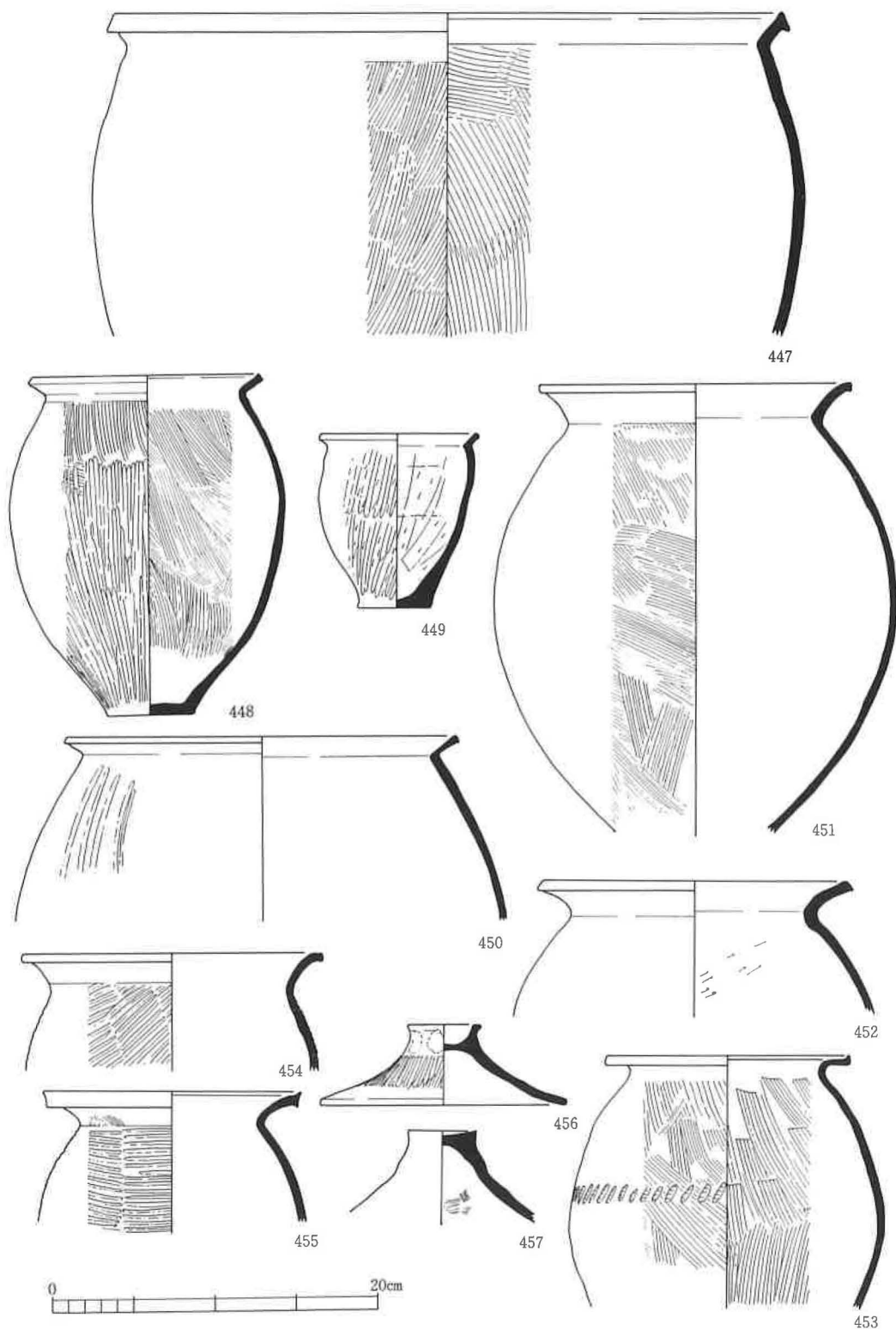


445

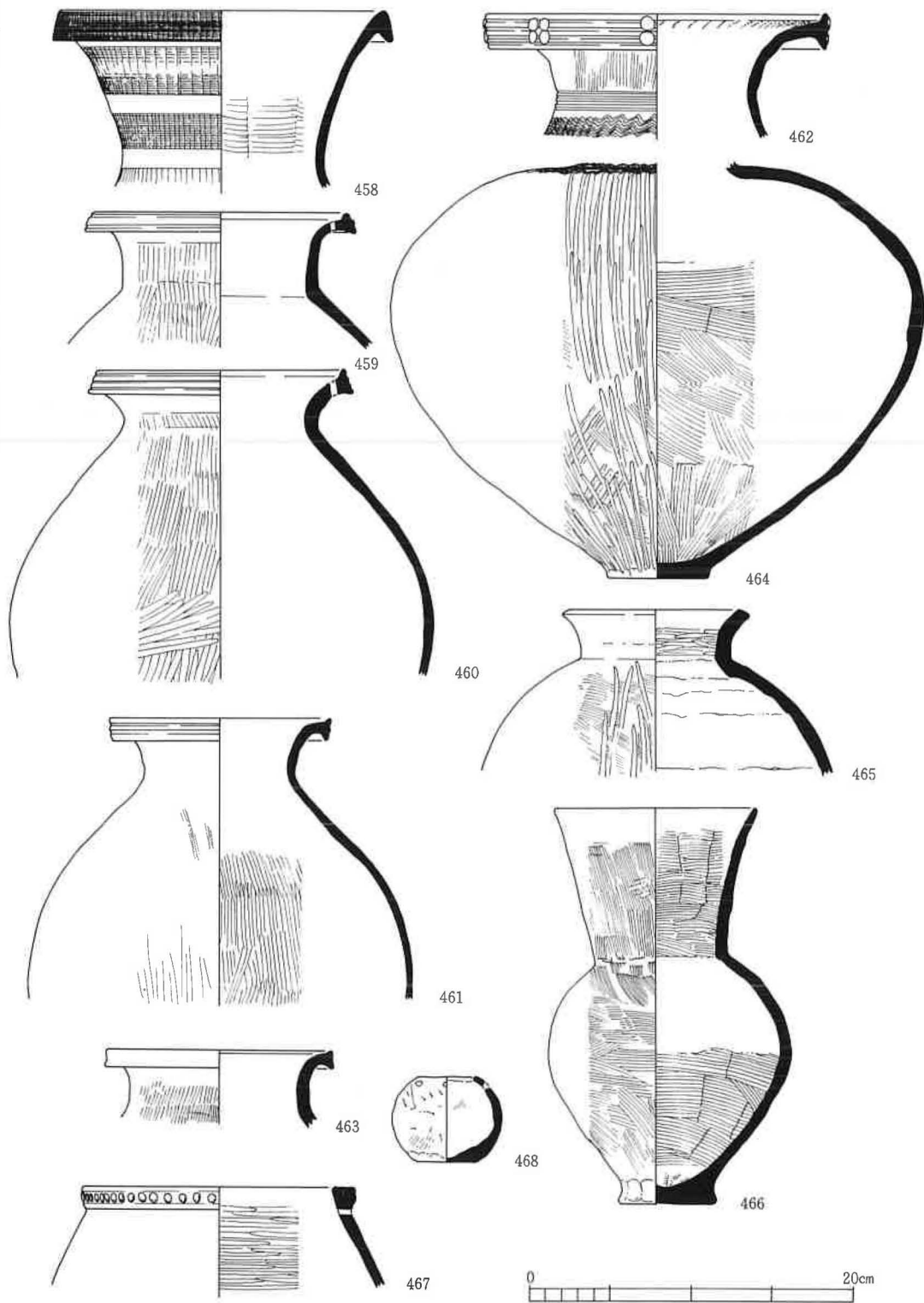


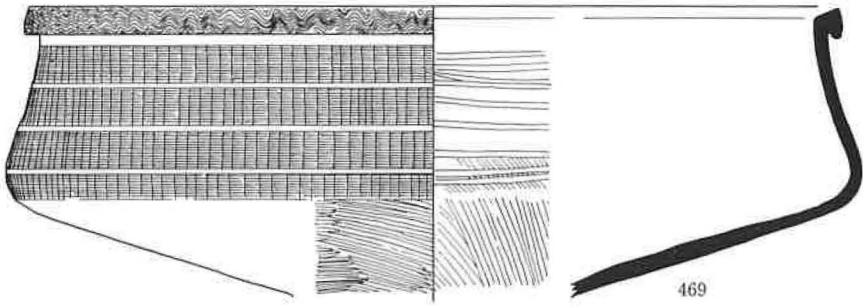
446



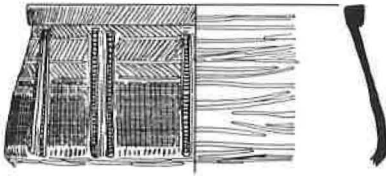


図版二十六 出土遺物実測図(土器類)





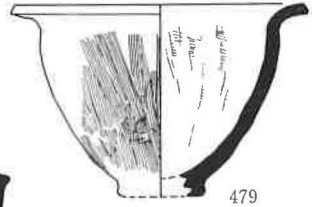
469



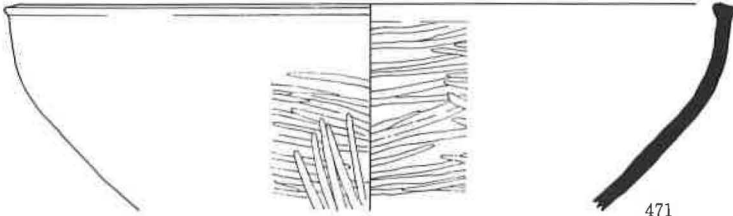
470



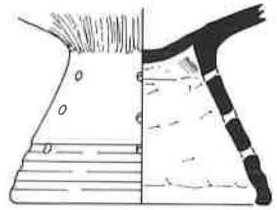
480



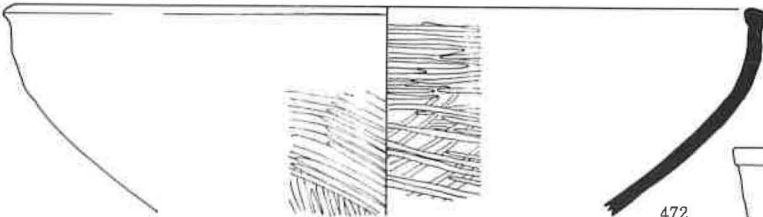
479



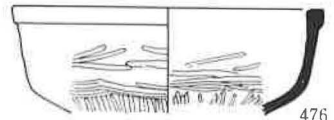
471



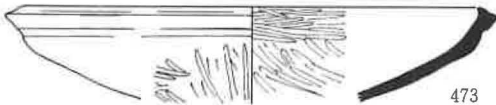
478



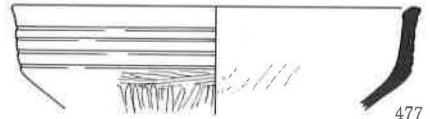
472



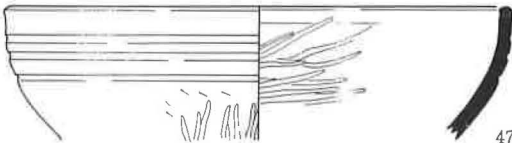
476



473



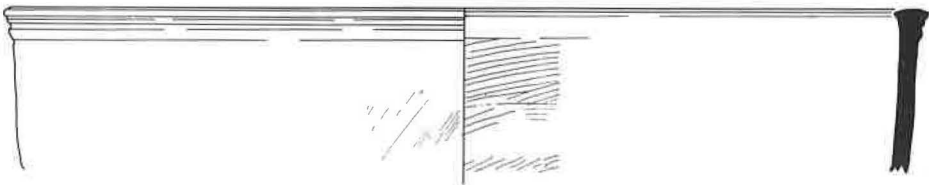
477



474

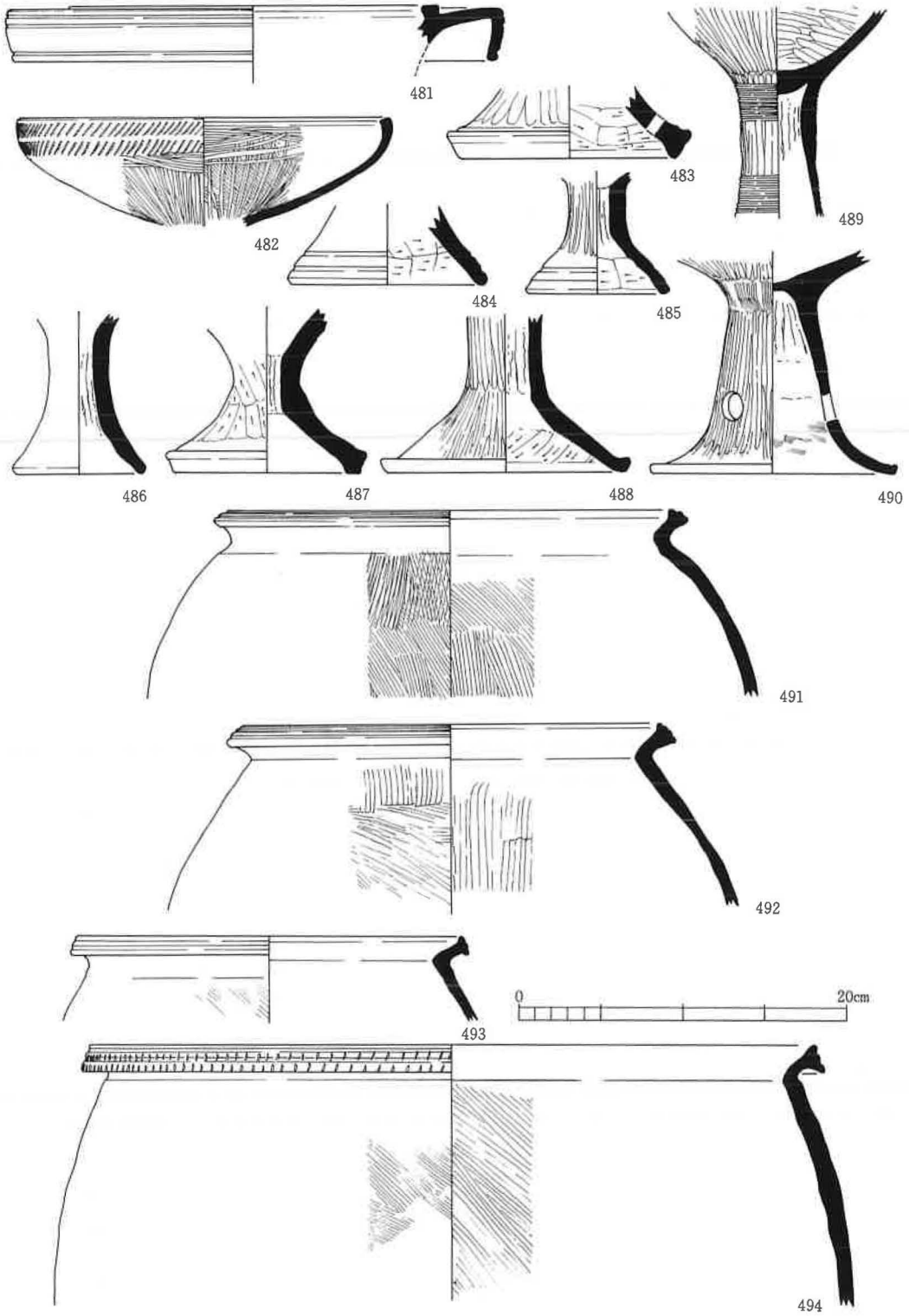


20cm

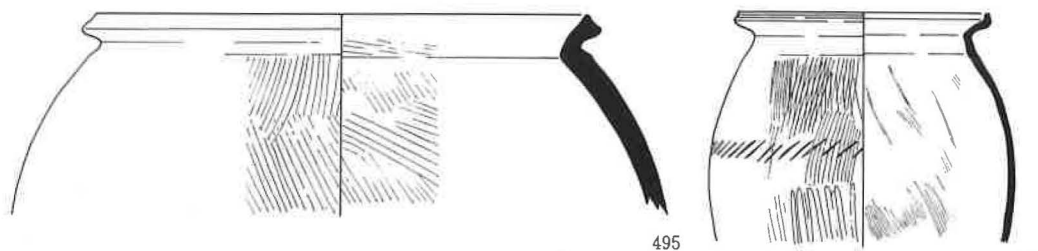


475

図版二十八 出土遺物実測図(十器類)

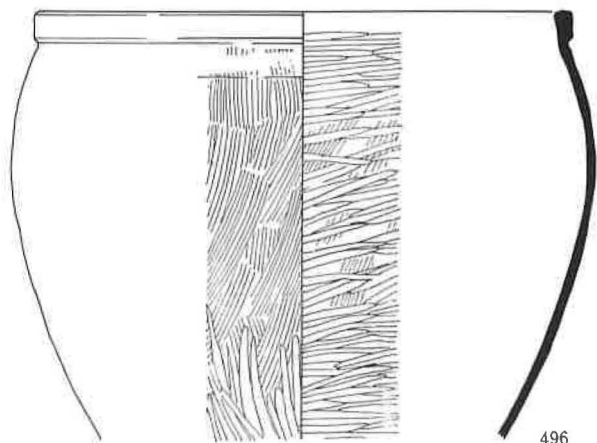


図版二十九 出土遺物実測図（土器類）



495

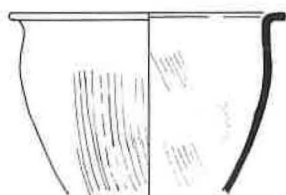
497



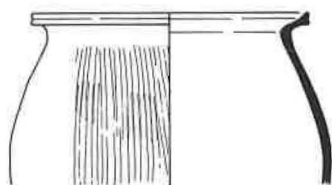
496



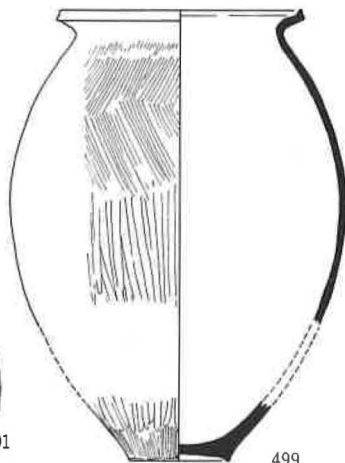
498



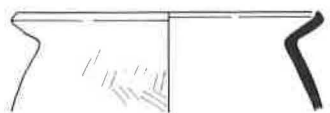
500



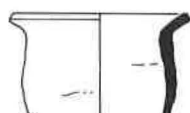
501



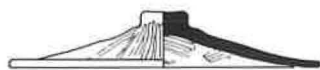
499



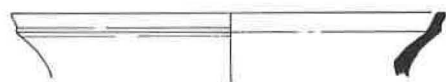
502



503



505



504



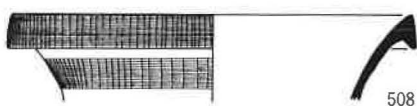
506



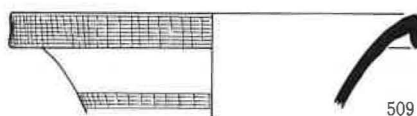
507



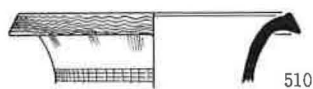
图版三十 出土遺物実測図 (土器類)



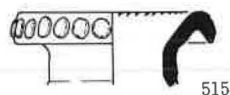
508



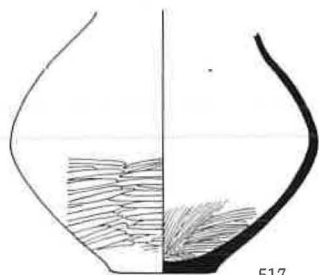
509



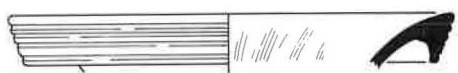
510



515



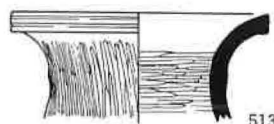
517



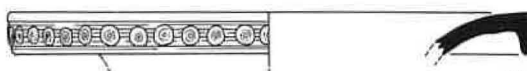
512



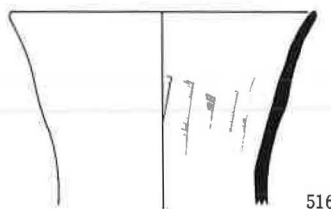
511



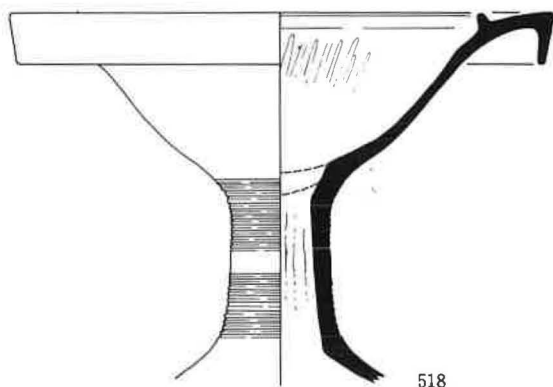
513



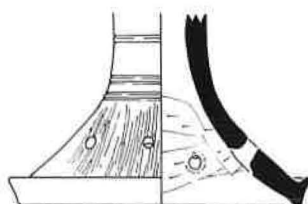
514



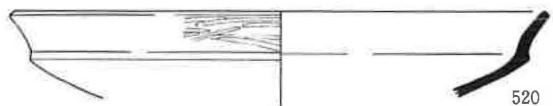
516



518



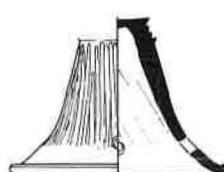
519



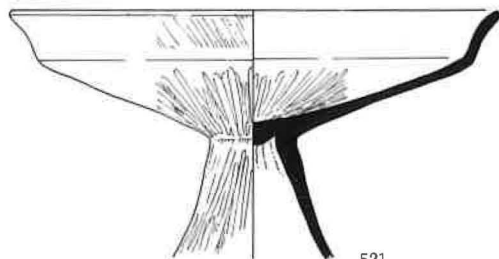
520



522



523

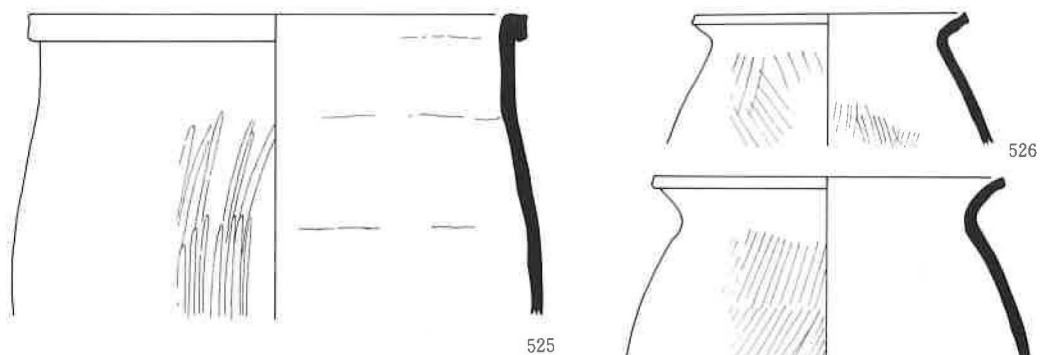


521



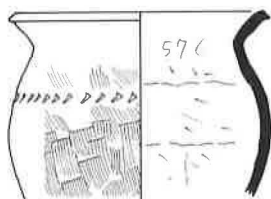
524



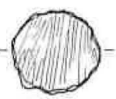


525

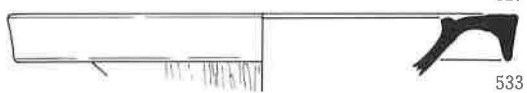
526



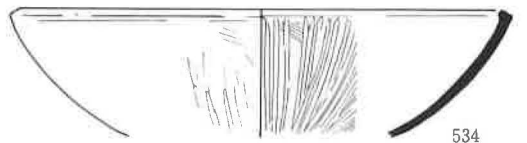
528



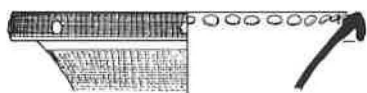
529



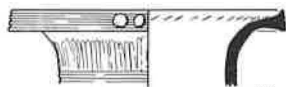
533



534



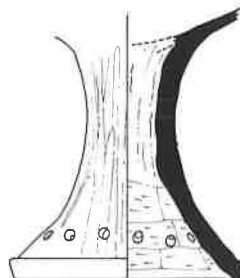
530



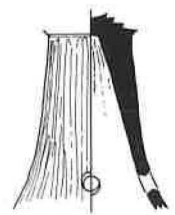
531



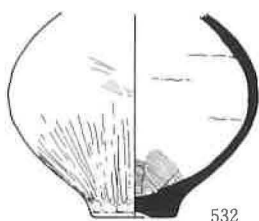
535



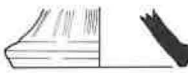
538



539



532



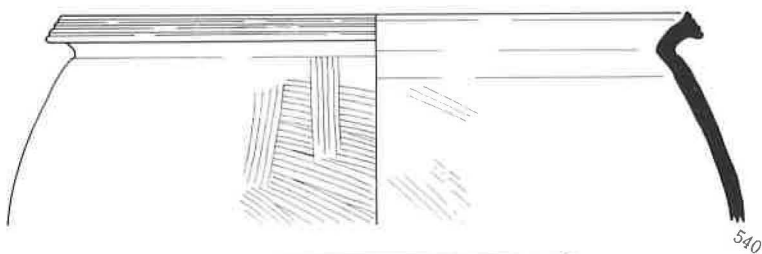
536



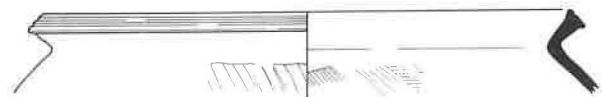
537



542



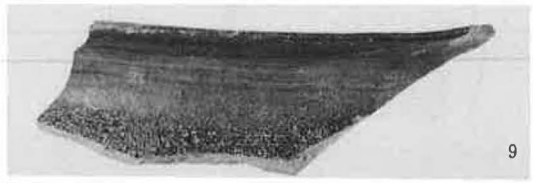
540

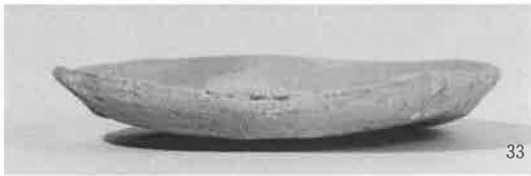
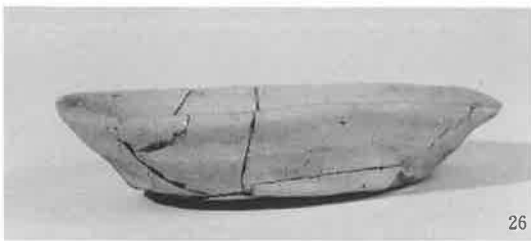
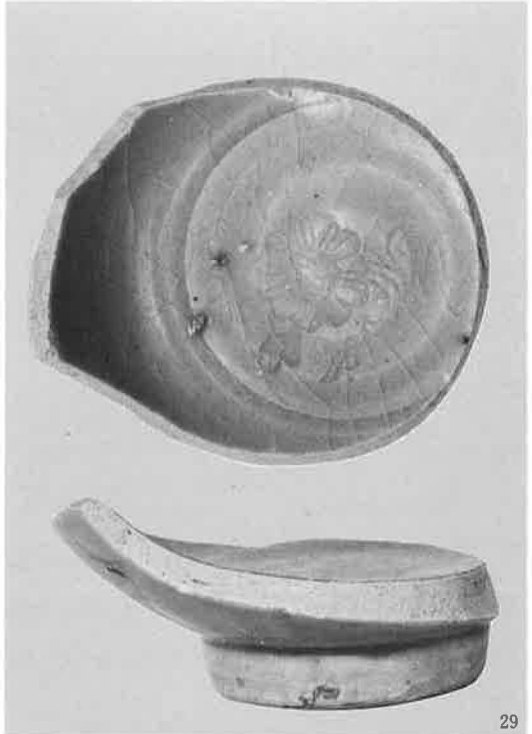


541



図版三十二 出土遺物写真(土器類)





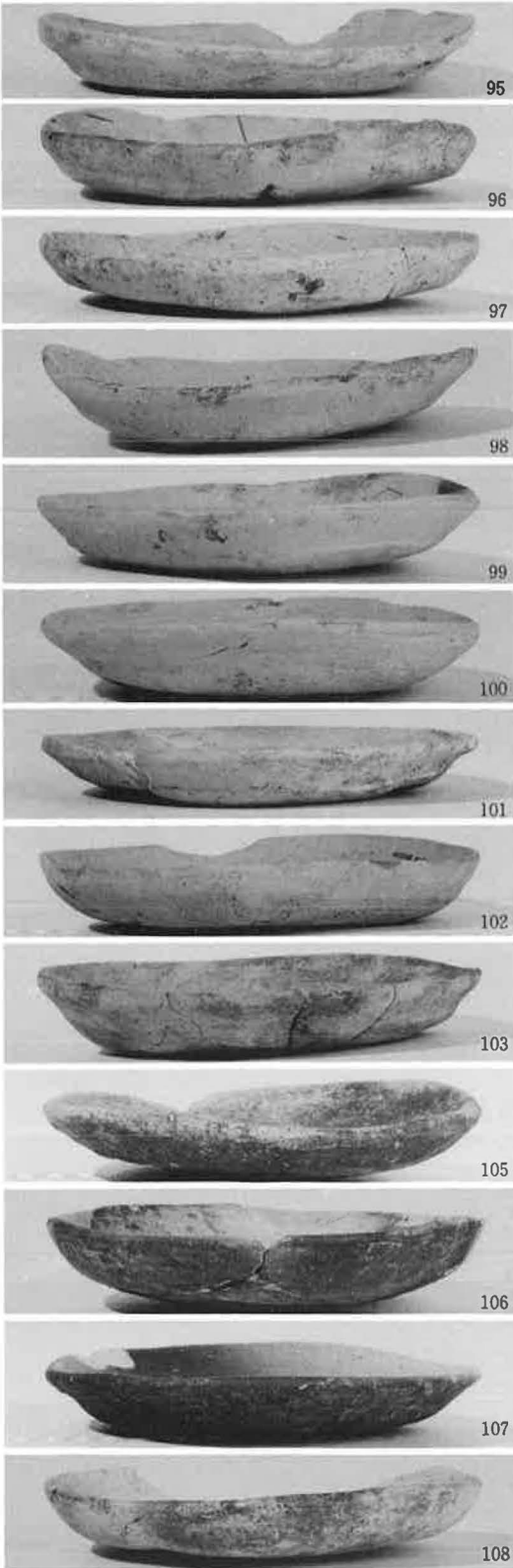
图版三十四 出土遗物写真(土器類)



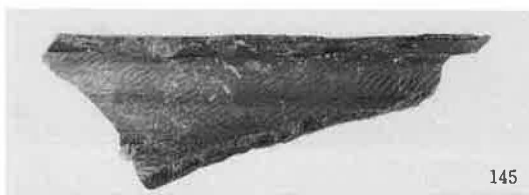
図版三十五 出土遺物写真(土器類・土製品・瓦)

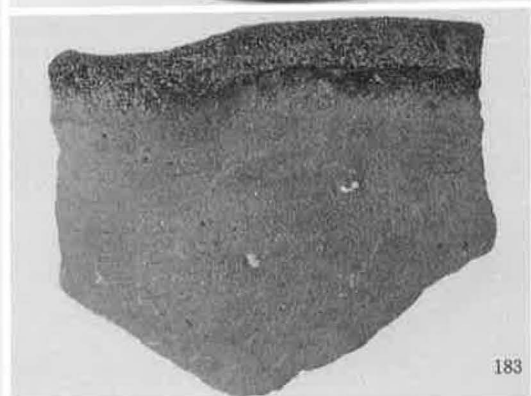


図版三十六 出土遺物写真(土器類)

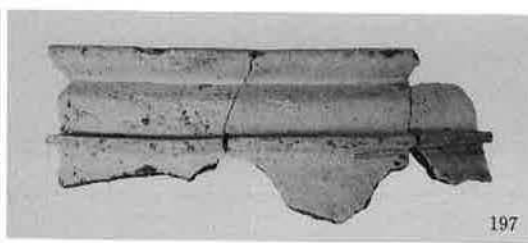






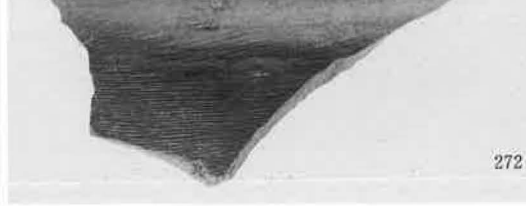


図版四十 出土遺物写真(土器類)





图版四十二 出土遺物写真(土器類)



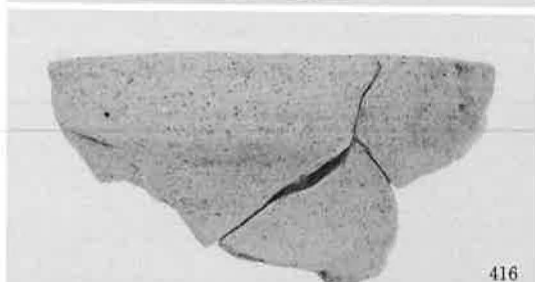
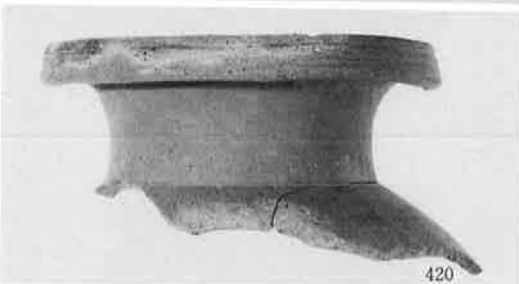


図版四十四 出土遺物写真(土器類)





図版四十六 出土遺物写真(土器類)

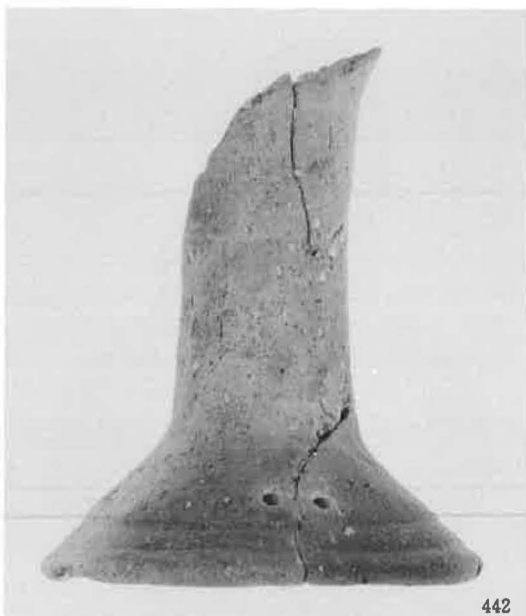




図版四十八 出土遺物写真(土器類)



441



442



439



437



438



444



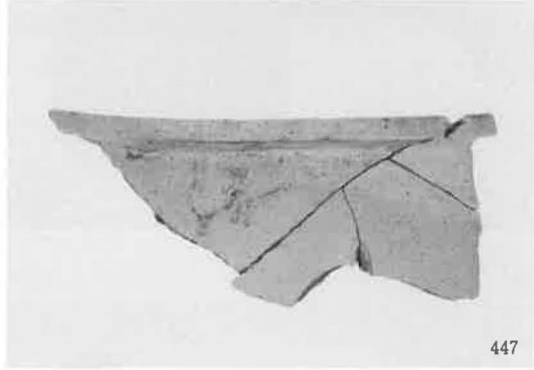
445



443



446



447

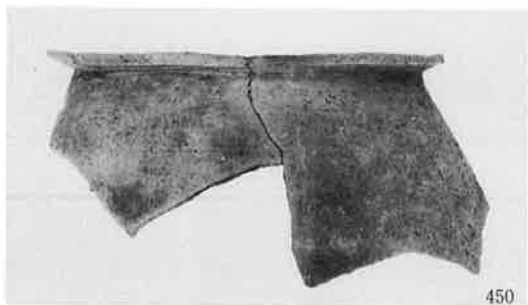


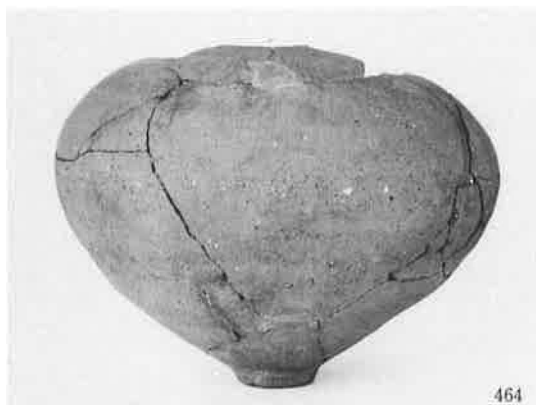
449



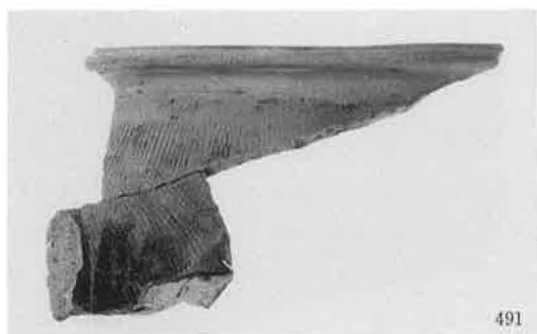
448

図版五十 出土遺物写真(土器類)





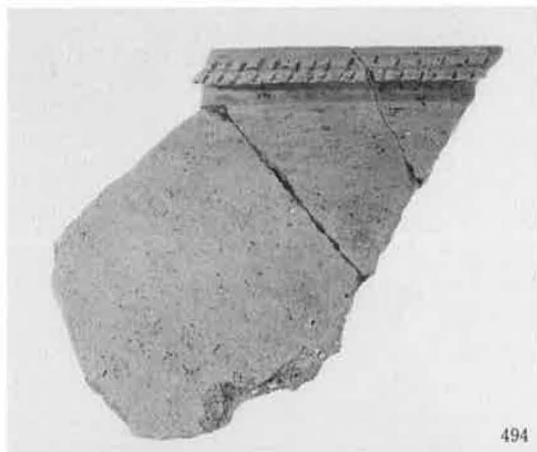




491



492



494



496



498

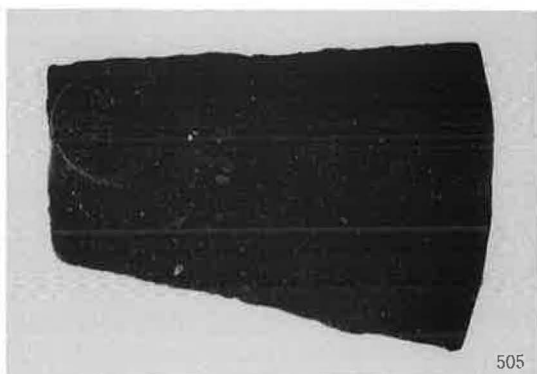


497



501

図版五十四 出土遺物写真(土器類)



西ノ辻遺跡第10次発掘調査報告書

— 遺物編 —

平成元年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会

財団法人 東大阪市文化財協会

印刷所 株式会社中島弘文堂印刷所